

玉ヲ攻クニ石ヲ以テシ金ヲ洗フニ鹽ヲ以テシ衣ヲ浣フニ灰ヲ以テス
ト亦タ此意ナリ

朶願 物ヲ食ハントシテ「ホシガル」狀ヲ言フ朶ハ動カスナリ願ハ「オト

ガイ易ノ願卦ノ言ナリ

多々益々辨ズ 凡テ何事ニヨラズ多ケレバ多イホド「ウマク」處置ス

ルヲ云フ漢ノ韓信ノ言ニ見ユ

卓犖 大ニ「スグレ」ルヲ謂フ

卓詭 スグレタル言ヲ云フ

泰山北斗 衆人中ニテ仰キ尊バル、人ヲ泰斗ト謂フ泰山ハ支那ノ

高山北斗ハ天ノ北斗 七星ナリ唐書ノ韓愈傳ノ贊ニ學者之ヲ仰ク

泰山北斗ノ如シ

託孤寄命 國王ノ孤ヲ托シ以テ政令ヲ委任スルヲ謂フ國君死シテ

其嗣子ヲタスケテ「ウマク」國政ヲ料理スルノ人ハ非常ナル大忠臣ナラ

テハ能ハヌコトナリ論語ニ曰ク以テ六尺ノ孤ヲ託ス可ク以テ百里ノ
命ヲ寄ス可シトアリ

蛇足 無駄事ヲ謂フ戰國策ニ或人アリテ近臣ノ仲間ニ酒ヲ賜フ三人

相約シテ曰地上ニ書シテ蛇ヲ畫カン先ツ成ル者ハ飲ムヲ得ント一人

先ツ成ル酒ヲ引キナガラ言ツテ曰ク吾能ク此ガ足ヲ作ラント既ニシ

テ他ノ一人ノ蛇成ル因テ前ノ一人ノ「厄」ヲ奪ヒテ其酒ヲ飲テ曰ク蛇ハ

モト足無シ汝何爲ゾ之ヲ畫クト

赧々然 顔ヲ赤クシテ恥ヅル形容詞

對偶聲律 宋代ノ一種變リタル時文ニシテ固ヨリ古文ニアラズ對

偶トハ句ト句トヲ對シテ「ナラベ」合スヲ謂フ猶ホ歌ナドノ五七ノ句ヲ

對スルガ如シ聲律トハ此ノ如クシテ文ノ調子ヲ合スヲ謂フ古文ハ字

數限無ク句モ亦タ長短相雜レリ別ニ句ヲ「ソロエル」ノ必用無シ此ノ時

文ハ多クハ四字一句六字一句ニ限リタレバ窮屈ナル作法ナリ然レト

モ試験ヲ受クルニハ此様ノ文ヲ作ラサレバ合格セザルナリ因テ志アル者ハ其弊ヲ知レトモ已ムヲ得ス作ルトナリ

團欒

一家相集リテ俗ニ謂フ「クルワ坐」ニナリテ樂ムヲ云フ

臺榭

土ヲ高ク積ミテ築キ上ケ其上ヲ平ニシタルヲ臺ト謂ヒ其上ニ屋ヲ作ルヲ「榭」ト云フ

端午

五月五日ノ節供(俗ニ謂フ「菖蒲節供」)ヲ言フ端ハ始ナリ午ハ「ウマ」ナリ五月五日ハ五月中ノ始メテ「ウマ」ノ日ニ當ルヲ以テ端午トハ言フナリ

フナリ

端倪

ス可ラズ 凡テノ事ニツキテ其始メ終リヲ窺ヒ知ル可ラサルヲ謂フ端トハ山顛、倪トハ水涯(水ノホトリ)ナリ(莊子大宗師篇ニ出ツ)

彈丸黑子ノ地

至テ小サク狭キ土地ヲ謂フ彈丸ハ小物ナリ黑子ハ「ホグロ」是亦タ小物ナリ因テ取リテ以テ譬ヘシナリ文選度信ノ賦ニ

地ハ惟レ黑子、城ハ猶ホ彈丸ノゴトシ

た ノ 部

彈劾

官吏ノ罪惡ヲ推窮指摘(ツマミアゲ)シテ天子ニ奏聞スルナリ

頽場

頽ハ「クツル」場ハ「コボツ」

澤國

河川多クシテ「ウル」ホヒ「アル」地方ヲ云フ支那ニテハ荆楚江淮ノ

地ヲ指ス即チ揚子江ト淮水トノ間

僮石ノ儲

貯蓄ノ少キヲ言フ僮トハ二石、石トハ一石ナリ(漢書楊雄傳ニ出ツ)

橐

チ垂レテ歸ル 底アルヲ囊ト云ヒ底ナキヲ橐ト云フ「サイフ」ヲ

空ニシテ歸ル意ニ用ユ

橐駝

即チ「ラクダ」ナリ脊ニ高ク起リタル肉アリ能ク物ヲ負フテ遠キ

ヲ行ク昔シ唐ノ時ニ郭氏ナル植木師アリ背肉ノ高クアガリタル姿ヲ「クダ」ニ似タリケレバ世人呼ビテ郭橐駝ト稱セリ因テ植木師ヲ橐駝師ト云フニ至レリ唐ノ柳宗元ノ種樹郭橐駝ノ傳ニ見ユ

謫居

謫ハ過ナリ罪ヲ得テ遠地ニ追ヒヤラレテ居ルヲ云フ

た ノ 部

斷金ノ契

契ハ交リナリ固キ交際ヲ言フ双方交際ノ固キハ金ヲモ
「タチキル」ホド堅固ナルヲ斷金ト言フ易ノ繫辭傳ニ二人心ヲ同クスレ
ハ其利金ヲ斷ツ同心ノ言ハ其臭蘭ノ如シトアリ(下句ノ意ハ双方間ノ
言語ノ美ニシテ「ウルハシキ」ハ恰モ蘭ノ香氣ヲ放ツガ如シ因テ金蘭ノ
契トモ言フナリ)

簞食豆羹

竹ニテ造リシ器ニ飯ヲ入レタルヲ簞食ト云フ豆トハ木
製ノ食器ナリ羹トハ「アツモノ」ヲ云フ(孟子ニ出ツ)

灘聲

水ノ「ハヤセ」ヲ云フ之ヲ「ナダ」ト譯セシハ誤リナリ

部

ちノ部

中原ノ鹿

帝位ニ譬フ中原ハ中國ニシテ其指ス所時ニヨリテ廣狹
ノ差アリ大略支那本部ト見テ可ナリ獵夫ガ互ニ鹿ヲ「エモノ」ニセント
争フ狀ヲ借リテ群雄ノ天下ヲ争フニ比シタルナリ史記淮陰侯傳ニ秦

ち

其鹿ヲ失ス天下共ニ之ヲ逐フトアリ

血ヲ喋ム

喋ハ蹠ナリ死人ノ血ヲ履ミツ戰爭スルコト(史記ノ淮陰侯
ノ傳ニアリ)

竹枝

其地ノ流行ノ俗歌ヲ詩ニ作り直シタルモノヲ云フ本ト小兒カ
竹節ニテ調子ヲ取リテ歌ヒシ故ニ竹枝ト名ヅク

竹頭木屑

屑ハ「クヅ」ナリ竹ノ切レハシ木ノヒキクヅ微細ノ小物ニ
譬フ晋ノ陶侃ハ平生竹頭木屑ヲ蓄ヘ置キテ竹頭ニテ釘ヲ製シ船ヲツ
クラヒ木屑ヲ以テ雪後泥地ニ散布シテ往來ニ便セリト晋書陶侃傳
ニ出ツ)

竹帛

書籍ニ名ヲノコスラ名ヲ竹帛ニ垂ルト云フ古ハ紙無シ竹ヲダ
又ハ「キヌ」ニ字ヲ書シタレバ然カ云フ(淮南子本經訓ニ出ツ)

竹馬ノ友

小供ノ時代ヨリ交ハルヲ云フ互ニ「タケウマ」ニ騎リテ遊
ヒ戯ムルノ義(晋書殷浩傳ニ出ツ)

部

沈吟 物事ヲ考へ思案スルヲ云フ

沈淪 淪ハ沈ナリ社會ノ下層ニ身ヲ沈ム、オチブレル、ロト

沈痾 久シク治セザル病

知音 謂ユル知己ニシテ親シキ友ヲ云フ昔シ伯牙ト云ヘル人琴ヲ鼓

ク名人ナリ鐘子期ト云ヘル人能ク之ヲ聽キ分ケテ其妙味ヲ知レリ鐘

子期死セシ後ハ伯牙其琴ヲ破リテ復タ鼓カズナリ又蓋シ己ガ琴音ヲ

知ル人ハ此人ヲ置テ他ニ無ケレハナリ(列子ニ出ツ)

長驅 長ク追ヒツメル、休マズシテ行ク

長揖 揖音イツ又夕音イフ手ヲ胸ニツケテ下ヘナデオロス禮ヲ云フ

本邦ニテ云ヘバ「エシヤク」スルニ當ル

枕藉 枕ハ「マクラ」ス「藉ハ「シク」人ノ重ナリアヒテ臥スヲ謂フ蘇東坡ノ

前赤壁賦ニ相與ニ舟中ニ枕籍ストアリ又夕物ヲ大切ニシテ傍ヲ「ハナ

サヌ」ヲモ枕藉スト言フ

重陽 陰曆ノ九月九日ノ節句ヲ云フ

柱ニ膠シテ瑟ヲ鼓ス 規則ニカ、ハリテト臨機應變ノ才無ヲ

云フ柱ハ琴柱ナリ即チ絃ノ下ニ入レテ絃ヲ高ク張リ強ムルモノ此ノ

柱ノ運用ニヨリテ琴ノ音ノ緩急ヲ調スルナリ然ルニ今絃ト柱トニ膠

付ケテ動かヌ様ニスレバ亦夕調子ヲ成サヌコト、ナルナリ琴瑟何レ

モ「コト」ナリ(史記ノ蘭相如ノ傳ニ出ツ)

胄子 胄ハ長ナリ胤ナリ因テ嫡子ヲ胄子ト云フ

值遇 君ガ臣ニ對シ恩ヲ以テ「カイガ」ラ云フ即チ優遇ナリ

俚々 「メクラ」ノ手引ヲ失ヒテ道ニ迷フ狀ヲ云フ即チ歸スル所無キヲ

形容ス(禮記ノ仲尼燕居篇ニ出ツ)

舳艫相ヒ銜ム 舳トハ舟ノ「ト」モ、艫トハ舟ノ「ヘ」サキ前舟ノ「ト」モト後

舟ノ「ヘ」サキト相ツ、トクヲ銜ムト云フ即チ多クノ舟ノ連ナルナリ

悵悵 悵ハ望悵ナリ

悵然 前條ニ出ツ

惆悵 志ヲ失フテ「ナゲク」ナリ前條參看

張本 後ニ言フベキ事ヲ豫アラカシメ前ニ「シタヂ」ヲ爲シ置クテ云フ文章上ニ

多ク此例アリ(左傳隱公五年ノ杜預ノ注ニ出ツ)

鳥革翬飛 家ノ構造ノ立派ナルヲ云フ革トハ翼ナリ翬トハ雉ナリ

鳥ノ翼ヲ張ル如ク雉ノ飛ノ如シノ意(詩經ノ斯干篇ニ出ツ)

朝三暮四 詐欺ノ手段ニテ人ヲ「ロウラク」スルヲ云フ莊子ニ昔シ狙

公トテ狙ヲ養フ者アリ或時狙ノ食物ヲ限ラント欲シ狙ニ謂ツテ曰ク

汝ニ茅ヲ與ヘン(茅トハ「トチ」ノ實)朝ニ三暮ニ四ト衆狙怒リテ承知セズ

狙公又曰ク然ラハ朝ニ四暮ニ三ヲ與ヘント衆狙皆ナ喜ンテ之ニ服ス

ト夫レ朝三暮四モ朝四暮三モ七ノ數ニ於テ増減ナシ而シテ或ハ怒リ

或ハ喜ブ此レ其愚ナル所ナリ世間此手段ニテ愚弄セラル者多シ豈只

夕狙ノミナランヤ

部 ノ ち

部 ノ ち

朝譴 朝廷ヨリ責ヲ蒙ムルヲ云フ

朝覲 諸侯天子ニ朝スルヲ云フ覲トハ下ノモノガ上ノ人ニ見ユルヲ

云フ又夕春見ヲ朝ト云ヒ秋見ヲ覲ト云フ

朝陽 山ノ東ヲ云フ瑞祥ノ意ニ取ル詩經ニ鳳凰朝陽ニ鳴クトアリ又

夕世ニモ珍ラシク優レタル行ヲ爲シタル人ニ譬ヘテ言フ「モアリ

朝噉 旭日ヲ云フ

雉堞 城上ノ女牆ヲ云フ女牆トハ丈低キ牆ナリ雉トハ三丈ヲ云フナ

リ

馳騫 「ハスル」ナリ騫モ「ハスル」義

稠人廣坐 稠人トハ人ノ衆キヲ云フ廣坐トハ衆人ノ居ル所ヲ云フ

即チ澤山ノ人ノ寄リ合フ中

徵逐 心安ク相ヒ往來スルナリ(韓退之ノ柳子厚ノ墓誌銘ニアリ)

駐蹕 天子ノ車駕ヲ留ムルヲ云フ

脚蹶チユツ 行テ進マサル状ヲ云フ即チ心ニ決セズシテグヅグヅスルコト

詩經ノ靜女篇ニ首ヲ搔テ脚蹶スト

儔侶チユウリヨ 「ダグイ」トモガラ

儲副チユフ 太子ヲ云フ「アトツギ」

黜陟チユツシツ 黜ハ退ナリ陟ハ進メ升スナリ賞罰進退スルコト

闖入チンニユツ 闖トハ頭ヲ出シテ窺フ義ナリ突然形ヲ見ハシテ入り來ル義ニ

疇昔ノ夜チユウセキ 疇ハ發語ニシテ意味無シ昔ハ前日即チ昨夜ト云フコト

魑魅罔兩チミモウリョウ (禮記ノ檀弓篇ニ出ツ) 山中ノ怪物ヲ魑魅ト曰ヒ水中ノ怪物ヲ罔兩ト曰フ(左傳

宣公ノ條ニ出ツ) 前條ノ脚蹶ニ同シ「タメラフ」状ナリ

踴躍チユウチヨ 聳立チンリツ 聳ヘ立ツナリ

つノ部

月ニ喘ツキ 風俗通ニ吳牛日ニ苦ム故ニ月ヲ望ミテ喘グドアリ此ハ疑

心アリテ物ヲ畏ソル、深キヲ言フ吳牛ハ水牛ニシテ吳ハ南方ナレバ

暑氣甚シ此牛熱體ノ地ニ生長ス故ニ月ヲ見テ是レ日ナルカト疑ヒ恐

レテ喘グナリ喘トハ氣ガ急ニシテ呼吸ノセハシキナリ

追蹤ツイシヨウ 足跡ヲ追フテ尋テ行クナリ蹤ハ跡ナリ

通家ノ好ツツカ 先代ヨリ親密ニ往來交際シタル好ヲ謂フ

痛快ツツクワイ 痛トハ甚ノ意ナリ

椎埋屠狗ツイマイトク 椎音ツイ推音スイ字異レリ混ス可ラス椎ハ槌ニ同シ槌

ニテ人ヲ擊殺シテ之ヲ埋ムヲ椎埋ト曰フ屠狗トハ狗ヲ殺シテ其肉ヲ

賣ルヲ曰フ戰國時代ハ狗肉ヲ食フハ亦タ羊豕ト異ナラズ因テ賤惡ノ

業ヲ爲ス者ヲ指シテ言フ宋ノ蘇洵ノ高帝論ニ埋屠狗ノ人トアリ

頭陀ツツ 佛語ナリ行脚僧ヲ云フ即チ諸方ヲ旅行シ食ヲ乞ヒ野宿ナドシテ修行スル者

てノ部

天府テンブノ土 府トハ物ノ集マル所ヲ言フ天トハ人力ニアラザルヲ言

フ天然ニ産物ノ集マル場所ヲ言フ即チユタカニ富タル地戰國策ニ出ツ

天網テン恢ホウ々ク疎ソニシテ漏モサズ 天ノ人ニ對スル報ヒハ必ス漏レザ

ルモノナルヲ言フ恢トハ網ノ目ノ廣大ナルコト疎トハ目ノアラキコト天ノ網ハアラキ様ナレトモ善惡ノ應報ハ漏ラスコトナシ此ハ老子ノ語ナリ

天倫テンリン 倫トハ次第ナリ天然ノ順序次第ト言ヘバ即チ兄弟ヲ指シテ言

フ兄弟ドモガ寄り合ヒテ樂ムヲ天倫ノ樂事ト言フ李白ノ春夜桃李園

ニ家スル序ニ天倫ノ樂事ヲ序ストアリ

天縱テンシヨウ 縱トハユルス義ナリ即チ天ヨリユルシ與ヘタルモノ天然ノ才

アルヲ天縱ノ才ト言フ論語子罕篇ニ曰ク固ヨリ天之ヲ縱ス將タ聖又タ多能ナリト

天潢テンコウ 天河ニシテ即チアマノカハナリ帝室ニ譬フ因テ我國ノ平氏源

氏ハ本ト皇胤ナレバ天潢分派ト言フ即チ天河ノ支流ノ意ナリ魏ノ曹固ノ表ニ疏派天潢トアリ

天涯テンカイ地角チカク 天涯トハ天ノ一方地トハ地ノ邊隅ナリ因テ甲乙兩人

ノ相隔タリテ遠キヲ一ハ天ノ涯ニアリ一ハ地ノ角ニ在リト言フ唐ノ韓退之ノ十二郎ヲ祭ル文ニアリ

天步テンブ艱難カンナン 歩トハ運行ノ義ナリ即チ時運天運ノ義ナリ天運衰微シ

テ時ノ難メルヲ言フ詩經白華篇ニ出ツ 天爵テンシヨウ 爵位ハ貴キモノナリ人ヨリ授與スルモノヲ人爵ト言フ即チ現

今ノ公侯伯子男ノ如キモノナリ天ヨリ賦與セラレタル者ヲ天爵ト言フ即チ仁義道德ヲ言フ然ラバ道德ヲ全フスル人ハタトヒ身ニ人爵ナシト雖モ天爵ハ立派ニアルモノナリ孟子ニ出ツ

泥濘ドロドロ 泥ノアル地カヌカルミ

佔畢チツヒツ ナ呻ウレス 單ニ書籍ヲ誦讀スルノミニシテ其意義ヲ熟知セサル

ヲ言フ世間ニ此様ノ學者多シ估トハウカ覘ヒ見ルナリ畢トハ竹簡ナリ古ハ紙ナシ因テ竹フダヲ綴リテ書籍トス呻トハウナル即チ誦讀スルナ

リ(禮記ノ學記ニ出ツ)

定策ノ功テイサクノコウ 天子ヲ擁立スル功ヲ言フ策トハ竹簡ニシテ竹フダニ其

ヲ書シテ宗廟ノ神靈ニ告グナリ(漢書張安世ノ傳ニ出ツ)

典刑テンケイ 典トハ常ナリ國ノ常刑ヲ言フ

邸閣テイカク 三國志ニ諸葛孔明邸閣ヲ治ムトアリ此ハ米ヲ藏スル處ヲ言フ

通常ノヤシキノ義ニアラズ

部 ノ て

恬然テンゼン 恬トハ安ナリ

貞珉テイジン 石碑ヲ言フ珉トハ美石ナリ貞トハ固ナリ

底止テイジ 底トハ至ナリ其事ノ至リ止マル所

亭午テイブ 正午ヲ言フ亭トハ至ナリ午トハ日中ナリ

殄滅テンメツ 殄トハ絶ナリ「ボロボシツクス」

倜儻テイトウ 大志アリテ人ニスグレタルヲ言フ(倜儻ニ同シ)

牴牾テイコ 違ヒ戻リテ合ハザルヲ言フ

涕泗テイシ 横集オウシツ ス 涕泗トハ涙ナリ目ヨリ出ルヲ涕ト云ヒ鼻ヨリ出ルヲ

泗ト云フ盛ニ出ルヲ横集ト云フ

惕厲テイレイ オソレ、ハゲム

渟蓄テイナク 水留マリ蓄フ所ヲ言フ又夕人ノ學問ノ積ミ蓄フルニモ用フ

棣萼テイガク 棣トハ常棣花トテ櫻桃ノ稱類ナリ萼トハハナブサナリ此花至

テ美シケレバ兄弟ノ美ナルニ譬ヘタリ又夕棣鄂ト云フ語アリ(同義ナ

リ(鄂ハ美ガ外ニ見ハル、貌詩經常棣ノ篇ニ出ツ)

鼎鑊 ダイクワク 三足アルヲ鼎ト云ヒ足無クシテ大ナルヲ鑊ト云フ何レモ食物

ヲ烹ル具ナリ然ルニ戰國ノ時ニ至リ之ヲ以テ人ヲ烹殺ス器トセリ故ニ「鼎鑊ニ就ク」又「刀鋸鼎鑊」ナド云フ語アリ我國ノ「釜入ノ刑」ナリ(宋ノ

蘇軾留侯論ニ出ツ)

跌宕 テツトウ 此ハ人ヲ評スル語又タ文章ヲ評スル語ニ多ク用ユ勢ノ強キ義

ナリ(跌宕ト音義相同シ(安佚ノ時ハ音イツ)

傳舍 デンシヤ 旅舍を言ふ(史記に出ツ)

傳播 デンハ 傳ハ續ナリ布ナリ播音ハニシテ「ハン」ニアラズ布ナリ散ナリ因

テ物事ノ四方ニ「ツタハリ」廣ガルヲ謂フ

殿最 デンサイ 功ノ上等ヲ最ト云フ因テ功最ノ語アリ殿トハシンガリノ義アレバ功ノ下等ヲ言フ漢書ニ丞相其殿最ヲ課スト

敵愾 テキガイ 左傳ニ諸侯、王ノ愾スル所ニ敵ストアリ愾トハ怒ルナリ天子ノ

尤モ怒リ玉ヲ所ノ者ニ向ツテ敵スルノ意ナリ故ニ勤王慷慨ノ士ハ即チ敵愾ノ氣ニ富メル人ナリ日露戰役ニ出タル人ハ即チ天子ノ恨ミ怒ラル、露國ニ向ツテ之ニ敵シ之ヲ討シタルノ人ナリ但シ出征セザルモ此氣アル者ニモ用フ

點心 テンシン 食時ト食時トノ間ニ物ヲ食フヲ言フ即チ小食スルコト(唐書ニ

出ツ)

點頭 テントウ 頭ヲツク「ウナツク」コト

點竄 テンザン 詩文ナドヲ改メ正スコト

諦視 テイシ 審カニ視ル魏志明帝紀ニ君之ヲ諦視シテ誤ル勿レト

覲然 アンゼン 恥ヲ知ラズシテ面タリ人ヲ見ルノ貌ナリ(爾雅釋言疏ニ面見人

之貌トアリ)詩經ニ覲タル面目アリトアリ

輾轉 テンゼン アチラヘ「コロゲ」コチラヘ「コロゲル」ヲ謂フ輾ハ轉ナリ又タ轉ノ

半ナリ詩經ニ輾轉反側トアリ

轍^{テツ}鮒^フノ急^{キユウ} 人ノ非常ニ困窮シタルニ喩フ轍トハ車輪ノ地ヲ^キシリシ跡ナリ其ノ中ニ在リテ困シミ居ル鮒ナリ莊子ニ云フ莊周ガ貧乏シテ米ヲ監河侯ト云フ人ニ借リタキ由ヲ云ヒシニ侯曰ク我カ借金ヲ取リ立ツル迄待タレヨ然ラバ三百金ヲ汝ニ貸シ與ヘント莊周怒リテ曰ク周、昨日途中ニテ私ヲ呼フ者アリ何物ナラント視レハ車轍中ノ鮒魚ナリ周之ニ向ツテ曰ク鮒魚來レヨ汝ハ何ヲシテ居ルカ鮒曰ク我ハ東海ノ波臣ナリ(東海ノ波臣ハ鮒ノ異名)今マ此所ニテ困メリ君ヨ少シノ水ヲ以テ我ヲ活シ玉ヘト周曰ク承知セリ我ハ此ヨリ南、吳越ノ國ニ行キ王ニ見エテ其由ヲ云ヒ西江ノ水ヲ此所迄テセキアゲテ汝ヲ迎ヘン暫ラクノ間待タレヨト鮒魚怒リテ曰ク吾、我ガ處ル所ヲ失ヒテ如何トモスベカラズ今マ若シ斗升ノ水ヲ得レハ活キルヲ得ン然ルニ君ノ言、此ノ如シトテモ間ニ合ハズ君ノ迎ヘニ來ル時ハ我ハ既ニ漁夫ノ獲ナラン故ニ此所迄迎ヘニ來ルヨリハ我ヲ魚肆ニ索メラル方ガ早キナリ

ト(魚肆トハ魚ヲ賣ル店ナリ)
 纏頭^{マントウ} 今ノ藝妓ナドニ其席上ニテ金錢物品ヲ與フルヲ俗ニ「ハナ」ト云フ即チ是レナリ纏トハ「マ」トフナリ昔ハ衣服ヲ其モノノ頭ニ「マ」トヒテ與ヘタリ故ニ然カ云フ(通鑑後梁記ニ出ツ)
 躑躅^{チキョク} 行カントシテ進マサルナリ躑躅^{チキョク}、踏^{チキョク}ニ同シ(チ部參着)一進一退其所ヲ去ラザル意ナリ後漢書隗囂傳ニ三輔ニ躑躅スルノ語アリ
 蹶然^{ケツゼン} 大笑ノ形容(文選、左思ノ吳都賦ニ出ツ)
 刀筆ノ吏^{テウペンノシ} 小役人ヲ言フ古ハ紙無シ竹簡ヲ用フ、筆ニテ書ス、誤リアラハ刀ニテ削ル因テ筆算ニ從事スル官吏ヲ言フ史記蕭相國世家ニ何、刀筆ノ吏ト爲ル
 刀圭^{テウケイ} 醫者ヲ言フ刀トハ剃刀ノ意、圭トハ主壁ノ意、今ノ藥ヲモル匙ニ

當ル古ノ匙ノ形ハ剃刀ノ如ク其上ハ圓クシテ玉ノ如シ故ニ之ヲ刀圭ト云フ(委シキコトハ池北偶談ニ出ツ)

刀鋸鼎鑊

古ヘ人ヲ刑スル器ナリ鋸ハノコギリ鼎鑊ノ條ニ出ツ

土テ卷キ重テ來ル

風カ土砂ヲ卷キ揚グルノ勢ヲ以テ再ヒ推シ

ヨセ來ル唐ノ杜牧ガ項羽ヲ詠セシ詩ニ卷土重來未可知ト

土宜 土宜其土地ノ宜シキ產物

土崩瓦解

戰ニ敗レ亂レタル狀ハサナガラ土ノクヅレタル如ク瓦

ノチラカリテ落ツルカ如シ

斗牛

北ハ北斗ノ七星七個相連ル牛ハ牽牛星ナリ

斗折蛇行

道路ノ屈曲シタルヲ言フ斗トハマスナリ其形四角ニ屈

折ス又タ蛇ノウチリ行ク如シ

斗筭ノ小人

斗ハ一斗マスナリ筭ハ一斗二升ヲ容ル竹製ノマスナ

リマスデ計ルニモ足ラヌ小サキ人物度量ノ小ナル人論語ニ噫斗筭ノ

人何ゾ算フルニ足ント

同袍

袍トハ長キ上衣ナリ朋友互ニ衣類ヲ共ニシテ相融通ス因テ至

テ親蜜ナル學友ハ即チ同袍ノ友ナリ詩經ノ秦風ニ子ト袍ヲ同ストア

同文ノ國

此語ハ本ト一統セラレタル國ト云フ義ナリ現今ハ其義

ヲ廣メテ日本ハ支那ト同文ノ國ナリト言フ文トハ字ナリ中庸ニ今天

下車軌ヲ同シ書文ヲ同フストアリ軌トハ兩轍ノ間ヲ言フ轍トハ車輪

ノキシリテ土地ニ印スル迹ヲ言フ故ニ轍ト軌ト義異レリ混スヘカラ

ズサテ車ヲ造ルニ輪ノ大小廣狹ハ皆ナ軌ノ廣狹ニヨリテ定ムルナリ

因テ車ノ製法同シキヲ軌ヲ同フスト云フナリ

吐哺握髮

政府ノ爲メニ下ヨリ賢人ヲ得ルニツキテ注意ノ深キヲ

謂フ史記魯世家ニ周公ハ成王ヲ輔ケテ政事ヲ攝セシガ一沐ニ方リテ

三タヒ髮ヲ握リ一飯ニ方リテ三タヒ哺ヲ吐キテ賢人ヲ優待セリ沐ト

ハ髪ヲ洗フ哺トハ口中ニアル食物ナリサテ賢人が尋チ來ルト云ヘバ
三度ニテモ四度ニテモ髪ヲ洗フヲ止メ又タ口中ノ食ヲ吐キ出シテ其
人ニ會見セラレタリトアリ轉シテ政事ニ忠勤ナル義トス

杜撰

俗ニ此字ヲ「ツザン」トヨム即チ據リドコロナク妄ナルヲ謂フ此
語ノ出所ニツキテハ種々説アリ余ハ左ノ説ヲ以テ正解トナス野客叢
書ニ杜默(人名)詩ヲ爲クル多ク律ニ合セス(規則ニ合ハヌ調子ハツレ)故
ニ事ノ格ニ合ハザル者ヲ言フテ杜撰ト爲ス

呐喊

トキノ聲ヲアゲテサケブ

秃筆

毛先ノキレタレ筆

秃頭

ハゲアタマ

吞舟ノ魚

モ 螻蟻ニ制セラルル 如何ニ賢シキ人モ我が立場ヲ失
ヘハ「ツマラナイ」小人ニダモ制セラルルヲ言フ螻蟻ハ「アリ」舟ヲ吞ム程
ノ大魚ニテモ大切ナル水ヲ離レナバ小虫ニダモ苦メラルル説苑ニ曰ク

部

ノ

こ

吞舟ノ魚蕩シテ而シテ水ヲ失ヘバ螻蟻ニ制セラルト

兔園冊

程度ノ卑キ書物即チ田夫牧豎ナドニ教フル書物ナリ(田夫牧
豎トハ田間ニ働ク小作人、牛馬ヲ牧養スル童子ナドヲ云フ)昔ノ黄標紙、
赤標紙ノ謂ヒナリ(兔園トハ収豎ノ義ヨリ出ツ)

虎ヲ畫キテ狗ニ類ス

何事ニヨラズ「人マテ」ラシテ「ヤリ損」フヲ言
フ後漢ノ馬援ガ兄ノ子ヲ誡ムル書ニ曰ク謂ユル鶴ヲ刻ミテ成ラサルモ
尙ホ鷺ニ類スル者ナリ謂フル虎ヲ畫キテ成ラサレハ反テ狗ニ類スル
者ナリト虎ト狗トハ其形チ大ニ似ズ故ニ其人ニ似ザルノミカ大變ニ
相違シタル「ツマラナイ」人物トナルニ譬フ(コ部鶴ヲ刻ス條參着)

虎嶋ヲ負フ

俗ニ謂フ鬼ニ金棒ノ意ナリ併シ多ク強惡ノ意ニ用フ
嶋トハ山ノ「マガリ」タル隈ヲ言フ即チ虎ガ後ニ山曲ヲ「ヒカヘ」テ人ニ「ホ
エル」ナリ人此ヲ如何トモスル能ハヌ孟子ニ出ツ

東道主

道案内ヲスル主人ヲ言フ左傳ニ鄭ガ秦ノ東道主ト爲ルト

部

ノ

こ

アリ鄭ハ東ニシテ秦ハ西ナレバ若シ秦ガ兵ヲ以テ東方へ出カケタ時ハ鄭ハ其案内手引ヲ爲ストナリ

洞簫 底ナキ簫ヲ言フ

度外ニ置ク 我カ思慮外ニ捨テ置テ氣ニカケヌナリ度ハ思慮ノ義ナリ

ナリ

咄嗟ノ間 一呼吸ノ間ト云フニ同ジ僅カノ時間ヲ言フ

咄々怪事 咄々トハ驚キ怪ムナリハテナリアヤシキ事ヨ

桃李言ハサレトモ下自カラ蹊ヲ成ス 此ハ支那ノ諺ナリ

桃李ハ物言ハチドモ自然ニ人ヲ樹下ニ引付ケテ其花ヲ愛賞セシム故ニ樹下ガ人ノ足跡ニテ自然ニ小路ガデキル人間モ亦然リ物數言ハヌ

トモ徳ガアレバ自然ニ人ガ「ナツキ」來ルモノナリ史記ノ李廣傳ニ出

ツ

荼毒 荼ハ苦菜トテ「ニガキ」野菜ナリ因テ人ヲ苦シメ毒スル意ニ用フ

部 ノ 部

倒行逆施 倒マニ行ヒ逆ニ施ス即チ行ノ道理ニ戻レルヲ言フ併シ己ムヲ得スシテ不道理ヲ行フト云フ義一用キルコト多シ史記ノ伍子胥

ノ語ナリ

徒法 徒トハ空ナリ法律アレトモ實際行ハレヌヲ指シテ言フ孟子ニ

出ツ

唐突 突然ニ解レ犯スヲ謂フ即チ不意ニツキサハル義ナリ而シテ無

禮ノ意ヲ含ム

凍餒 凍ハコトエル餒ハウエル

偷薄 薄情ナルヲ言フ偷ハ薄ノ義ナリ

陶朱猗頓ノ富 大ニ財産アル人ヲ言フ越ノ范蠡ハ大臣ヲ退キテ

陶地名ニ至リ自カラ陶朱公ト稱シ産業ヲ營ミシニ非常ニ錢ヲ儲ケ王

公ノ富ニ比スルニ至レリ此ニ猗頓フル人アリテ之ヲ聞キ往テ蓄財ノ

術ヲ問ケルガ范蠡之ニ牧蓄業ヲ勸メケリ猗頓其教ニ順ヒテ牛羊ヲ養

と 百八十一

部 ノ 部

ヒシガ是モ亦々大ナル財産ヲ成セリトゾ賈誼ノ過秦論ニ仲尼墨翟ノ賢陶朱猗頓ノ富有ルニ非トアリ

陶然 樂シキ形容

淘汰 汰音タイナリ今マ普通ニダト呼ブ姑ラク之ニ從フ淘汰ハ洗濯ノ義ナリ惡シキヲ棄テ、一アラヒアラフナリ又々淘汰ニ作ル後漢書

陳元傳ニ學者ノ累惑ヲ淘汰スト(累惑ハ深キ惑ヒナリ)

屠狗 日本ノ穢多ノ如キモノ(ツ部椎埋屠狗ノ條ニ出ヅ)

菟裘 隱居シテ退クヲ言フ昔シ魯ノ隱公ガ退隱セシ地名ヲ菟裘ト云ヘリ此ニ本ヅク左傳ニ出ヅ

棟蓑 說文ニ屋棟ナリ左傳襄公二十八年ニ廟桷ヲ援キテ蓑ニ動クト

棟梁 重キ責任ニ、タユラル、程ノオアル人ヲ棟梁ノ器又々棟梁ノ臣ト言フ我カ武内宿禰ノ如キ大臣ノ腕前アル人ヲ言フ棟ハムナギ梁ハ

「ウツバリ」何レモ重キニ、タユル材木ナリ俗ニ言フ肝煎ナドモ棟梁ト謂

部 ノ こ

ヲ得ベシ南吏陸凱傳ニ豫章檜柏小ト雖モ己ニ棟梁ノ器アリト

兜牟氣象 兜牟ハ兜鍪ニ同シカブトナリ武士ノ氣象ヲ言フ

童謠 童兒ノ唱フル流行歌

童卵 幼童ノ時ヲ言フ卵トハ頭髮ヲ左右ニ分ケテ、ククリタル狀ヲ寫

セシ字ナリ(ツ部總角ノ條參着)

湯沐ノ邑 貴族ガ其地ノ租稅ヲ以テ湯ヲツカフ費用ニ供ストノ意

ヨリ名ツケシナリ史記ニ出ヅ

登遐 登ハノボル遐ハ遙カ天子ノ崩御ヲ言フ列子ニ出ヅ

登龍門 人ノ出世スルヲ謂フ又々試験及第ノ榮ニ譬フ後漢書李膺

傳ニ膺聲名ヲ以テ自ラ高トス當時ノ士ガ膺ニ接見スルヲ得バ名ケテ登龍門ト爲ストアリ龍門ハ山名ニシテ黃河其中ヲ穿テ流ル水尤モ急ニシテ頗ブル難所ナリ鯉ガ其上ニ泳ギ登ルヲ得バ化シテ龍トナルト此レ鯉ノ出世ヲ以テ人ニ譬ヘタルナリ

部 ノ こ

棠棣 櫻桃ノ種類詩經ニ出ツ

塗炭ノ苦 塗ハ泥ナリ炭ハ炭火ナリ猶ホ水火ノ苦ト云フニ同シ人

ノ非常ナル苦ヲ言フ書經ニ民塗炭ニ墜ツト

塗抹 小兒ナドガイタヅラニ書物ノ上ニ墨ヲヌリ又ハ線ヲ引クヲ言

塗鴉 フ鴉ハカラスナリ紙上ニ墨ヲヌリタル狀ガ黒クシテ字体ヲ辨

セサルナリ字ノ書キ方ガ拙ナルニ譬フ滿幅塗鴉ノ語アリ按スルニ鴉

トハ單ニ黒ノ義ニ取リシナラン

瘠痛 疲レヤミテ歩行デキヌ

頓足 足ヲ踏ミ鳴ラシテ勇ミタツ狀ヲ言フ漢書楊惲傳ニ頓足起舞ス

跳梁 鼠ナドノ飛ビハチルヲ言フ人ノ橫暴ニモ譬フ莊子ニ東西ニ跳

梁スト

當路ノ人 政府ノ肝要ナル地位ニ居ル大臣ナドヲ言フ

部

滔々者天下皆ナ是レナリ 滔々ハ天下亂レタル狀ヲ言フ天下

亂レテ本ニ返ラサルハ猶ホ流水ノ潰亂シテ収マラサル如シノ意ナリ

蓋シ滔々ノ字ハ數義アリ一ハ水ノ廣大ナルニ用ヒ一ハ水ノ盛ニ流ル

ニ用フ又タ水ノハビコルニモ用フ

圖南ノ翼 大ナル志業ヲ有スルニ譬フ莊子ニ鵬ト云フ大鳥アリテ

其背ハ泰山ノ高キガ如ク其翼ハ天ニ垂レタル雲ノ如ク然ルニ此鳥今

ヤ將ニ南ヲ圖ラントスト南ヲ圖ルトハ南方ヘ飛ヒ行ク計畫ヲ言フ露

國ガ北ヨリ南ニ手ヲ出シ滿州ヨリ次第ニ東洋ニ發展セント目論見シ

ハ則チ圖南ノ好適例ナリ

銅臭 金力ニテ官位ヲ得シ人ヲアザケル語ナリ然レトモ一モニモ金

錢々々ト口ニスル人ハ皆ナ是レ銅臭アリト謂フベシ銅臭トハカネク

サシナリ後漢ノ崔烈カ錢五百萬ヲ入レテ司徒官名ト爲レリ其子鈞ニ

問フニ世間ノ噂ヲ以テス鈞曰ク人其銅臭ヲ嫌フノミト別ニ世人ハ何

部

部

トモ言ハヌ只ダ「アナタ」ノ金臭ヲ惡ムバカリダ

駑鈍 駑トハ下等ノ馬ナリ自カラ才無キヲ慊遜シテ言フ語ナリ

駑馬十駕 才無キ者モ怠ラズ勉ムレバ何シカ大才アル人ニ及ブニ

至ルノ意ナリ荀子ニ曰ク驥一日千里、駑馬十駕スレハ則チ亦タ之ニ

及ブトアリ「スグレタル馬ハ一日ニ千里ヲ歩ム下等ノ馬ニテモ歩ミテ

ハ一息イレ又タ歩ミテハ一息入レ十返スル迄ニハ千里ニ至ルトナリ

撞着 自家撞着ノ條ニ出ツ

瞠然 驚キ畏レテ人ヲ直視(ミツメル)スル狀ヲ言フ

瞠若 前條ニ同シ

瞠目 前條ニ同シ

獨眼龍 英雄ニシテ一眼ノ人ヲ言フ支那ノ李克用、日本ノ伊達政宗是

頭髮種々 種々トハ短キナリ年老テ種々トナル

螻螂ノ斧 己レヲ知ラスシテ人ヲ侮リ進ムヲ知リテ退クヲ知ラサ

ル者ニ譬フ莊子ニ猶ホ螻螂ノ臂ヲ怒ラシテ以テ車轍ニ當タルカゴト
シト螻螂(カマキリ)ガ「ヤセウデ」ヲ擧ケテ車ニ向テ敵スルガ如シノ意ナ
リ斧トハ「カマキリ」ノ手ヲ擧ゲテ物ニ打テ向フ所ノ狀ヲ形容シタルオ

韜晦 韜ハツ、ムナリ晦ハ「クラマス」ナリ己ノ才智ノ光ヲ隠シテ愚ヲ

鞞鞞 ヨソフ「ヲ言フ」 鞞鞞ハ鍾鼓ノ聲ナリ水聲ノ烈シキ聲ヲ狀シテ鞞鞞トシテ響ク

饜發 愁ノ深キ者ヲ言フ左傳ニ縉雲氏ニ不才子アリ飲食ヲ貪ボリ貨

賄ヲ胃ホル天下ノ人以テ三凶(渾敦、窮奇、檮抗)ニ比シテ之ヲ饜發ト謂フ
トアリ三凶トハ三惡人ナリ饜發ヲ併セテ四凶ト言フ饜發トハ飲食ノ慾
ニシテ饜トハ貨財ノ慾ナリ

讜言トウケン 説文ニ直言ナリ玉篇ニ善言ナリ

なノ部

名ナ 雁塔ガントウニ題ス 唐ノ韋肇イコウガ試験ニ及第セシ時偶マ慈恩寺ノ雁

塔ニ名ヲ題シテ記念トセリ後人之ニ倣ナヒテ遂ニ故事トナシ

名ハ實ジツノ賓ヒン 凡ソ物ニハ名實ノ二ツ無カル可ラス然レモ實ナキノ

名ハ貴フニ足ラス譬ヘハ子トハ名ナリ孝ヲ盡スハ實ナリ臣トハ名ナ

リ忠ヲ盡スハ實ナリノ如シ故ニ物ノ名ハ皆ナ實ヲ現ハシタル外面ノ

「カンバンナレバ之ヲ賓ト謂フナリ莊子ニ出ツ

南粵ナンエツ 粵ハ越ナリ支那ノ南方古ノ越國ナリ

南面ナンメン 支那ニテハ君ハ北ニ坐シテ南ニ向ヒ臣ハ南ニ坐シテ北ニ向フ

故ニ臣ヲ北面ト謂フ南ハ陽ニシテ明ナリ北ハ陰ニシテ暗ナリ

南風競ナンフツキハス 南國ノ衰ヘタルヲ謂フ南風トハ南國ノ詩ノ風調ヲ言

部 ノ な

フ左傳ニ晋ノ師曠ガ南風ノ詩ヲ歌ヒテ楚國ノ振ハザルヲ知ルトアリ
凡ソ其國盛ナレバ其詩亦雄大其國衰フレハ其詩亦タ靡弱振ハズ師曠
此ヲ以テ之ヲ知ル實ニ聰耳ノ人ト謂フベシ頼山陽ガ日本外史ノ論文

ニ南朝ノ衰ヘシヲ稱シテ南風競ハスト云ヘリ

南柯ノ夢ナンカノユメ 世ノ中ハ夢ノ如シノ意ナリ昔シ淳于棼ジュンネフンナル人家ノ南ニ

古キ槐樹アリ或時酩酊ヒテ其樹下ニ臥ス夢ニ二使者アリテ曰ク槐安

國王汝ヲ邀ヘ奉ツルト禁使者ニ隨ヒテ穴中ニニ入ル榜アリ木札ニ字

ヲ題ス大槐安國ト題ス王禁ニ謂ツテ曰ク吾ガ南柯郡ノ政事理マラス

卿汝ナリヲ召キテ郡守トナシ理メシメント禁郡ニ在ル凡ソ二十歳

ニシテ送り歸ラシム(此迄ハ夢ナリ)夢遂ニ覺ムハテナト不審ニ思

ヒ因テ槐樹ノ下ヲ尋ヌレバ一大穴アリ其中洞然明朗ニシテ一榻トク腰カ

ケヲ容ル、ヲ得ベシ一大蟻アリ此レ乃チ王ナリ又タ一穴アリ之ヲ尋

ヌレバ直ニ南柯ニ達ス(南柯トハ南枝ナリ)此レ即チ禁ノ守リシ所ノ郡

部 ノ な

ナリ右ハ異聞集ニ見ユ槐樹ノ下ニ穴アリ此ヲ槐安國ト爲ス一大蟻ヲ以テ國王ト爲ス一穴南枝ニ通スルヲ以テ南柯郡ト爲ス

南山ノ壽 長壽ヲ祝スル語ナリ南山トハ終南山ニシテ今ノ陝西省渭水ノ南ニ在リ山ハ長壽ナル者ナレバ假リテ祝スルナリ

軟脚病 「カツケ」病ナリ軟トハ柔ナリ弱ナリ足ノ弱クナル病ナレバ然カ云フ

喃喃ナシク 小サキ聲ニテ語ル形容人ノ私語スル場合又タ燕ノ「サエツル」ニモ用フ

な 部

にノ部

二良ニリョウ 二人ノ良臣ヲ言フ

二西ノ書ニセイノショ 藏書ノ多キヲ言フ二西トハ大西山、小西山ナリ、洞アリ西洞ト名ク其中ニ石穴アリ書千卷アリ傳ヘ言フ秦人隠レテ此ニ學ブト

二千石ニセンシヨク 郡ノ太守ノ祿二千石ナリ因テ郡守ノ異名トナル百石ヨリ

人間萬事塞翁馬ニョウケンマンジサイウカ 元ノ僧熙晦機ノ詩ニシテ末ノ二句ニ人間萬事

塞翁馬推枕軒中聽雨眠サイウカオシヤクセンチュウテイウメン 塞翁馬ノ條ニ出ヅ

二十八宿ニジュハツ 天ノ星ノ宿ル場所ヲ二十八トス

二毛ニモウ 黑白ヲ二毛ト云フ即チ白黒交リタル老人ナリ斑白ト云フニ同

二豎ニジュ 病ノ異名左傳ニ晉景公疾病ナリ病重シ醫ヲ秦ヨリ求ム泰伯醫

緩緩ハ名ナリヲ遣ハシテ之ヲ爲サメシム未タ至ラサル時ニ晉公夢ム疾ガ「バケテ」ニ豎子ト爲リ二童子其一人曰ク彼ハ良醫ナリ彼トハ緩ヲ

指ス懼ラク我ヲ傷ナハン逃ル、ニシカズ他ノ一人曰ク「ナ」ニ逃ルニ

及ハス盲ノ上膏ノ下ニ潛ミ居レハ彼我ヲ攻ムル能ハスト緩至リテ曰ク疾爲ム可ラス盲ノ上膏ノ下ニアレバ到底藥ノ及ブ所ニアラズト

疾爲ム可ラス盲ノ上膏ノ下ニアレバ到底藥ノ及ブ所ニアラズト

疾爲ム可ラス盲ノ上膏ノ下ニアレバ到底藥ノ及ブ所ニアラズト

疾爲ム可ラス盲ノ上膏ノ下ニアレバ到底藥ノ及ブ所ニアラズト

疾爲ム可ラス盲ノ上膏ノ下ニアレバ到底藥ノ及ブ所ニアラズト

疾爲ム可ラス盲ノ上膏ノ下ニアレバ到底藥ノ及ブ所ニアラズト

に 部

盲ハ何レモ心肺ノ下ニアリ心下微脂アルヲ膏ト云ヒ膏上薄膜アルヲ
盲ト謂フ此所針藥及ハズ

二人心ヲ同クスレバ其利金ヲ斷ツ 金蘭ノ契ノ條ニ出ツ

肉袒 祖ハ音ソ祖ハ音タン誤ル可ラスハタヌギテ肩ノ肉ヲ見ハスノ
意ナリ戰國ノ風俗トシテ罪ヲ謝スル時ノ姿ナリ

肉刑 身體ヲソコナフノ刑ヲ云フ死刑ノ如キ別刑ノ如キ剗刑ノ如キ

皆ナ是レナリ

肉食者

古ノ大夫以上ノ人ヲ言ス即チ貴人ノコトナリ平生家ニ在リ
テ肉食シ得ラル、程ノ祿ヲ政府ヨリモラヒ居ル者ノ義ナリ左傳ニ出

任俠 俗ニ謂フ男伊達ナリ任トハ相與ニ信スルヲ言フ俠トハ權力ヲ

挾サミテ人ヲ輔クルヲ言フ

乳虎 「ハゲシキ怒ヲ乳虎ノ怒ト言フ虎ハ「タケキ」モノナリ子ヲ乳養ス

ル際ハ別シテ氣カ立チテ怒リ甚シク往々人ヲ害スルナリ

乳狗 子ヲ乳養スル狗ヲ謂フ其怒リ常ニ過ク

乳臭 口尙乳臭ノ條ニ出ツ

錦衣 夜行ク 我身榮ヘナガラ故郷ニ歸ラサレハ立身シタル

甲斐無シトノ意ナリ史記ニ富貴ニシテ故郷ニ歸ラサレバ繼シユウヌイノア

ル衣服ヲ衣テ夜行クカ如シ誰カ之ヲ知ルモノアラント錦衣シテ夜行

スルハ其ノ「ハデ」ナル所ガ人ニ知レサルナリ故ニ錦衣スレバ晝行セサ

ル可ラス歐陽修ノ晝錦堂記即チ此意ニ本ツク

贅ヲ執ル 幣物ナリ左傳ニ男ノ贅ハ玉帛又ハ禽鳥女ノ贅ハ果物ト

見エヘリ贅字又タ筆ニ作ル

雞ヲ割クニ牛刀ヲ用ユ 小事ヲ扱フニ大事ヲ扱フ道ヲ以テス

(餘リニカヲ入レ過ギル)雞ノ如キ小物ヲ料理スルニ牛ノ如キ大物ヲ料
理スル大庖丁ヲ以テスルナリ俗ニ謂フル雞頭花ヲ植ウルニ牛車ヲ以

部

ノ

に

部

ノ

に

テスト同一般ナリ論語ニ雞ヲ割クニ爲ゾ牛刀ヲ用キントアヲ

ねノ部

年所ヲ歴 所字ハ意義ナシ年數ヲフルコト

寧馨兒 寧馨トハ古ヘ普宋間ノ時代ニ用キラレタル語助ノ辭ナリ

猶ホ此ノ如シト云フ意ナリ普ノ山濤ナル人王衍ヲ見テ曰ク何物ノ老

嫗寧馨兒ヲ生ムト

熱中 物事ニイラダチテ心ノ中ガ熱スルナリ孟子ニ出ツ

熱鬧 賑ハシキ土地

鼠ニ投ゼンニ器ヲ忌ム 甲ヲ除カントスレバ其害ノ乙ニ及ブ

ヲ恐ル鼠ニ物ヲ投ケ付ケテ之ヲ追ヒ拂ハントスレバ其傍ノ器物ニ當

リテ或ハ之ヲ傷ハンコトアルヲ恐ル國君ノ側ニ奸臣アリ之ヲ除カン

トスレバ其累ヒガ君ニ及ブヲ恐ルニ譬フ本ト支那ノ僂諺ナリ

のノ部

惱殺 心ヲナヤマス殺字ハ意義ナシ

囊括 囊中ニ入レテ其口ヲククルガ如ク物ヲ包ミ取ルノ意ニ用ユ

はノ部

八音 金鐘石磬ナリ石ニテ作りシ樂器ケ部磬折ノ條ニ出ツ絲琴竹笛

匏笙ノ笛土土ヲ以テ造リシ笛鷲鳥ノ卵ノ如シ革鼓木祝祝トハ樂ヲ

始ムル器ニシテ形漆桶ニ似タリ敵トハ樂ヲ止ムル器ニシテ形チ伏虎

ノ如ク背ニ刻アリ長一尺ノ木ニテ作りシサ、ラヲ以テ刻ノ上ヲスリ

ナラス

八斗ノ才 才智ノ多キヲ言フ多ク文學上ニ用ユ魏ノ曹子建文詞ニ

敏ナリ謝靈運之ヲ評シテ曰ク天下ノ才共ニ一石子建獨リ八斗ヲ得我

ハ一斗ヲ得古ヨリ今ニ及フマテ共ニ一斗ヲ用ユト(古ヨリ今マデノ才子ノオヲ集メテ僅ニ一斗ノ意ナラン)

反哺ノ孝

口中ノ食ヲ哺ト謂フ反トハ恩ヲカヘスナリ禽經ニ鳥ニ反哺ノ義アリト鳥ハ孝鳥ニシテ生長ノ後チ母鳥ヲ養ヒテ其ノ幼少ノ時ノ恩ヲ報ユ

反間

反トハ其説ヲ反スナリ(俗ニ云フ裏ヲ言フ意ナリ)間トハ敵ノ間者ナリ孫子用間篇ニ反間トハ其敵間ニ因リテ之ヲ用ユト

白哲

哲音セキ混スベカラズ色白キヲ言フ哲ト異レリ

白面書生

年少ニシテ未ダ經驗アラザル者ヲ言フ本邦ノ俗ニ云フ「シロト」ノ意ニ近シ

白眼

白キ目付シテ人ヲ「ニラム」ナリ青眼ノ條對照

白眉

衆ニ「スグレタル」言フ蜀ノ馬良ハ兄弟五人アリテ何レモ才子ノ「ホマレ」アリ而シテ良最モ勝レタリ良眉中ニ白毛アリケレバ郷里ノ

人諺ヲ爲テ曰ク馬氏ノ五當兄弟五人皆ナ「字」ニ常字アリ(白眉最モ良ト

(五人中ニテ白眉アル良ガ第一ナリトノ意)

白駒隙ヲ過ク

人生ノ短ク且ツ速カナルヲ言フ白駒トハ日影ナリ隙トハ物ノ「スキマ」ナリ日光ノ「戸」又ハ壁ナドノ「スキマ」ヨリ「サシコム」如シ人ノ世ニアル忽チ生忽チ死

白衣卿相

貧賤ノ士ニシテ將來大臣タルノ望ミアルモノヲ言フ(卿相ハ大臣)

半面識

少シバカリノ知り合ヒヲ言フ漢ノ應奉ナルモノ袁賀ト云ヘル人ヲ尋チテ參リシガ時ニ造車匠トテ車ヲ作ル職工アリテ門扇(トピラ)ヲ開キ顔半分ヲ出シテ應ヲ視ル其後數十年ヲ經テ或時應途中ニテ其車匠ヲ見識リテ之ヲ呼ベリト

汎濫

水ノコボレアフレル意

伴食宰相

無能ノ大臣ヲ言フ唐ノ規則ニテハ貴臣ニ毎日食膳ヲ賜

ハルナリ然ルニ無能ノ臣ハ唯ダオシヨウバン「スルノミニテ政事上ニ
ツキテ更ニ意見ヲ申立ザルナリ
伯仲ノ間アイダ 優劣無キヲ言フ伯仲叔季ハ兄弟ノ順ナリ故ニ伯仲ハ兄

弟ト云フニ同シ

波及キエツ 餘波ノ他ニ及フヲ言フ左傳ニ出ヅ

拔萃ボツスイ 群中ニスグレタルヲ言フ孟子ニ其萃ニ抜クトアリ萃トハ物ノ

集マルヲ言フ抜トハ秀ヅルナリ

沛然ヘイゼン 雨沛然トシテ至ル沛トハ盛ナル意

杯中ノ蛇影チウエイ 己ノ神經ヨリ疑心ヲ起スヲ言フ晋ノ樂廣ナルモノ客

ヲ招キテ酒ヲ飲ミシガ時ニ角弓アリテ壁ニカ、ル其影ガ杯中ニ映ズ

恰モ蛇ノ如ク見エ客大ニ疑ヒ後チ疾ヲ患フ廣意オモヘラク盃中ノ蛇ハ即

チ角弓ナラント乃チ復タ招キテ前ノ處ニ飲ム廣客ニ謂ツテ曰ク杯中

映スル所ノ者アルヤ否ヤト答ヘテ曰ク映スル所前ノ如シト廣即チ其

部 ノ は

角弓ノ影ナル所以ヲ告ク客是ニ於テ疑心始メテ解ケ疾モ亦タ頓ニ愈

ユルヲ得タリト

胚胎タイ 物ノ始メヲ言フ「胚胎ス」ト云ヘバ此ハ彼ヨリキザシ兆出タル意ナリ

破顔微笑ハハ 顔ヲ開キテ「ホホエム」

破瓜ノ年ハクワ 十六歳ヲ言フ瓜ノ字ヲ分析スレバ二個ノ八ノ字トナル

故ナリ

破天荒ハテン 荒トハ洪荒ノ意ニテ未ダ開ケザルヲ言フ天運ノ未開ヲ開

クノ義ナリ前人ノ未ダ嘗テ爲サ、リシ事ヲ己先ヅ爲スニ譬フ

馬革ニ屍ヲ裹ムバカク 男子タル者ハ我カ郷里ニ在リテ婦女子ノ手ニ「カ、

リ安々トシテ死スルハ恥ナリ國家ノ爲メニ萬里ノ邊土ニ奔走シ死ス

レバ則チ馬革馬ノ皮ニテ死骨ヲ包ミ埋ムルノ覺悟ナカル可ラズ後漢

ノ馬援ノ語

馬耳東風バニ 人言ヲ耳ニ留メザルヲ言フ「言ヒゴタイ」フセヌコト馬耳

部 ノ は

ハ風ニ感セザルモノナリ別シテ東風(春風)ハ柔カナレバ尙更ラノコトナリ(宋ノ蘇東波ノ詩語)

莫逆ノ友 相互ニ心ニ「サカラハヌ」至テ親シキ交リナリ(莊子ニ出ヅ)

陪臣 陪ハ重ナリ「マダゲライ」即チ臣ノ又臣ノ義

徘徊 其アタリヲ「ウロ」トスル進ミモセズ退キモセズ

婆娑 舞フ形容

跋扈 横着ニシテ人ヲ凌グヲ言フ扈トハ魚ヲ取ル「ヤナ」ナリ跋トハ跳

能ハズ大魚ハ「ヤナ」ヲ飛ヒ越シテ下流ニ「ニダ」去リ横着ニシテ手ニ合ハ

跋渉 草行ヲ跋ト云ヒ水行ヲ涉ト云フ原野山川ヲ越エ渡ルコト

發軔 發足スルヲ言フ軔トハ車ノ輪ヲ止ムル木ナリ軔ヲ「ハツ」セバ車

輪運轉ヲ始ムルナリ故ニ言フ

晚節 人ノ老年ノ頃ヲ言フ

稗史野乘 民間ノ細小ナル事實ヲ書キ載セタルモノ即チ小説ノ意

ナリ史ト云ヒ乗ト云フハ記録ノ意ナリ稗トハ細ノ義野トハ「イヤシキ」

義 闕 闕ハ功勞ヲ積ムナリ闕ハ踐歷ナリ(經歷ノコト)

盤石 盤ハ大ナリ大石ヲ云フ磐ニ作ルハ誤

盤桓 進マザル形(其アタリヲウロ「スル」)

盤根錯節 盤ハ「ソ」ダカマル「即チ屈曲シタル根ナリ錯ハ「マジ」ハル「即

チ入りモツレタル節」ナリ此ハ人間ノ艱難苦勞ニ譬フ後漢ノ虞詡曰ク

盤根錯節ニ遇ハザレバ何ヲ以テ利器ヲ別タント利器トハ能ク切レル

刀劍ノ類ナリ如何ニ名劍アルモ盤根錯節ヲ切リテ驗サハレバ其ノ「ホ

ウチ」顯ハレズ人モ亦タ然リ種々ノ艱難ナル事柄ニ出逢サレハ其人ノ

眞ニ人才タルヲ別チ難シノ意ナリ

は 二百一

部

は

部

は

部

は

部

は

廢錮 錮トハ塞グナリ一生涯仕官スルコトノデキザル様ニ其路ヲ塞クナリ

癩疾 治療デキザル疾ナリ

潑刺 魚ナドノ「バタ」ト飛ビハネル狀

撥乱反正 撥トハ治ナリ除ナリ亂ヲ平ゲテ本ノ通り正ニ反スノ意ナリ公羊傳ニ亂世ヲ撥シテ諸ヲ正ニ反スハ春秋ヨリ近キハ莫シトアリ

播越 播音ハナリ遷ノ義ナリ因テ諸方ニ「ルロウ」スルノ意

覇道 覇者ノ天下ヲ治ムル道ナリ覇道ハ王道ニ對シテ見ルヲ要ス王道トハ古昔ノ聖王ガ道德ヲ以テ天下ヲ治メシヲ言フ覇者ハ王者ノ如ク公平ナラズ故ニ外面ニハ道德仁義ヲ「ヨソヒテ」尤モラシク見セカケ其内實ハ私利ヲ營ミテ已ノ國ヲ富シ已ノ國ヲ強クシテ弱國ヲ併吞(并セ取ル)スルモノナリ「サテ」覇トハ「ハタガシラ」ト譯ス諸侯ノ長ナリ春秋

は ノ 部

は ノ 部

時代ノ五霸齊ノ桓公晋ノ文公宋ノ襄公楚ノ莊王秦ノ穆公(即チ是レナリ)我國ニテ云ヘバ將軍ニ當ルナリ

爆竹 爆トハ火烈ノ義ナリ青竹ヲ火ニ立テ「アブリ」燒キテ爆發ノ響ヲ發セシムルナリ此ハ本ト春ノ陽氣ヲ導キ發セシムル爲メノ儀式ニシテ正月元日ニ行フナリ後世ニ至リテハ單ニ遊戯同様トナリ互ニ爆竹シテ其雄ヲ競争スルニ至レリ

ひノ部

匕首 アイグチ(短刀ノコト)刀ノ先ガ七ニ類ス故ニ言フ

日暮レテ途遠シ 年老イテ我爲サントスル事ノ目的甚々遠シノ意旅行者ノ途中ニテ日ハ暮レ前路ノ猶ホ遠クシテ「心ガセク」ニ譬ヘタルナリ此ハ本ト伍子胥ノ言史記ニ在リ

日西山ニ薄マル 年老イテ死ニ近ヅクヲ言フ譬ヘハ太陽ノ西山

ニ落チ其日將ニ暮ントスルニ似タリ

日ニ吠ユ 非常ノモノヲ見レハ驚キ疑フノ意ニ用ユ猶ホ山間避地

ノ犬ガ洋服ヲ着シタル人ヲ見テ怪ミ吠ユルガゴトシ唐ノ韓退之ノ文

ニ蜀ノ地ハ四方山ニテ塞ガリ濃務常ニ多ク日ヲ視ルコト少ナリ故ニ

蜀ノ犬ハ日出ルヲ視ル毎ニ群ガリ吠ユトアルニ本ヅク

匹夫ノ勇 ナミノノ人間ノ小勇ナリ人ヲ相手ニスル如キハ是レ

血氣ノ小勇ニシテ千萬人ニ敵スル大勇ニアラズ匹夫トハ一夫ノ意ナ

リ

未亡人 寡婦(ゴケサン)自カラ謙遜シテ言フ自稱代名詞ナリ夫死ス

レバ已モ從ツテ死ス可キ筈ナルニ未ダ亡ビズシテ存在ストノ意ナリ

左傳ニ出ヅ

炭相容レズ 毛色ノ違ツタ人ドモ互ニ相容レテ和ラゴトガ

デキナイ猶ホ白ト黒トノゴトシ惡人ノ善人ニ於ケル君子ノ小人ニ於

ケル皆然リ氷ハコホリ炭ハスミ火互ニ反對ノモノナレバナリ

皮相ノ見 外面ノミヲ見テ内容ヲ知ラザルヲ言フ皮膚ノ人相ノミ

ヲ察シ骨相ニ立チ入ラサルナリ

比年 連年ノ意(毎年)

丕績 丕ハ大ナリ績ハイサオシ大功ノコト

百歳ノ後 人ノ死ヲ忌ミテ言フ史記ニ陛下百歳ノ後トアリ(高祖ノ

死後)

百尺竿頭ニ步ヲ進ム 上達シタル上ニモ更ニ工夫研究シテ上達

ニ步ヲ向クルヲ言フ譬ヘハ輕業師カ百尺ノ長キ竿ノ頭ニ迄上ポリ至

リテ藝ヲ爲スゴトシ今マ一步ヲ進メ竿ヲ離レテ空ニヨリテ藝ヲ爲ス

ニ至ラバ是レ竿頭一步ヲ進メタルモノナリ此處通常ノ人ニテ能スル

所ニアラズ非常ノ英才ナラデハ能ハズ何事ヲ爲スモ此工夫ガ肝要ナ

リ此語ハ佛語ニシテ傳燈錄ニ出ヅ

百里米ヲ負フ 貧ナガラモ親ヲ孝養スルヲ言フ百里ノ遠方ヨリ米ヲ負ヒテ苦勞シナガラ親ヲ養フ此ハ孔子ノ弟子ノ子路ガ言ヒシ語ナリ

百川海ヲ學ブ 漢ノ楊雄ノ言ニ百川ハ海ヲ學ヒテ海ニ至ルトアリ川ハ海水ノマテヲシテ始終流レテ止マズ故ニ遂ニ海ニ至ルヲ得ルナリ人モ學問シテ怠ルナク已マザレバ遂ニ目的ノ道ニ至ルニ譬フ

牝雞ノ晨スル 書經ニ古人曰ク牝雞ノ晨スルハ惟家ノ索ルナリト婦ガ夫ヲ壓シテ一家ノ主權ヲ奪フヲ言フ明方ノ時ヲ報スルハ必ス牡雞ノ職分ナリ然ルニ今マ若シ牝雞ガ代リテ時ヲ報ジナハ是レ家ノ滅亡ノ兆ニシテ甚タ不吉ナリ以テ其喻ノ意ヲ知ルベシ

尾大掉ハズ 上弱ク下強ク君弱ク臣強ケレバ上ガ下ヲ制スル難キヲ言フ俗ニ云フ下バリノ弊害ヲ言フ淮南子ニ禽獸ハ大ナル者ヲ首ト爲シ而シテ小ナル者ヲ尾ト爲ス然ルニ若シ尾ガ腰ヨリ大ナレバ單ニ

部 ノ ひ

動カシ難キノミナラス其身ノ運轉作用ヲ失フニ至ルナリ又タ左傳ニ未大必ス折レ尾大掉ハズトアリ

披瀝 披ハヒラク瀝ハソ、グ心中ヨリ人ニ打チアカシテ隠ス所無キヲ言フ

批准 批トハ批スルトテ臣下ヨリ天子ニ上ツル奏狀ノ終リニ敕書セラル、ヲ云フ准ハ準ニ同シ允ノ意ナリ

飛錫 僧ノ諸國ヲ遊行スルヲ言フ錫トハ僧ノ持ツ所ノ錫杖ナリ杖ノ先キニ數個ノ環アリ行クニ地ヲ突キテ響ヲナサシメ惡虫毒獸ヲ警シムト云フ

眇々ノ身 小身ヲ形容シテ眇々ト謂フ

眉壽 「マユダ」ノ秀デテ長キハ長命ノ「シル」ト云フ「ト」ニ本ツク「長壽」ト云フニ同シ

眉宇ニ見ハル 額ニ見ハレテアルヲ云フ宇トハ家ノ「ノ」キナリ眉ノ

部 ノ ひ

面ニ在ルハ恰モ宇ノ家屋ニ於ケルガ如シ故ニ譬フ
秘閣ノ書 秘閣トハ天子ノ御書ヲ藏スル所ヲ言フ秘トハ秘密ニ大

切ニ保存シテ容易ニ常人ニ見セシメザルノ意ナリ今ノ内閣ノ藏書ハ
即チ是レナリ宋代ニ始マル

秕政 秕政ヲ言フ秕トハ穀ノ實ズシテ「モミガラ」ノミナルヲ言フ因テ
惡ノ意ニ用ユ

豹變 惡心ヲ改メテ善心ニ變スルヲ言フ此ヲ豹ト云ヒシハ著シク見

ハル、ノ義ニ取ル蓋シ豹ノ毛色ノ美クシキ所が一際人ノ目ニ映スル
モノナレバナリ易ニ曰ク君子ハ豹變ス

蚍蜉蟻子ノ援 僅カノ援兵ヲ言フ蚍蜉トハ蟻ノ大ナル者ヲ云フ漢

文ニ蟻ヲ以テ譬ヲ取ルハ皆ナ弱小ノ意ナリ

匪躬ノ節 ケ部塞々匪躬ノ條ニ出ツ

疲馬ハ鞭箠ヲ畏レス 貧困ノ民ハ如何ニ嚴刑ニ處セラル、モ

部 ノ ひ

政府ノ命ニ服セサルニ譬フ俗ニ云フ「ヤリキレナイ」ノ意ナリ疲馬トハ
「ツカレタル馬ハ身ノ動キが取レヌ故ニ鞭箠ヲ以テ打タル、モ一步モ
進マズ覺悟シテ「ムチウタル」ヲ畏レズ

被髮左衽 被髮トハ頭髮ヲユハズ散亂ノマ、ナリ左衽ハ「ヒダリマ

エ此ハ「エビス」ノ風俗(サ部左衽ノ條參考)

馮夷 水ノ神

筆耕 寫字ヲシテ生活スルコト

淼漫 水ノ廣大ニシテ際限ナキヲ云フ

碑碣 石碑ノ四角ナルヲ碑ト云ヒ圓ナルヲ碣ト云フ

鼻祖 鼻トハ始ナリ即チ始祖ト云フニ同シ人ノ始メテ生ルヤ鼻先ツ

形ヲ成スト云フ說アレドモ信シ難シ

微服 賤シキ服裝シテ人目ヲ避クルコト

微行 人ニ知レザル様ニ「シ」ノビアルキ「スル

部 ノ ひ

廟食

祭ラル、ヲ云フ百世ニ廟食スト云ヘバ我カ藤原鎌足ノ如ク百
年後ノ今日迄モ「ヤシロ」ニ祀リコメラル、意ナリ

廟算

算トハ計ナリ戦ニ先チテ廟堂朝廷ニ於テ先ヅ勝負ヲ計リ較
ルコト

標致

標トハ表ナリ高尙ナル意思ヲ「アラハシ」致スナリ

罷癘ノ病

體ガ前ニ屈シ脊中ガ高ク飛ビ上リタル病ナリ史記ニ出
ツ

筆門圭竇

筆門トハ竹ニテ編ミテ作りシ門ナリ圭竇トハ壁ニ穴ヲ
アケ形チ圭ノ如ク圭ハ圭玉ナリ作りタル小戸ナリ此ノ四字ハ貧賤ノ
人ノ家ヲ言フ左傳ニ筆門圭竇ノ人トアリ圭字或ヒハ閨ニ作ル借字ナ
リ

彌縫

足ラザル所ヲ「ツクラヒ」合ハスナリ譬ヘハ衣服ノ破レヲ縫キ足
シ成スナリ

部 ノ ひ

糜爛

國民ノ衰ヘ弱ハリタルヲ言フ魚肉ガ沸騰ノ湯ニテ烹ラレ爛レ
テグタクトナリタル義ナリ

麋鹿

麋ハ鹿ノ類形チ水牛ニ似タリ

貌貅

猛獸ナリ「ツハモノ」ニ譬ヘテ用ユ

髀肉ノ嘆

武士ノ無事ニ暮ラスノ嘆ヲ言フ蓋シ武士ハ有事ノ時ニ
生レ戰場ニ於テ天晴ノ功名ヲ立ツルヲ以テ名譽ト考ヘ居レバ太平無
時ハ寧口彼等ニ取りテハ不平ノ時ト知ルベシ髀トハ股ナリ馬ニ跨レ
ハ股ガ鞍ニテスレル故ニ肉「ヤセテ」生セス若シモ馬ニ跨ガルノ機會少
ナケレバ髀肉ヲ生スルナリ即チ髀肉ヲ生スルヲ以テ殘念ナリト思フ
ナリ此ハ三國ノ蜀ノ劉備ガ或時厠ニ行キテ我が髀肉ノ生シタルヲ見
テ嘆キテ曰ク常時身鞍ヲ離レス髀肉皆ナ消ス(平生ハ鞍ヲ離レズ股ノ
肉ガ消エテ生セス)今復タ騎ラズ髀裏肉生ス日月流ル、ガ如ク老將ヲ
ニ至ラントス功業建タズト

部 ノ ひ

續紛 ヒンブン 衆キ形容盛ナル形容亂レタル形容右ハ其用處ニヨリテ解釋ス

べシ落花續紛トアレバ此ハ亂ル、形容ナリ

疊々 ヒビ 勉強スル意ナリ

鬚ノ塵ヲ拂フ 上官ニ媚ビヘツラフナリ宋ノ參政官タル丁謂ト云

ヘル人ガ大臣寇準ノ鬚ニ吸物ノ汁ガツイテアリシヲ拂ヒ拭ヒケレバ
寇準ノ爲メニ却テ冷笑セラレタリトアルニ本ヅク

ふノ部

不世出ノ才 フセイシュツノサイ 世ニモ稀ナル才ト云フコト

不軌 フキ 軌ハ法ナリ法ヲ守ラヌコト(不法者)

不羈ノ才 フキ 羈トハ馬ノ體ヲ約スル綱ナリ因テ束縛ス可カラサル大

オアルヲ(俗ニ云フ手ニ合ハヌノ意)

不肖 フシヨウ 不才ノ人ヲ云フ又タ自カラヘリクダリテ云フ語肖トハ似タリ

天ニ似サルノ意

不腆 フテン 丁寧ニ手厚カラヌヲ云フ腆ハ厚ナリ左傳ニ不腆ナル弊器トア

リ(オソマツ、ナル器物)

不屑ノ教誨 フセツノキョウヱ 人ヲ教導クニ二途アリ一ハ我ハ彼ヲ潔トシテ同情

ヲ表シ正面ヨリ之ヲ教ヘ導クナリ此ハ通常ノ場合ヲ云フ一ハ我、彼ヲ
潔シトセズシテ教ルヲ謝絶シ彼ヲシテ退テ自カラ悔ヒ自カラ感シ

ヲ脩省セシム此ハ變則ノ場合ニシテ是ヲ不屑ノ教誨ト曰フ(教ヘサル
ハ即チ之ヲ教ユルナリノ意)屑トハ潔ナリ孟子ニ出ツ

不律 フリツ 筆ノ異名(サ部三寸不律ノ條ニ出ツ)

不敏 フビン フツツカモノト云フコト敏トハ明ナリ事物ノ理ニ明カナラズ

ノ義ナリ此語ハ自カラ謙遜シテ言フ時ニ用ユ

不佞 フテイ 此モ前條ト同ジク謙遜ノ語ナリ佞トハ口才トテ口巧者ノ義ナ

不豫 豫トハ悦フナリ心ニオモシロカラザルヲ不豫ト曰フ又夕病ノ義ニモ用ユ

不毛地 植物ノ生セサル地ヲ云フ土地ニ五穀草木ノ生セサルハ猶

ホ身體ニ毛ノ生セサルガ如シ故ニ毛ト謂フナリ

不朽 死ストモ其人ノ功德又ハ名ガクチズシテ後世ニ傳ハルヲ不朽

ニ傳フト曰フ

不庭 庭トハ直ナリ不直ノ者ヲ曰フ即チ王命ヲ奉セザルヲラチモノ

左傳ニ王命ヲ以テ不庭ヲ討ズト

不遜 遜トハ順ナリ從順ナラサル意横着モノ

不龜手ノ藥 龜音キンナリ凍傷ヲ治スル藥ヲ云フ人寒氣ノ爲メニ

侵サルレバ手足ニヒビガ切レテ恰モ龜ノ甲ノ裂ケタル筋目アルガ如

シ莊子ニ出ツ

文獻 文ハ書籍、獻ハ賢人ナリ論語ニ文獻足ラズトアリ書又ハ賢人ナ

ドガ不充分ナレバ其國ノ有様ヲ知ルコト能ハズ

文身 入墨スルヲ曰フ

文質 文トハ「アヤ」アリテ美クシキヲ曰フ質トハ質朴トテ「カザリ」無キ

ヲ曰フ此二字ハ全ク反對ノ意ナリ人間萬事ガ文飾ニ過クレバ實意ガ

無クシテ輕ク見ユルナリ又夕質朴ニ過クレハ野人ノ如ク「イヤシク」見

ユルナリ故ニ文ト質トハ相ヒ半バセザル可ラズ論語ニ曰ク質文ニ勝

テハ則チ野ナリ「質ガ過レバ鄙野」文質ニ勝テハ則チ史ナリ「史トハ文多ク

シテ質少」キヲ云フ「文質彬彬」トシテ然後ニ君子トアリ「彬トハ文質半カ

ハ雜ハル義ナリ」

文物典章 禮樂及ビ法度規則ヲ曰フ

布衣 身分ノ賤シキモノ即チ士又ハ平民ノ仕ヘサル者ヲイフ布ニテ

作りシ粗末ナル衣ヲ服スルノ義ニ取ルナリ

伏日 夏ト秋トノ間ノ尤モ熱キ時ヲ曰フ伏トハ「フシ」カクルノ意ニシ

テ酷熱ノ時ハ秋ノ涼氣ガ藏^カレテ未^アタ見ハレサル際ナレハナリ三伏ト云フ語モ此ニ同ジ

刎頸ノ交^ツ 生死ヲ共ニスルホドノ固キ交ハリヲ曰フ刎頸トハ「クビ」

ヲハヌハナリ此人ノ爲メカ^ラバ頸ヲ刎^ハラル、モ決シテ苦シカラズトノ意ナリ

芙蓉 蓮ヲ曰フ又々富士山ヲ芙蓉峰トモ曰フ蓋シ山形ノ八峰ガ蓮花

ニ似タルヲ以テナリ

扶疎 樹木ノ枝葉ガ「ノ」ビ廣ガルヲ曰フ

扶桑 日本ノ異名併シ支那ヨリ名ケシ語ナリ扶桑ハ神木ニシテ太陽

ノ出ヅル處ニ在リ我國ハ日ノ本ニシテ日出ツル方ニアレバ然カ云フナリ委シキハ山海經又ハ淮南子等ノ書ニ見ユ

巫山ノ夢 男女會合ノ夢ト云フコト巫山ハ今ノ四川省ニ在ル名山

ナリ昔シ戰國ノ時楚王ガ晝寢シテ夢ニ巫山ノ神女ト密會セシト云フ

部 ノ ふ

話ニ本ヅク楚ノ文學家宋玉ノ高唐賦ニ出ヅ

物故 人ノ死スルヲ言フ故トハ古ナリ「フルビル」ナリ人死スレハ則チ

鬼物トナリテ古ビル意ナリ史記ニ士卒多ク物故スト

物議ヲ招ク 物議トハ物論ニ同シ世人ノ口ノ端ニカ、リテ兎ヤ角

言ハル、ヲ言フ

物色 人相ヲ畫ギテ探シ求ムルヲ言フ後漢ノ光武帝物色シテ嚴光ヲ

訪ハシムトアリ

服膺 ケ部拳々服膺ノ條ニ出ツ

府君 子孫ガ其祖其考ノ神靈ヲ尊ビ號シテ言フ語ナリ然レトモ此語

本ハ漢代ノ太守ノ尊稱ナリ唐宋八家ノ碑文ニ出ツ

附庸 古ノ諸侯ニ附屬スル小國ヲ言フ庸トハ功ナリ小國ノ君ハ治民

ノ功勞ヲ特ニ使ヲ遣ハシテ天子ニ報告セシテ大國ノ侯カ報告スル時ニ其レニ附シテ報告スルガ故ニ然カ云フナリ禮記ニ天子ノ田ハ方

千里、公侯ノ田ハ方百里、伯ハ七十里、子男ハ五十里、五十里ナル能ハザル者ハ天子ニ合セス諸侯ニ附スルヲ附庸ト曰フト(能ハザル者トハ足ラザル者ノ意ナリ)

拊循フジュン 拊トハナデル循トハシタガフ之ヲ愛シ從ヘルヲ言フ

撫循フジュン 前條ニ同シ

風聲鶴唳フウセイカクレイ 風ノオト鶴ノ鳴キ聲物ヲ認メ誤リテ恐レル所ニ用ユ晉

書ニ晉ノ謝玄ト秦ノ苻堅ト肥水ヲ挾ハサミテ對陣セシ時ニ堅ノ兵ガ

風聲鶴唳ヲ聞キ誤認シテ敵兵至ルト爲シ潰走セリトアルニ本ツク我

國ニテ源頼朝ト平維盛(清盛ノ嫡孫)ト富士川ニ對陣セシトキ維盛ノ軍

水禽ノ起ルヲ聞キテ奔竄セシ事ト相似タリ

風木ノ悲フウキノカガヒ 親ガ死シテ此世ニ在ラザルノ悲ミト云フコト韓詩外傳

ニ曰ク樹靜カナラント欲スレモ風止マズ子養ハント欲スレモ親待

ズ往テ返ル可ラサルハ年ナリ逝テ追フ可ラサルハ親ナリトアルニ本

部 ノ ふ

ヅク(樹ガ靜ニナラントスルモ風ガ吹ク故ニ矢張り動キテ止マス此ハ引キ事ニシテ子ガ養ハンノ心アルモ親ハ死シテ思フニ任セズ此ガ主意ナリ光陰ハ一度去レバ復タ來ラズ死セシ親ハ復タ生カス可カラズ)

風樹ノ嘆フウジュノタン 前條ニ同シ

風丰フウホウ 丰トハ容色美好ヲ謂フ

風采フウサイ 前條ニ同シ

風セル馬牛モ相ヒ及バズ 彼ト此ト隔タリ遠ザカリテ縁無キヲ

言フ風トハ放逸ノ義ナリ遠ク懸ケ出ダシタル馬牛ニテモ到底其地ノ

界ニハ至リ及バヌ程ノ遠隔ガアルナリ左傳ニ齊侯楚ヲ伐ツ楚子楚君

齊師ニ言ハシメテ曰ク君ハ北海ニ處リ寡人ハ南海ニ處ル唯是レ風セ

ル馬牛モ相ヒ及バヌ虞ラザリキ君ノ吾地ニ涉ラントハトアリ(齊ハ今

ノ山東省、楚ハ湖北湖南ニシテ楊子江沿岸ナリ非常ニ隔リテ互ニ關係

チキ國ナリ然ルニ此度遙々我國境ニ討チ入ラルトハ誠ニ思ヒ設ケ

エコトナリトノ意ナリ寡人トハ徳少ナキ人トテ自カラ謙遜シテ言ヒシナリ)

風教 フウキョウ 道德ノ教ヲ以テ下ヲ善ニ化スルヲ言フ風トハ上ヨリ下ニ及ブ

フ言フ

風雲ノ會 フウウンノカイ 豪傑ガ時機ヲ得タルヲ言フ易ニ雲ハ龍ニ從ヒ風ハ虎ニ

從フトアルニ本ヅク龍ガ天ニ上レバ雲ヲ起シ虎ガ吼レバ風ヲ起スノ

意ニシテ雲ガ龍ト會シテ風ガ虎ト會シタル如ク其機會ヲ得タルニ譬

フ然レモ後漢書ニ威能ク風雲ニ感會シテ其智力ヲ奮フトアルハ明君

ト賢相トノ相會シテ事ヲ共ニスルヲ言フ前段ノ義ト稍ヤ異ナレリ

風伯 フウハク 風ノ神ヲ言フ雨師風伯トイフ語アリ(風雨ノコトヲ飾リテ言ヒ

シ迄ナリ)

風土 フウド 風俗地理ナリ風土記ト曰ハバ後世ノ地理書ナリ

訃音 フオン 訃トハ赴ケ報スルナリ音トハ音信ナリ因テ人ノ死セシ知ラセ

部 ノ ふ

ヲ曰フ

封事 フウジ 其ノ秘密ノモレンコトヲ恐レテ固ク密封シテ君ニ奉ツル奏言ナ

リ

負郭ノ田 フソクノデン 城下ニ近キ好キ田地ヲ言フ史記ニ蘇秦曰ク吾ニ洛陽負

郭ノ田二頃アラシメハ豈ニ能ク六國ノ相印ヲ佩ヒンヤトアリ(初メ吾

ニ洛陽ナル都ノ城ノ近邊ノ美田二百畝(百畝ヲ一頃ト言フ)有ラシメバ

一生氣樂ニ百姓トナリテ世ヲ終ヘシナラン然ラバ今日ノ如ク六強國

ニ并セ大臣トナリテ其印ヲ腰ニ付ケルコトハヨモデキザリシナラン

ト(昔ハ官ニ任セラルレハ其証トシテ官名ヲ刻シタル印ヲ賜ハリ之ヲ

佩ブルハ例ナリ)

負荷ニ堪ヘズ 子ガ親ノ後ガ繼グヌトノ義ナリ又タ廣ク責任ニ堪

ヘザルノ義ニモ用ユ親ガ薪ヲ伐リタルヲ其子ハ之ヲ負ヒ荷フテ歸ル

力無シト云フニ本ヅク

部 ノ ふ

負薪ノ憂ツツ 自分ノ疾ヲ謙シテ言フニ用ユ身體ガ疲ツツレテ薪ヲ負フコ

トデキヌノ意ナリ孟子ニ采薪ノ憂トアルモ同義ナリ

武斷ブツ 威武ヲ以テオサヘツケルヲ言フ史記ニ郷曲ニ武斷ストアリ郷

曲トハ地方トカ田舎トカノ義ナリ併シ武斷ノ語ハ後世尤モ好ンテ用

キラレタリ別シテ近來ハ更ニ其甚シキヲ見ル因テ多少ノ轉義アリ其

所ニツキテ解釋スベシ

武陵桃源フ 別世界ト云フ義ニ用ユ武陵桃源ハ地名ナレモ實際ニ此

別天地アルニアラズ晋ノ陶淵明ガ桃花源記ヲ作りテ假リニ設ケテ言

ヒシニ始マル今ノ湖南省ニ此ノ縣名アレドモ蓋シ此ハ後世ノ人が淵

明ノ記文ニヨリテ名ツケタルモノニアラザルカサテ桃花源記ニ晋ノ

太元年中ニ武陵ノ人カ魚ヲ捕ヘントテ溪ニ沿フテ行キシガ行ク程ニ

忽チ兩岸ニ桃花咲キ亂レ數百歩ノ間ニ滿チ渡リ嘗テ一本ノ餘木ダモ

ナク其奇麗云ハン方ナシ其林ノ盡キル所迄至レハ一山アリ山下ニ小

部 ノ ふ

部 ノ ふ

ロアリ物アリテ光カルガ如シ因テ舟ヲ捨テ洞中ニ入り進メバ其中誠ニ豁然トシテ廣ク明カナリ家屋立チ並ヒ又タ良田美地アリ市街ハ十文字ノ如ク至テ正シク雞犬ノ聲相ヒ聞ユルヲ數里土人ハ農耕ヲ業トシ其服装モ異様ニシテ外人ノ如ク老幼ドモ皆氣樂ニ樂メリ漁人ノ來ルヲ見テ大ニ驚キ來リシ所以ヲ問フ乃チ具サニ之ニ答ヘタリ是ニ於テ村中ノ人皆ナ來リテ酒食ヲ設ケテ漁人ニ食ハシメタリサテ村人ノ云フニハ吾等ノ先代ノモノハ秦ノ亂ヲ避ケテ一族ヲ引キ連レ此地ニ來リ住シテヨリ復タ世ニ出デス世人ト自然ニ隔絶セリ今ハ何ノ世ゾト漁人ハ答フルニ漢ヲ過ギ魏ヲ歷テ今ハ晋ノ世ナリト云ヘバ人々皆ナ不思議ナル顔色ヲ爲セリ其レヨリ又タ酒食ノ饗ニ飽キテ遂ニ辭シ去ル乃チ船ニ乗り前路ニ向ヒテ郡ニ歸リ委細ニ其由ヲ郡ノ太守ニ言上セシカバ太守乃チ人ヲシテ漁人ト共ニ復タ往カシメシガ遂ニ迷ヒテ行クヲ得サリキトアリ桃花源記ノ本文ヲ一讀スベシ

武弁 武官ヲ謂フ辨ハ武士ノ冠ナリ故ニ云フ
粉骨碎身 骨ヲ粉ニクダキ身ヲ碎ナリ因テ身力ヲ盡シテ働ラクラ

謂フ

粉本 畫ヲ寫ス時ノシタガキヲ謂フ

粉白黛綠 美飾シタル女ヲ謂フ粉ハオシロイ黛ハ眉墨古ハ婦人眉

ヲソリ落シ其所ヲ墨モテ眉ヲ畫クナリ之ヲ黛ト謂フ白粉ヲ顔ニ塗り

「マユズミ」ニテ眉ヲ畫キタル美人ナリ韓退之ノ文ニアリ

紛々 物事ノ多クシテ亂レル形容ナリ落花紛々ト云ヘバ花ノ落ツル

「多キナリ天下紛々ト云ヘバ天下ノ亂レル狀ナリ

紛拏 互ニ入り亂レテ圖フヲ謂フ漢書ニ匈奴相ヒ紛拏トアリ

浮言 根ノ無キ事ヲ言ヒフラスヲ謂フ

浮屠 佛ヲ謂フ又タ浮圖トモ書ス同意ナリ又タ石浮圖トテ石ニテ作

リシ塔ヲモ謂フ

部 ノ ふ

俛仰 俛トハ俯ナリウツムク「ヲ謂フ俛シテ觀仰イテ見ル

釜中ノ魚 暫ラクハ生キテ居ルモ久シクハ續カヌノ意ニ譬フ通鑑

ニ魚ノ釜中ニ遊フガ若シ其ノ久フス可カラサルヲ知ルト

符節ヲ合スガ若シ 彼ト此トノ爲ス事ガ一致シテ違ヒナキヲ謂

フ符節トハ「ワリフナリ或ハ玉ニテ作り或ハ竹ニテ作り或ハ銅ニテ作

ル其時代ニヨリテ様々ナリ中ヨリ割リテ之ヲ二ツト爲シ互ニ其一方

ヲ所有ス事アレバ之ヲ合シテ信トナス後世ノ「手形證文ナド云フモノ

ニアタル

部署 隊ヲ分ケテ其役割ヲ定ムヲ謂フ史記ニ部署已ニ定マルトアリ

署トハ署置ノ意

婦人ノ仁 姑息ニシテ餘リ役に立タヌ仁愛ヲ謂フ謂ユル小ナルメ

「グミナリ史記ニ出ツ

艷然 怒リシ形容ナリ孟子ニ出ツ佛然ニ同シ

部 ノ ふ

鈇 斧ナリ古ハ天子ヨリ將軍ニ生殺ノ權ヲ委任スルノ証トシテ鈇

鈇ヲ賜ハルナリ禮記ニ諸侯ハ弓矢ヲ賜ハリテ然後チ征シ鈇鈇ヲ賜ハ
リテ然後チ殺ス(天子ヨリ賜ル)

普天率土 天地ノ下ヲ謂フ普トハアマチシ率トハ循フナリ天ノ覆

フ限リ土地ノ續キテアラン限リノ意ナリ詩經ニ普天ノ下王土ニ非ル
ハ莫ク率土ノ濱王臣ニ非ルハ莫シト

復命 君命ヲ奉シテ事ヲ爲シ其報告ヲ爲スヲ謂フ

復辟 元ノ位ニカエルヲ謂フ辟トハ位ナリ復トハカエルナリ譬ハハ
後醍醐帝ガ北條高時ノ爲メニ隱岐ヘ流サレシガ北條氏滅ヒテ頓テ京

都ニ還ラレ元ノ帝位ニ即セラレタル如キヲ謂フ

傳會 附ケ合スヲ謂フ理ニ合ヌコトヲ體裁好ク附ケ合シテ之ガ説ヲ

爲スヲ謂フ又タ我説ヲマゲテ無理ニ人ノ説ニ合フ様ニスルヲモ謂フ
傳ハ附ニ同シ故ニ附會トモ書ス

部 ノ ふ

蟬 我邦ニテカゲロフト云フ虫ナリ朝ニ生レテ夕ニ死ス至テ命ノ

短キモノ故ニ蟬蟬ノ命ト云フ語アリ淮南子ニ鶴壽千歳ニシテ以テ其

游ヲ極メ蟬蟬朝生ニシテ而暮死而シテ其樂ヲ盡クスト

膺 雞ノ羽ヲ擊ツヲ謂フ韓退之鬪雞ノ詩ニ膺膺戰聲喧(羽)打チテ戰

フ聲ヤカマシ

腹稿 詩文ナドヲ草稿ヲ用キスシテ腹中ニテ組ミ立テアルヲ謂フ

腹心ノ大臣 國事ヲ委任スベキ大切ナル臣ヲ謂フ即チ人君ガ己ト

心ヲ同スル程ノ臣ト云フ意ナリ詩經ニ赴々タル武夫ハ公侯ノ腹心ト

アリ(赴々トハ武キ貌)

鮒魚涸轍ニ困ム 鮒部鮒ノ條ニ出ツ

憔悴 茫然自失ノ狀ナリ(ボートシテ氣ヌケシタルサマ)

復道 復トハカサナルナリ上下ニ道アルヲ謂フ復道トアルモ同義ナ

部 ノ ふ

糞土 凡テ物ヲ賤シミテ言フ辭ナリ

覆載間 天地間ヲ謂フ天ハ地ヲ覆フモノナレバ覆トハ天ノ義ナリ

(覆)オホフ時ハ音フクツガヘル時ハ音フクトナル(地ハ萬物ヲ載スルモノナレハ載トハ地ノ義ナリ禮記ニ天ノ覆フ所地ノ載スル所又々周禮

ニ覆載ノ德其功尤モ盛ナリトアリ

覆車ノ戒 前ノシクヅリガ後ノ戒トナルノ譬前車ノ覆ヘリタル轍

跡ハ後車之ヲ見テ戒メザル可カラス若シ戒メサレハ己モ亦タ其覆轍

ヲ「フム」ニ至ルナリ前漢ノ賈誼ノ策ニ前車ノ覆ヘルハ後車ノ戒秦世ノ

亟カニ絶ツ所以ノ者其ノ轍迹見ル可シ(秦ガ亂暴シテ其世ヲ絶チ其國

ヲ滅ホシタル形跡ハ「アリ」ト存シテ漢ノ手本トナル即チ秦ハ前車

ニシテ漢ハ後車ノ如シ然リ而シテ避ケサレハ是レ後車又々將ニ覆ヘ

ラントスルナリトアリ

覆轍 車ノ覆ヘリシ跡即チ敗亡ニ譬フ(前條ニ出ツ)

ふ

譜第 世々繼キ來ル家系ヲ謂フ徳川氏ノ譜代大名トハ別ナリ混ス可

ラス史記ニ衆家ノ譜第ヲ參考スト

へ

平旦ノ氣 「アケガタ」ノ清ラカナル氣ヲ謂フ人ニテ云ヘバ氣トハ心

氣ノ義ナリ孟子ニ出ツ

弁髦 無用視スル意ニ用ユ弁トハ緇布冠ナリ(黒キ布ニテ作りシ冠髦

トハ小兒ノ「タレ」ガミナリ冠ヲ蒙ムルニハ其初メニ緇布冠ヲ用キテ小

兒ノ垂髮ヲ包ム成長ノ後ハ大人ノ冠ヲ加ヘ緇布冠ヲ棄テ、用井ズ故

ニ無用物ノ意トナルナリ譬ヘハ天子ヲ辨髦ニスト云フ語ノ如キハ天

子ヲ表面ニ戴クモ其内實ハ輕蔑シテ無用視スル意ナリ左傳ニ曰ク豈

ニ辨髦ノ如クニシテ因テ以テ之ヲ敝ランヤト

米年 八十八歳ヲ謂フ蓋シ米字ヲ分析スレバ八十八トナルナリ

部

汨羅ノ鬼 水ニ陥リテ死スルコトニ用ユ昔シ楚國ニ屈原ト云フ忠

臣アリ楚ノ懷王ヲ諫メシカ用キラレズ却テ惡マレテ遠方ヘ追ヒ遣レ

タリ屈原殘念ニ思ヒテ遂ニ汨羅ト名ツクル淵ニ身ヲ投シテ死セリ死

セシ時ガ五月五日ノ端午節ニ當タル故ニ後人其死ヲ哀：毎年五月五

日ニハ其亡魂ヲ弔フト云フ遂ニ支那南方ノ風俗トナル

別墅 別莊ノコトナリ

別業 前條ニ同シ

兵燹ニ罹ル 「イクサ火」ニ燒カルルヲ謂フ

秉彝 人間ノ常道ト云フコト秉トハ執ルナリ彝トハ常ナリ詩經ニ民

ノ秉彝茲懿德ヲ好ムト懿德トハヨキ道德ヲ云フ

便嬖 近臣ノ寵愛ヲ受ケシ臣ト謂フ義ナリ孟子ニ出ツ

扁舟 小舟ヲ謂フ今ノボート又ハ傳馬船ノ如キモノヲ指ス史記ニ出

部

部

扁額 扁トハ書キ付ケル義ナリ額トハ人間ノヒタイナリ因テ門戸ノ

上ノ横木ニ譬フ

屏息 恐レ謹ムヲ謂フ屏トハ藏ムナリ息トハ「イキ」ナリ呼吸ヲ大ニセ

サル義ナリ恐レシ時ノサマナリ論語ニ氣ヲ屏メテ息セサル者ニ似タ

リト

陛下 臣下ガ天子ヲ稱シテ言フ詞ナリ蓋シ秦ノ始皇帝ニ始マル陛下

ハ殿ニ上ル階ナリ近臣ノ者兵器ヲ執リテ陛下ニ陳列セリ故ニ直ニ天

子ヲ指シテ云フハ無禮ナレハ其近臣迄ニノ意ニ本ツクナリ

陸載 載トハ「ホコ」ナリ近臣ノ者ガ兵器ヲ持チテ階下ニ列ビ殿ヲ衛ル

ヲ謂フ漢書ニ武士陸載シテ殿下ニ陳列ストアリ

辟易 避ケ退クヲ謂フ辟トハ開クナリ易トハ其處ヲ易フルナリ史記

ノ項羽紀ニ人馬俱ニ驚キ辟易數里トアリ

睥睨 横目ニテニラムヲ謂フ又タ名詞ニ用キルトキハ城上ノ女牆ト

ナル(女牆トハ低キ牆ナリ)

篇輿 竹ニテ作りシ「カゴ」即チ乗物ノコト

翩々 衆ノ飛フ形容詞ナリ又タ轉シテ旗ナドノ風ニ飛ニモ用ユ

篇什 詩文ヲ謂フ什トハ十ナリ古ハ十篇ヲ以テ一卷トセリ故ニ言

駢儷文 西六文ヲ謂フ駢モ儷モ並ブ義ナリ支那ノ南北朝ノ頃ヨリ四字ト六

字トヲ一句トシ相對シテ作りタル一種ノ文章ヲ謂フ猶ホ文ニシテ詩

ナルガ如シ蓋シ四ト六トヲ對スルハ全ク文ノ聲調ヲ取ル爲メナリ

蹠蹠 旋リ行ク形容ナリ宋ノ蘇東坡ノ後赤壁ノ文ニ見ユ

瞥見 財ニ見ルヲ謂フ梁書ノ王筠傳ニ余少フシテ書ヲ好ム偶見瞥觀

スト雖モ皆ナ即チ疏記セリトアリ

邊幅ヲ修飾ス 表面ヲ「カザル」ヲ謂フ布帛ノ兩邊ヲ「ソロ」ヘ飾リタル

如シノ意ニ本ヅク後漢書ニ馬援ガ公孫述ヲ評シテ曰ク邊幅ヲ修飾シ

偶人ノ形ノ如シト(木ニテ作りシ人形ガ美麗ニ飾リ立テタル如ク其精

部

ほ

神ノ活々シタル處ヲ見ス

霹靂手 敏捷ナルオアル人ヲ謂フ唐書ニ裴琰國事ヲ決スルニ立口ニ

「サバキ」終ハル時ノ人之ヲ霹靂手ト謂フトアリ蓋シ霹靂トハ電ノ急擊

ナル義ナリ

籩豆 禮器ナリ即チ祭肉ヲ盛ル器ナリ籩トハ竹ニテ作りシ器豆トハ

木ニテ作りシ器ナリ論語ニ出ツ

ほノ部

亡羊ノ歎 學問ノ道ガ多方面ニシテ容易ニ真理ヲ得難キヲ嘆スル

ヲ謂フ歎ハ嘆ニ同シ亡ハ「ニガス」ナリ列子說符篇ニ楊子(楊朱ト云フ學

者)ノ鄰人ガ或時羊ヲ亡セリ家族ノモノドモヲシテ之ヲ追ハシメ又タ

楊子ノ家童ニマテ頼ミテ加勞セシメタリ楊子之ヲ聞テ曰ク嘻一羊ヲ亡

カシタルニ何ソ追フ者ノ衆キヤ餘リ仰々シキコトヨト隣人曰ク岐路

部

多ケレバナリト(道ガ幾ツニモ分レ居レバ探ヌニ自然澤山ノ人ヲ要ス) 既ニシテ追フ者返リ來レリ楊子羊ヲ獲シカト問フ答テ曰ク之ヲ亡セリ楊子曰ク何デ之ヲ亡シタルカ曰ク岐路ノ中又タ岐アリ吾之ク所ヲ知ラス故ニ反レリト(追ヒ行ケバ道岐レテ枝葉ヲ爲シ其枝葉ガ又タ幾ツニモ岐レタレバ何レヲ目途トシテ探ランカ已ムヲ得ズ反ヘリ來レリ)楊子曰ク大道ハ多岐ヲ以テ羊ヲ亡セリ學者多方ヲ以テ生ヲ喪フト(大道ガ幾ツニモ岐レタレバ羊ヲ亡シタル如ク世中ノ學者モ學問ノ道ガ様々ニ分レ居レバ終身迷ヒ惑フテ遂ニ其眞理ヲ得ザルニ均シ嘆スベキナリ)

亡命

我國ノカケオチニ當ル亡トハ逃亡スルナリ命トハ名ナリ其地ヲ逃亡シテアリカラク라마セバ戸籍帳ヨリ姓名ヲ削除セラル故ニ言フ史記ニ張耳少時嘗テ亡命シテ外黄ニ遊ブト(外黄ハ地名)

方底圓蓋

物事ノ理ガ合ハザル譬ナリ俗ニ謂フ圓キモノニ四角ナ

部 ノ ほ

「フタヲスルト云フノ意ナリ方底トハ底ハソコナレバ四角ナル物ノ義ナリ圓蓋トハ丸キフタナリ方柄圓蓋セ部柄蓋ニ出ツノ譬ニ同ジ

方物

其地方ニ生スル産物ヲ謂フ書經ニ出ツ

方物ス可ラス

衆多ノ物ヲ一ツ一ツ別ケ名ツクヘカラスノ意ナリ

方ハ別ナリ物ハ名ナリ史記ニ出ツ

方丈

僧ノ室ヲ謂フ又タ轉シテ仙人ノ居ル所ヲモ稱ス(下ノ蓬萊ノ條

參考)寺ノ僧ノ正室ハ一丈四方ナレバ然カ言フナリ

方寸

心ノ異名ナリ胸ノ中ヲ凡ソ一寸四方ト見タリ其中ニ心ノ臟ガ

アルト云フニ本ツク列子ニ曰ク方寸ノ地虛ナリト(心ハ空虛ナレバナ

方面ノ寄

東西南北何レニシテモ一方ヲバ方面ト謂フ後漢書ニ方面ノ重寄トアリ(大將軍ガ一方ヲ治ムルノ重キ責任ヲ負フテ事ヲ處スルヲ謂フ)

部 ノ ほ

方外ノ人

僧ヲ謂フ又タ外國夷狄ノ人ヲモ謂フ方トハ道チリ即チ儒道外ノ人ト謂ヘバ僧徒ヲ指ス又々方ハ方域ノ義トナル因テ中國方域外ノ人ハ即チ夷狄外國人ヲ指ス史記ニ骨ヲ方外ニ暴ストアリ(此文ノ方外ト云フハ海外ナリ)

木主

「位牌」ナリ神主ノ義史記ニ武王殷ヲ征スル時ニ父文王ノ木主ヲ車ニ載セテ行クトアリ

木假山

木ノ自然コ山ノ形ニ似タル者ヲ謂フ宗ノ蘇老泉ノ文ニ木假山記アリ

木牛流馬

木ニテ牛馬ノ形ヲ作り其レニハ機械ヲ付ケアリテ兵糧ヲ自在ニ運轉スル者ノ名ナリ三國ノ蜀ノ諸葛孔明ガ魏ヲ征伐スル時始メテ作りシモノナリ三國蜀志ノ諸葛亮傳ニ出ツ

木訥

正直ニシテカザリナキヲ謂フ木トハ木ノ未ダ「ケツラ」ザル「ミ」ガカザル其儘ノ意ニシテ即チ質樸ナリ訥トハ遲鈍トテ物事ニ「ニ」ブキナ

ほ

リ論語ニ剛毅木訥ハ仁ニ近シトアリ(剛毅トハ志氣ノ強キヲ謂フ剛毅ナル人ハ物欲ニ屈セス木訥ナレバ輕薄ナラス又々心ヲ外馳セス故ニ仁者ニ近キ性質ヲ備ヘタリト謂フナリ)

木疆

其人ノ「カザリ」無ク質樸ナル所ガ木石ノ如シトノ意ナリ疆ハ強ニ同ジ史記ニ周勃ノ人ト爲リ木強敦厚(敦厚トハ薄情デ無ク情ノ厚キコト)

木鐸

俗ニ云フ鳴物ノ「リン」ナリ金ニテ作り中ニ木ノ振リヲ付ケタルモノテ謂フ古ハ政府ガ教令ヲ發スルニ臨ミ先ヅ木鐸ヲ振リテ人民ノ耳ヲ動カシ一應注意ヲ與ヘ置キテ然後ニ令ヲ述フルナリ因テ教育ヲ施スコトニ用ユ論語ニ天將ニ夫子ヲ以テ木鐸ト爲ントストアリ(言フハ今ヤ天下亂ノ極ニ達セリ故ニ天ハ夫子(孔子)ヲ以テ位ヲ得サセ政教ヲ天下ニ施サシメントノ意ナラン)

北面

君ハ南面臣ハ北面又々師ハ南面弟子ハ北面此レ古ノ禮ナリ因

部

ノ

ほ

部

ノ

ほ

テ北面ハ臣事スルノ義トナル

北斗ノ七星 北ニ方ツテ七星相並ブ合セ名ケテ斗ト稱ス

北闕 宮殿ノ正門ヲ謂フ又夕單ニ宮殿ノ義ニ用ユ闕トハ門ナリ

北邙ノ塵 人ノ死シテ塵土ニ化スルヲ謂フ漢ノ都洛陽(今ノ河南省)ノ北ニ邙山アリ漢以來ノ墳墓、在ル所ナリ故ニ北邙ト謂フ塵トハ塵

土ノ意ナリ唐ノ劉廷芝ノ詩ニ百年同謝西山日、千秋萬古北邙塵ト

北門ノ鎖鑰 北方ノ守リ固メト云フコト我邦ニテ云ハ北海道即チ是レナリ鎖鑰トハ門ノ「ジョウ」ヲ下シテ閉チル意ナリ世語ニ宋ノ寇

準(眞宗ノ時人)曰ク北門ノ鎖鑰、準ニ非レハ不可ナリト(宋ノ北ニ契丹アリ屢々南侵ス故ニ言フ)

仿徨 進ムニアラズ退クニモアラズ其邊ヲ「ウロク」ト「サマヨヒ」アルク

ナリ仿徨躊躇ト連リタル語モ諸書ニ散見ス大抵ハ仿徨モ躊躇モ徘徊モ義略ボ同シ

ほ ノ 部

芳脆香膩 肉類ノ滋味アルヲ謂フ芳モ香モ「コウ」バシキナリ脆ハ柔

カナリ膩ハ「アブラ」ナリ

沒齒 身ヲ終ハルト云フコト齒トハ年ナリ論語ニ沒齒怨言無シト(身

ヲ終ハル迄怨ム詞ヲ吐カナシ)

沒字碑 文字ノ無キ石碑ヲ謂フ又夕文字ヲ知ラサル人ニ喩ヘテ謂

フ五代史ニ安叔千ハ狀貌堂々而シテ文字ニ通セス時人、之ヲ沒字碑ト謂フト(容貌バカリガ立派ニ人ニ目立チテ其實文字ヲ知ラサル野卑ナル人、猶ホ文字無キ石碑ノ立チアル如シ)沒ノ字ハ無ノ義ナリ

沒字漢 文字無キ人ト云フコト(前條參考)

没人 水ニ入りテ物ヲ捕アル人ヲ謂フ猶ホ「アマ」ノ如シ沒トハ沒入ノ

意ナリ莊子ニ出ヅ

忘年ノ交 互ニ其歳ノ長幼ニ拘ハラズシテ交際スルヲ謂フ即チ年

ヲ忘レテ友タリノ意ナリ蓋シ互ニ其才徳ヲ慕ヒテ交ハルナリ漢書ニ

ほ ノ 部

彷彿 未タ二十ニ滿タサルニ五十歳ノ孔融ト忘年ノ交ヲ爲ストアリ
見テ定カナラサル貌又タ轉シテ「サモ似タリ」ノ意トモナル彷彿

トモ方弗トモ放弗トモ何佛トモ放悲トモ髣髴トモ書ス音義皆ナ同ジ

髣髴 前條ニ出ツ

茅鞋 「ワラヂ」ノコト多ク詩句中ニ見ユ

茅茨 「カヤ」ヲ以テ葺キタル家ヲ謂フ韓非子ニ昔シ堯帝ノ天下ニ王タルヤ茅茨翦ラズトアリ(茅ノ擔端ニ垂ルヲ伐リ取ラヌ即チ粗未ナル普

請ノ家ニ居ルヲ謂フ)

茅苳 茅ハ「カヤ」苳ハ草葉多キヲ謂フ唐ノ柳宗元ノ文ニ榛莽ヲ斫リ茅

茂ヲ焚クトアリ(榛トハ木茂ルナリ莽トハ草多キナリ)

茅茹 朋類ノ互ニ相ヒ牽キ合フヲ謂フ茹トハ根ノ相ヒ牽引スル貌ナリ

リ茅ヲ抜カントスルニ全根ガ同時ニ抜ケ上ルノ意ニ本ヅク易ニ茅ヲ抜クニ茹タリ其彙ヲ以テヌト(彙トハ品類ノ義)又タ宋ノ石介(仁宗帝ノ

ほ

時人ガ衆賢人ノ一時ニ用キラレタルヲ見テ詩ヲ作りテ曰ク衆賢ノ進ムハ茹ノ斯ニ抜クガ如ク大姦ノ去ルハ距ノ斯ニ脱スルガ如シト(茹ハ茅ニ同シ王素、歐陽修、蔡襄ナドノ衆賢人ノ同類ガ一時ニ用キラレタルハ茅根ノ一時ニ抜ケ上ルニ譬ヘ大姦ナル夏竦ノ免官トナリタルヲ雞距(ヒツメ)ノ除カレタル如ク人ヲ害スル物ノ無クナリタルニ譬フ)

放辟邪侈 放ハ「ホシヒマ」、辟ト邪ハ惡ニ偏スルコト侈ハ「オゴル」ナリ孟子ニ出ツ

放肆 「ホシヒマ、」

放心 「取リハナシタル心トテ常ニ「ウカウカ」ト横路ノミヲ考ヘ心ノ収

ラサルヲ謂フ孟子ニ學問ノ道ハ他無シ其放心ヲ求ムルノミト

咆哮 熊虎ノ「ホユル」ヲ謂フ轉シテ人ノ猛リ怒ル様ニ用ユ

苞苴 贈リ物ヲ謂フ又タ賄賂ヲモ謂フ苞トハ草ニテ「ツ、ム」苴トハ藉ナリ古ハ贈リ物トシテ羊豕ノ肉ナドヲ草ニテ藉キ包ム故ニ言フ

部

冒頓

匈奴王ノ名ナリ冒ハ冒ニ同シ史記匈奴傳ニ出ツ

庵人

料理人ヲ謂フ莊子ニ出ツ

奔波

争ヒ趨クノ意ナリ唐ノ韓退之ノ佛骨ヲ論スル表ニ老少奔波シ

切ナル

己ガ職業ヲモ打チ棄テテ夢中ニナル

奔命

君命ニ罷ル 君命ニ奔リ廻リテ爲メニ身体ガ疲レル(尤モ忙シキ意

ナリ)左傳ニ出ツ

抱關擊柝

至テイヤシキ官吏ヲ謂フ關トハクワンスキ柝トハヒヨ

ウシギ

抱關ハ門ノ開閉ヲ爲ス門番擊柝ハ夜廻ヲ爲シテ夜ヲ警ムル者

孟子ニ出ツ

柝音タク析音セキ分析ノ柝ナリ折音セツ三字異ナレリ混

スベカラズ

封建

大名ヲ立ツルヲ謂フ封トハ或區域ヲ限リテ土地ヲ與フルヲ云フ

建トハ國ヲ立ツル也

黄帝ノ時四方百里ノ國ヲ萬區ニ作り大名ヲ設ケ

タリ是レ封建ノ始リナリ東洋西洋ヲ問ハス始メハ皆ナ封建制度ナリ

後ニ郡縣トナル(左傳ニ出ツ)

封禪

此ハ本ト天ノ功德ヲ頌スル爲メニ天ノ祭ヲ爲スヲ謂フ後世ニ

至リテ人君ガ其國ノ盛大ヲ誇リ示サン爲メニ封禪ノ祭ヲ爲スコト

ナレリサテ封トハ土ヲ高ク盛リ上ケテ祭ルヲ云フ(此ハ泰山ノ上ニ登

テ爲スナリ)禪トハ地ヲ掃除シテ祭ツルヲ謂フ(此ハ梁父ト云フ山ニ於

テスルナリ管子ニ泰山ヲ封シ梁父ニ禪ストアリ

封事

フ部封事ノ條參考

封疆ノ臣

封疆トテ國境ナリ此所ハ其義轉シテ領分内ノ意トナル

禮記ニ封疆ニ死スルノ臣ヲ思フトアリ(國家ノ忠臣ハ其國ヲ忘レサレ

バ其國ニ於テ死スルモノナリ輕シク他國ノ土ト化シ終ルベキモノニ

アラス)又タ封疆ノ臣ハ當サニ封疆ニ死スベシト云フ語アリ

封豕長蛇

慾心深キ亂暴者ト云フ譬ナリ封ハ大ノ意ナリ左傳ニ出

ッ露國ノ如キ即チ是レナリ

炮烙ノ刑 火刑ナリ慘酷ノ刑ナリ古ヘ殷ノ紂王ハ鋼柱ニ油ヲヌリ

之ヲ火上ニ加ヘ罪人ヲシテ其上ヲ行カシム油ノ爲メニ足スベリ火中

ニ落チテ燒死ス紂王ハ此ヲ觀テ樂ミトセリ

星ヲ戴ク 星ヲ戴キテ出デ星ヲ戴キテ入ル早朝ヨリ出テ夜ニ入

リテ歸ルヲ謂フ朝ハヤケレバ星猶ホ殘リテ在ルナリ夜ニ入レバ星見

ハル、ナリ故ニ然カ言フ此ハ呂氏春秋ニ巫馬期ナル者單父ト云フ地

ノ長官トナリシガ勉強家ナレバ星ヲ戴キテ早く出テ夜ニ入リテ星ヲ

戴キテ入ルトアリ

匍匐 「ハラバヒ」ヲ謂フ詩經、孟子等ノ書ニ見ユ

骨ニ刻ミ心ニ銘ス 物事ヲ固ク記シテ忘レナイコトヲ謂フ刻モ

銘モ「ホリツケル」義ナリ

保障 保ハ堡ニ同シ城トトリテノ類ヲ謂フ又タ國君ガ人民ヲ愛スル義

トモカク即チ人民ヲ愛恤スレバ人民ガ城塞トナリテ國ヲ守レバナリ

保鑾 近衛兵ヲ謂フ鑾トハ天子ノ乗物ニ譬フ保ハ「タモチ」衛ルナリ因

テ親兵ノ義トナルナリ古ハ天子ノ馬車ハ鸞鳳ノ種類鳥ガ鈴ヲ口ニ銜

ミタル飾物アリ故ニ鑾ヲ乘馬ノ義トス

勃然 「ムツクリ」ト起キ上ル形容、又「ムツクリ」ト怒リテ色ヲ作ス形容

ヲ謂フ何レモモセヨ「ムツクリ」ト活氣アル意ナリ譬ヘハ將ニ枯レント

スル苗ガ雨ヲ得レバ勃然ト生氣ヲ帶ヒテ横ニナリシモノガ起キ上ル

孟子ニ苗勃然トシテ興キヌトアリ又タ同書ニ王勃然トシテ色ヲ變ス

トモアリ

旁午 人ノ縦横ニ行キ交フヲ謂フ即チ人通りノ繁キナリ午トハ子午

線ナレバ南北ノ縦ト云フ義トナル旁トハ傍ノ義ニシテ東西ノ横ト云

フ義トナル漢書ニ使者旁午トアリ

望羊 羊ハ洋ナリ洋ヲ望ム即チ廣キヲ眺メテ限無キノ狀ヲ謂フ遙カ

ニ海上ヲ望ム時ナドニ用キルナリ莊子ニ作リ話ヲ載セテ曰ク河伯行
キテ北海ニ至リ望羊シヤク若ニ向ツテ云フニトアリ(河伯トハ河ノ神ナリ若
トハ海若トテ海ノ神ナリ河神ガ海ノ廣キヲ眺メテ驚キタルナリ)又々
學海ノ際限ナク廣キニモ譬ヘテ用キルナリ又々單ニ遠ク視ルノ義ト
モナル史記ニ眼望羊ノ如シトアリ

望雲ノ情シヤク 子、父母ヲ思フノ情ヲ謂フ唐書ニ狄仁傑、太山ニ登リテ反
顧ス、白露飛フガ似シ左右ニ謂ツテ曰ク吾ガ親、其下ニ舍スト(白雲ノ在
下ニ吾父母ノ家アリトテ遙ニ故郷ヲ思ヒシナリ)

脯醢ホウキ 古ノ慘酷ナル刑ナリ脯トハ肉ヲ「ホシ、カワカス」醢トハ烹
テ肉汁ト爲スヲ云フ其人ヲ烹殺シ或ハ其肉ヲ「ヒモノニス」史記ニ殷紂
王ガ九侯ヲ醢ニシ鄂侯ヲ脯ニストアリ

烹醢ニス 前條ニ出ツ
培塿ホウロイ 小阜ヲ謂フ(阜トハ岡ナリ)培ハ培養ノ時ハ音「バイ」培塿ノ時ハ音

部 ノ ほ

晡時ホウジ 「ボウ」ナリ
夕方ニ近キ頃ヲ謂フ今ノ午後五時ヨリ六時ノ間ヲ云フ脯ハ申

萌隸ホウレイ 人民ヲ謂フ萌ハ氓ニ同シ戰國策ニ云フ施イテ萌隸ニ及フト
捧腹絶倒ホウフツツ 大笑スルヲ謂フ捧腹トハ腹ヲ「サ、ゲル」ナリ絶倒トハ「タ

梵唄ホウマイ 僧ノ經ヲ誦スル聲ナリ梵トハ清淨寂靜ノ意ナリ唄トハ誦スル
意ナリ

梵字ホウジ 天竺ノ文字ヲ謂フ
梵刹ホウシヤク 佛寺ヲ謂フ
賁育ホウイク 孟賁、夏育トテ古ノ二人ノ勇者ナリ賁音「ホン」又々「フ」トモ「ヒ」ト

彭祖ホウソ 彭祖ハ堯ノ臣ニシテ壽七百歳ナリ因テ人ノ長壽ヲ稱シテ彭祖
モ云フ然レトモ義異レリ

部 ノ ほ

ノ壽ト云フ列仙傳ニ出ツ

堡塙ホウカク 小城ヲ謂フ塙ノ字ハ又村落ノ義トモナル即チ村塙ノ語アリ能ク詩句ニ用キラレタリ

鳳朝陽ホウキョウヤウ 鳴ク 子部朝陽ノ條ニ出ツ

鳳輦ホウケン 天子ノ車ヲ謂フ此ハ唐ノ代ニ始メテ興レリ

蜂起ホウキ 「ムホンニン」ナドノ群リ起ルヲ蜂ニ譬ヘテ言フナリ

蜂屯蟻集ホウトンアンシツ 蜂ノ群ガリタムロスル如ク蟻ノ集マリ合フ如ク兵士ナドノ諸處ニ澤山集マリ居ルニ喩フ

滂沱ホウダ 涙ノ下タル形容又タ大雨ノ形容詩經ニ涕泗滂沱トアリ又タ易ニ涕ヲ出ス沱若タリトアリ(沱若トモ用ユ)又タ詩經ニ月畢ニ麗ク滂沱

タラシムトアリ(畢トハ星ノ名畢星ノ在ル處ニ月ガ見ハルハ雨フル「キザシ」ナリ)

墓木拱ボクコウ ス 人ノ死シテ後チ永ク年數ヲ歴ルト云フ義ナリ墓木ガ已

ニ「カ、」ハ「ボド」ニ大キクナル拱トハ兩手デ圍ミ持ツ義ナリ左傳ニ出

蒲柳ホウリウノ姿 又タ蒲柳ノ質トモアリ身體ノヨワキヲ謂フ即チ蒲ノ如ク柳ノ如ク柔弱ナリ世説ニ南宋ノ顧愷コウカイ之曰ク松柏ノ姿ハ霜ヲ經ルモ猶ホ茂ル蒲柳ノ姿ハ秋ヲ望ミテ先ツ零ツ(松ヤ檜柏ノ類ノ謂ユルトキ

ワギナレバ雪霜ニ逢フニ其色ヲ變セズ人ノ身體健全ニシテ艱苦ニ堪

ヘ得ラルハニ譬フ零トハ零落ニテ枯レ落ツルナリ)

蓬戶ホウ 穢カク 極貧ノ家ヲ謂フ蓬草ノ名ヲ以テ編ミタル戸、穢ノ底ナキ

者ヲ以テ扉ノ代リトシテ明ヲ取ルナリ淮南子ニ出ツ

蓬麻中ホウマチュウニ生ズ 荀子ニ蓬麻中ニ生ス扶タケスシテ自カラ直シト此ハ

人間ノ習慣ハ天成ヲナスノ意ヲ謂フ麻ハ直ナルモノユエ蓬ガ其中ニ生スレバ自然ニ「マツズク」ニナル善ニ交レバ善トナル理ナリ

蓬萊^{ホウライ}方丈瀛洲^{ホウソウヨウシュ} 仙人ノ居ル島ナリ此ヲ三神山ト謂フ漢書ニ出ツ

蓬頭乱髮^{トウランバツ} 頭髮ノ亂レタル狀ハ蓬ノ亂レタルガ如キニ譬ラ蓬ハヨ

モギニアラズ草ノ名ナリ

蓬首^{ホウシュ} 前條ニ同シ

蓬髮^{ホウハツ} 前條ニ同シ

蓬蒿^{ホウカウ}ノ間^{アイダ} 又タ蓬蒿ノ下トモアリ蓬モ蒿モ草ニシテ草ノ生ジタル

處ヲ謂フ莊子ニ蓬蒿ノ間ニ翱翔ストアリ(翱翔トハ鳥ノカケリ飛フヲ

謂フ)又タ士ノ仕ヘズシテ草野ニ在ルニモ譬フ

輔車唇齒^{ホウシャリシ} 兩國相ヒ扶ケ合フテハナレラレヌ形勢アルヲ謂フ東洋

各國ノ形勢即チ是レナリ輔トハ車ノ兩傍ニ在リテ車ヲ挾ミ維持スル

木ヲ謂フ車ト輔トハ互ニ無カル可ラズ唇ハクチビロ唇ト齒ト亦タ互

ニ扶ケ合フテ用ヲ爲ス唇無ケレバ齒ハ直接ニ風ノ害ヲ受クルナリ左

傳ニ諺ニ謂ユル輔車相依リ唇亡ンテ齒寒シトアリ

部 ノ ほ

輔車相ヒ依ル 前條ニ出ツ

貌甚ダ寢^{ボウシツ} 容貌ノミグルシキヲ謂フ又タ寢陋ノ語アリ史記ニ貌寢

トアリ

髦士^{ボウシ} 士ノ俊秀ナルモノヲ謂フ毛中ノ長キ毛ヲ髦ト云フ因テ髦ヲ取

シ詩經ニ出ツ(シ部俊髦ニ同シ)

暴戾恣睢^{ボウレイソウソ} 亂暴ニシテワガマハナルヲ謂フ戾トハ道理ニモトルナ

リ恣睢トハホシイママナリ睢ノ字ハ且ニ從ヒ佳ニ從フ目ニ作ル可ラ

ス睢ハ音スイ史記ニ出ツ

暴虎馮河^{ボウコホウカ} 向フ見ズニ危險ナルコトヲ爲スニ譬フ暴虎トハ虎ヲ空

手ニテ鑿チ殺スナリ馮河トハ舟ニヨラズ橋ニヨラズ無暗ニ河ヲ徒步

シテ涉ルナリ詩經ニ敢テ暴虎セス敢テ馮河セス又タ論語ニモ出ツ

曹騰^{ボウトウ} 眠氣ノ殘リタル心持ヲ謂フ曹ハ憎ニ同シ心目ノクラキナリ

騰ハ氣ノノボルナリ殘眠曹騰ノ語アリ

部 ノ ほ

鋪張 ホウカウ 大キク飾リテ言フノ意ニ用ユ鋪トハ布陳ナリ張トハ張大ナリ

墨守 ボクシユ 固ク已ノ説ヲ執リ守ルヲ謂フ宋ノ墨翟ガ城ヲ守リテ敵ヲ禦キ

澎湃 ホウハイ 水ノ盛ナル勢又タ波ノ相ヒツキアタル狀ヲ謂フ司馬相如ノ上

看 ケン 林賦ニ洵涌澎湃トアリ(洵涌ハ波ノワクラ云フ彭ハ澎ニ同シ)

彭湃 ホウハイ 前條ニ同ジ

褒貶 ホウヘン 褒トハ人ヲホメルナリ貶トハ人ヲソシル、オトスナリ晋ノ杜預

磅礪 ボウリキ ノ左傳ノ序文ニ出ツ 大氣ノ天地間ニ滿チ塞カルヲ謂フ韓退之ノ序文ニ磅礪而シテ

樸 ボク 鬱積トアリ又タ混同ノ義トモナルコトアリ

樸 ボク ナ斲リテ文ト爲ス 物事ヲ修飾スルヲ謂フ樸トハ材木ノ未ダ

ケヅラザルヲ云フ文トハ、カザルナリ材木ヲケヅリ之ヲミガキテ美麗

部 ノ ほ

餽餼 クイキ ニスル義ナリ書經ニ樸斲ヲ勤ムトアリ 餽トハ食フナリ餼トハ飲ナリ孟子ニ子古ノ道ヲ學ヒテ以テ餽

餼スルナリト 穆々 ボク 深遠ナル形容ナリ詩經ニ天子ハ穆々トアリ又タ和敬ノ狀ニモ

用ユルコトアリ 篷底 ホウテイ 船底ヲ謂フ篷トハ竹ヲ織リテ以テ舟ヲ覆フモノ(本邦ニテ「トマ」

ト云フ) 篷窓 ホウソウ 船窓ヲ謂フ(前條參看)

縫掖 ホウエキ 儒者ノ服ヲ謂フ逢ハ猶ホ大ト云フコトシ大袂衣ナリ禮記ニ逢

掖ノ衣ヲ衣ルトアリ 臍 ホウ ヲ噬ム 後悔スルモ及ハスト云フ「我カ臍ヲ噬マントスレドモ

「トド」カズ故ニ言フ左傳ニ若シ早ク圖ラサレハ後チ君臍ヲ噬マン

翻案 前人ノ作りシ詩文ノ趣向ヲ作り換ヘテ其裏ヲ言フヲ謂フ翻トハ

部 ノ ほ

反ナリ翻ノ字ニ通ズ翻案ノ例ハ文話詩話ニ見エタリ(詩林良材參看)
鵬程万里 譬ヘハ西洋ニ行クガ如ク海路ノ長遠ナルヲ謂フ又々單

ニ大洋ノ廣大ナルヲモ謂フ鵬ト云フ大鳥カータヒ羽ヲ撃チテ幾千里
ヲ飛フト云フ話ニ本ヅク(ト部圖南ノ條參看)

寶位 帝位ヲ謂フ易ニ聖人ノ大寶ヲ位ト曰フ

寶鈿王釵 鈿トハ婦人ノ頭ノ飾リ物釵トハカンザシ寶ト云ヒ玉ト

云フハ立派ナル意ナリ此語ハ梅花ヲ譬ヘタル處ニ多ク用キラレタリ
繡黻 古ノ天子ノ禮服ノ裳ニ繡シタル飾リヲ謂フ天子ノ衣裳ニハ十

二章トテ十二ノ采色シタル飾アリ繡黻ハ其中ノ二ツナリ衣ヲ衰衣ト
謂ヒ裳ヲ繡裳ト謂フ衰衣ニ繪ケル飾ハ日月星辰山龍華蟲ナリ(華蟲ト
ハ雉ナリ繡裳ニ刺繡シタル飾ハ宗彝藻火粉米繡黻ナリ)以上十二章繡
ハ白ト黒トノ糸ヲ以テ斧ノ形ヲヌヒシタルヲ謂フ蓋シ決斷ノ意ニ取
ルナリ黻ハ黒ト青トノ糸ヲ以テ兩己相ヒ背クノ形ヲヌヒシタルヲ謂

部 ノ ほ

フ蓋シ善惡ヲ辨別スルノ意ニ取ルナリ(兩己相背クトハ二ツノ己ノ字
ヲ互ニ反對ニ並ベタル義ニシテ亞字ノ如キモノ即チ亞ナリ)書經ニ出

ツ

繡屨 絳トテ赤キ帛地ニ斧ノ形ヲ繪キタル高サ八尺ノ屏風ヲ謂フ古

ハ天子ノ諸候ニ對スル時ハ必ス之ヲ背ニ置キテ立ツガ禮ナリ屨トハ
依ナリウシロニシテ依リカ、ルノ義ニ取ル書經ニ出ツ

翻案 前條翻案ニ同シ

蠶 小物ナレモ猶ホ人ヲ害スルヲ謂フ蠶トハ毒蜂

ナリ蠶トハ「サソリ」トテ最モ毒アル虫ナリ(蠶ニ類ス)左傳ニ君其レ邾ヲ
小ト謂フ無カレ(邾トハ春秋時代ノ小國ノ名蠶強スラ毒アリ而ルヲ况
ンヤ國ヲヤト毒虫スラ恐ルベシマシテ小ナレドモ國ヲヤ朝鮮ハ小ト
雖モ決シテ侮ル可ラス毒虫ノ憂無シトセス)

部 ノ ほ

ま 部

又タ一イッ秦シンヲ生シヨクス 又タ更ニ仇敵カウキヲ増スヲ謂フ史記ニ陳王陳渉ヲ

リノ相國大臣ヲ務メ居ル房君ト云ヘル人ガ陳王ヲ諫メテ曰ク秦未タ

亡ヒス而ルニ武臣ノ家ヲ誅スルハ此又タ一秦ヲ生スルナリトアリ

末班 末席ヲ謂フ班ノ義ハ序トモ位トモ次トモナルナリ又タ賤班ト

云フ語アリ位ノヒクキヲ謂フ左傳ニ出ツ

先ツ吾心ヲ獲タリ 彼ノ言ヒシコト行ヒシコト凡テ吾心ニ適カチフ

ヲ謂フナリ此ハ詩經ニ我古人ヲ思ハバ實ニ吾心ヲ獲タリトアルニ本

孟浪ノ言 精要クニシナラザル言妄ミダリナル言取リ亂レタル言ナドノ意ナ

リ「マンラント訓ムハ唐音ナリ莊子ニ出ツ

抹殺 物事ヲ除キ去ルヲ謂フ又タ墨ナドヲ以テ塗リケヌヲ謂フ殺ハ

ま 部

助字ニシテ意味ナシ笑殺、忙殺、惱殺、恨殺、ナド凡テ皆ナ然リ

枚舉 一ツ一ツ數フルヲ謂フ枚音バイ今マ俗語ニ從フ枚ハ个ナリ即

チ個ナリ

昶爽 夜ノアケ方ヲ謂フ昧ハクラキナリ爽ハ明カナリクラキト明カ

トノ間ナリ書經ニ出ツ

味死 殺サル覺悟ニテ申シ上ルナド云フ所ニ用ユ昧トハ冒カスナリ死ヲ

「オカシテ」ノ意ナリ此語ハ能ク上奏文ニ用キラレタリ蓋シ飾リノ言詞

ナリ戰國策、漢書等ニ出ツ

麻中ノ蓬 ホ部蓬麻中ニ生ス條ニ出ツ

漫滅 文字ナドノキエテバツトシテ見分ケノ付カヌヲ謂フ後漢書ニ

刺字漫滅トアリ刺トハ名刺ナリ

漫々 路ノ長遠ナルコト場所ノ廣キコトナドニ用ユ路漫々、夜漫々、ノ

語諸書ニ出タリ

漫漶

ストアリ

分明ナラサル貌ナリ漫ハ曼ニ通ス漢書ニ曼漶ニシテ知ル可ラ

滿腔

「カラダ」ノ中ニ滿ツルノ意ナリ腔トハ体軀ノ義ニシテ腔子ト云

フ俗語ヨリ出テタルナリ(子ハ助語ニシテ意味ナシ)滿腔子都テ是レ春意春ノ様ナルオダヤカナル氣ガ身體ニ滿チテアル(滿腔子是レ惻隱ノ心物事ヲアハレミ痛ム慈悲深キ心)滿腔ノ熱血(熱誠ナル忠義ノ心)ナド云フ語アリ多クハ宋代ノ語類ノ書ニ見エタリ

蔓衍

草木山川ナドノ廣ガリ延フルヲ謂フ又タ禍ナドノ「長ビク」ヲモ

謂フ其禍蔓衍(蔓、蔓衍)丘陵蔓衍ノ語アリ又タ子孫蔓衍ノ語アリ此ハ子孫ノ「フェル」ヲ謂フ

滿ハ損

招キ謙ハ益ヲ受ク 餘リ滿心スレバ人ニ惡マレテ損

失アリ謙トテ「ヘリクダレ」バ人我ヲ愛シ萬事ニツケテ利益アリ書經ニ出ツ

ま ノ 部

瞞着

人ヲ欺クヲ謂フ此ハ俗語ナリ着ノ字ハ助語ニシテ意味ナシ瞞

ハ欺ナリ

蹣跚踉蹌

跛者(ビツコヒク)醉人老人ナドノ「足モト」タシカナラズシ

テ歩スル狀ヲ謂フ蹣跚トハ旋リ行ク狀踉蹌トハ行クコト迅カラサルヲ謂フ蹠ノ字蹠ニ作レリ相通ス此語ハ宋以後ノ語ナリ蹠音槃ナリ

み ノ 部

三タビ

眩ヲ折リテ良醫ト爲ル 三トハ幾度ト云フ義ナリ眩ヲ

折ルトハ病痛ヲ歷テ勤苦ヲ重テシ意ヲ譬ヘテ云ヒシマデナリ偕幾度トナク病氣ニカ、リ苦痛ヲ嘗メテ「サマ」治療ノ方ヲ考ヘタル醫者ハ人ヲ治スル經驗アル者ナレバ則チ良醫タルノ資格ヲ有スルトナリ此語ハ何事ニ限ラズ勤苦ノ經驗ヲ積ミタル喩ニ用フ左傳ニ三タヒ折ヲ眩リテ良醫タルヲ知ルトアリ(諸說紛々注意スベシ)

水滴リテ石穿ツ

小害積ミテ大害トナル喩ナリ鶴林玉露ニ曰ク張

ま ノ 部

垂崖ナルモノ崇陽縣ノ令トナル一吏アリ庫中ヨリ出ツ其頭巾ノ下ニ
 一錢アルヲ視ル之ヲ詰レバ乃チ庫中ノ錢ヲ盜ミシナリ垂崖命シテ之
 ヲ杖タシム吏怒リテ曰ク一錢何ゾ道フニ足ラン即チ我ヲ杖ツカ汝チ
 能ク我ヲ杖ツモ我ヲ斬ルコト能ハサラント垂崖筆ヲ援リ判シテ云フ
 (裁判言渡ナリ)一日一錢ナレバ千日千錢繩鋸木斷水滴石穿ト木ヲ縛リ
 タル繩ニテモ久クナレバ鋸ノ代用ヲ爲シテ其シバリ目ヨリ自然ニ木
 ガ斷レルナリ又タ水ガ石ノ上ニ「ボチ」滴リテ長ク止マサレハ堅キ
 石ニテモ自然ニ穴ガアクト同シク一錢ヅ、久シク積マバ千錢萬錢ト
 モナルベシ世間事物ノ理皆ナ此ノ如シ小吏ノ罪小ト雖モ捨テ置クベ
 カラズ垂崖即チ劍ヲ杖ツキ階ヲ下リ遂ニ其首ヲ斬ルト
 水到リテ渠成ル 學問アレバ名譽モ地位モ自然ニデキルト云フ
 様ナル所ニ用ユ一事ヲ修メ得レバ此ニ他ノ利益ガ附隨シテクル水ガ
 流レ到リテ自然ニ溝渠ガデキル此語多ク道學ノ書ニ見ユ朱子文集ニ

水ヲ掬スレバ月手ニ在リ 自然ノ妙趣ヲ謂フ千良史ノ春山月
 夜ノ詩ニ曰ク春山多勝事賞玩夜忘歸(春山ハ景色善ケレバ樂シキ事多
 ク玩ヒ觀テ夜ニ入ルモ歸ルヲ忘レタリ)掬水月在手弄花香滿衣(掬トハ
 兩手ニテスクフナリ)月水ニ映ズ故ニ水ヲスタエバ月ガ手ニ在リ又タ
 花ヲ弄スレバ香カ自然ニ衣ニ一抔ウツル)
 水ハ方圓ノ器ニ隨フ 人ノ心ハ如何様トモナル善ニ交レハ善
 トナリ惡ニ交レハ惡トナルノ譬ナリ韓非子ニ孔子曰ク人君ハ猶ホ孟
 ノゴトシ孟方ナレバ水方ナリ孟圓ナレハ水圓ナリトアルニ本ヅク(此
 ハ人君ハ人民ノ手本ナレバ君ノ善惡ハ直チニ人民ニ感染スルヲ謂フ
 孟トハ器ナリ圓トハ圓ナリ)
 水落テ石出ヅ 水ガ減シテ河底ノ岩石ガ水上ニアラハレ出ツル
 ヲ謂フ宋ノ蘇東坡ノ後赤壁ノ賦ニ出ツ是レ自然ノ理ヲ謂フナリ

水清ケレバ魚無シ 性質嚴シク人ヲ觀察スレバ交際仲間ガ無ク

ナルヲ謂フ又タ性質清潔スギルモノハ人ヲ包ミ入ル、一六ケシト云
フヲ謂フ孔子家語ニ曰ク水至テ清ケレバ則チ魚無ク人至テ察ナレハ
則チ徒無シトアリ水ノ澄ミタル處ニハ大魚ハ居ラヌ大魚ハ水ノ多少
濁リテ淀ミタル處ニ往ムモノナリ故ニ然カ言フ又タ後漢ノ班超ガ任
尙ニ教ヘテ曰ク君ノ性嚴急ナリ水清ケレハ大魚無シ宜シク蕩佚簡易
ナルベシト凡テ物事ヲ簡畧ニシ細事ヲ氣ニ懸ケズ打チ棄テ置クベシ

民坊 城中ノ町ヲ謂フ大業雜記ニ曰ク民坊各周四里四門ヲ開キ大街

ニ臨ム(四里四方ニシテ又タ其四方ノ出口ニ門ヲ作ル)門ハ並ニ重樓ヲ
爲ス飾ルニ丹粉ヲ以テ之ヲ塗ル洛南ニ九十六坊アリ洛北ニ三十坊ア
リ大街小陌縱橫相對スト

自カラ彊メテ息マヌ ツトメ、ハタラキテ、シバラクモ休マヌ彊
ハ強ニ同シ易ニ出ツ

部 ノ み

み

部

耳ヲ掩フテ鈴ヲ盜ム 惡事ヲ爲シテ之ヲ改メス自カラ尤モラシ

キ理窟ヲツケテ巳ノ心ヲ欺キ一時ノ氣ヤスメヲ爲スヲ謂フ此語ハ本
ト諺ヨリ出ツ鈴ヲ盜ムニテハ意味解シ難シ鐘ヲ盜ムノ誤リナラン呂
氏春秋ニ茫氏亡ブ其鐘ヲ得ルモノアリ(茫氏ノ鐘ヲ盜ム)之ヲ負フテ走
ント欲スレバ則チ大鐘ニシテ負フ可カラズ椎ヲ以テ之ヲ破ル鐘鏗然
(金ノ聲)トシテ音アリ人ノ之ヲ聞キテ奪ヒ取ンコトヲ恐レ遽カニ其耳
ヲ掩フ(已カ耳ヲ掩フテ人ノ耳ヲ掩フ能ハサル故ニ何ノ役ニモ立タ
ズ只タ已カ心ヲ欺キテ自カラ其神經ヲ安ンセントス人ノ過ヲ聞クヲ
惡ムコト亦タ猶ホ此ノコトシト(吳虎臣ノ能改齋漫錄ニ出ツ)

耳ヲ貴ヒテ目ヲ賤シム 聞クコトノミヲ好ミテ實地ニ自カラ見

ルコトヲ好マス又タ古ノ事ヲ聞クヲ好ンテ現今ノ事ヲ見ルヲ好マス
ナド云フ意ナリ桓子新論ニ曰ク世成ナ古ヲ尊ヒテ今ヲ卑シム聞ク所
ヲ貴ヒテ見ル所ヲ賤シム漢ノ張平子ノ東京賦ニモ出ツ

名詮自性

名ガ其物ノ實體ヲ顯ハシオルヲ謂フ佛經唯識論ニ出ツ

妙齡

年ノ若キヲ謂フ青年妙齡ノ語ハ諸書ニ散見ス唐ノ杜甫ノ詩ニ

明公獨妙齡トアリ

楣間ニ掲グ

書畫ナドノ額ヲ梁上ニカ、グルヲ謂フ楣ハ梁ナリ蓋

シ梁木ノ正面ニ當ルハ恰モ人ノ面ニ眉アルガゴトキノ意ニ取レルナ

む 部

矛盾

言フコト爲スコトノ前後相ヒ合ハサルヲ謂フ即チ撞着スルコ

ト(ト部撞着參看)韓非子ニ楚人ノ楯ト矛トヲ鬻グ者アリ(楯盾同ジ鬻ハ

賣ルナリ)自カラ之ヲ譽メテ曰ク吾楯ハ堅固ナレバ如何ナル物モ之ヲ

能ク破ブルヲ無シ又タ其矛ヲ譽メテ曰ク君カ矛ノ能ク利ナルハ如何

ニ堅キ物トテモ突キ破レサルコトナシト或ヒト曰ク子ノ矛ヲ以テ子

む

ノ楯ヲ陷破セバ何如ト其人應フルコト能ハサルナリ夫レ陷ス可カラ
サルノ楯ト陷セサルコト無キノ矛ト世ヲ同フシテ而シテ立ツ可カサ
ルナリトアリ(破レサル楯ト何物ニテモ切り得ル矛トハ同時ニ両ツナ
ガラ有ルベキ理無シ楯ハ禦クノ道具矛ハ害スルノ道具ナリ故ニ楚人
ノ説ハ即チ前後ツヂツマノ合ハザル説ナリ是ヲ矛盾ノ説ト謂フ此語
ハ又タ尸子ニモ見ユ)

無鹽

古ノ醜婦ノ名ナリ新序ニ鍾離春ナルモノハ齊ノ婦人ナリ極醜

無雙ナリ號シテ無鹽女ト曰フト(西施ハ美人無鹽ハ醜婦此兩人ハ能ク

史書ニ見エタリ)

無賴

無ハ音ブナリ家ニ取リテ更ニ利益ナク役ニ立タヌヲガマ、レモ

ノヲ謂フ賴トハ利ナリ一説ニ江淮ノ間(楊子江ト淮水トノ地方)小兒ノ

多ク狡猾ヲ爲スヲ謂フテ無賴ト爲ストアリ(史記ニ出ツ)

無聊

無音ブナリ心安ンセズシテ樂マサルヲ謂フ聊ハ安ナリ漢ノ李

陵ガ蘇武ニ答フル書ニ曰ク子ト別レシ後ハ益々復タ無聊ト
無盡藏ムシツサツ イクラ物ヲ取ルモ盡キルコトナキヲ謂フ本ト佛經ノ語ナ
リ宋ノ蘇東坡ノ前赤壁賦ニ此語ヲ引キテ曰ク是レ造物者ツクリモノノ無盡藏ナ
リトアリ

無慮ムリョ 大畧ト云フ如シザツト計算シタル所ノ義ナリ現今ノ人ノ善ク
用キル約何人約何里ノ約ノ意ニ當タル漢書ニ天下大抵無慮皆ナ金錢
ヲ鑄ルトアリ

亡慮ムリョ 亡ハ無ナリ前條ニ同シ漢書ニ亡慮萬二千人トアリ
亡狀ムシヨウ 不フ作法ハク又タ不フ埒ラチナド云フニ當ル漢書ニ出ツ

無狀ムシヨウ 前條ニ同シ
無何有ムカウノ郷キョウ 樂土又タ仙郷ナド云フニ當タル無トハナシナリ何有
トハ何ンカ有ランナリ矢張り無ノ義ナリ郷トハサトナリ此ハ莊子ノ
寓言ニシテ假リニ設ケテ云ヒシ詞ナリ自カ造物者ツクリモノト伍シ自然ノ道理

部 ノ む

ニ心ヲ樂シメタシトノ意ヲ無何有ノ郷ニ遊ハント云ヘリ

無稽ムシケイノ言ゲン 考ヘモ無キ妄言妄說ヲ謂フ稽トハ考ナリ書經ニ無稽ノ
言ハ聽クコト勿レ

部 ノ む

母望ボウノ福フク 期セズシテ至ル福ヲ謂フ母ハ無ナリ期望スルコト無ク
シテノ意ナリ史記春申君ノ傳ニ朱英曰ク世ニ母望ノ福アリ又タ母望
ノ禍アリ今マ君母望ノ世ニ處シテ母望ノ主ニ事フ安ンゾ母望ノ人無
カル可ケンヤ(母望ノ世トハ禍福ノ期ス可カラサル世ナリ母望ノ主ト
ハ人君ハ喜怒測ラレサル者多シ喜ベハ福アリ怒レハ禍アリ即チ禍福
反復常ナラズアテニシテ特ム可ラサルモノナリ母望ノ人トハ思ヒガ
ケザル所ノ人即チ期セザル人ガ來リテ我ヲ助ケ救フヲ謂フ)

母望ボウノ禍ワ 前條ニ出

無腸公子ムシヨウキョウシ 蟹カニノ異名ナリ宋簡齋ノ詩ニ但見橫行疑是蹊不知公子實

無腸トアリ

無爲ノ治 自然ニ任セテ治ムルヲ謂フ太古ノ政治ハ多ク皆ナ是ナ

リ蓋シ人民ガ質樸ニシテ萬事繁雜ナラサル時ナレバナリ論語ニ無爲

ニシテ治ムル者ハ其レ舜ナルカトアリ

寧ロ雞口トナルモ牛後ト爲ル無レ 「イツソ小ナルモノノ頭

トナルモ大ナルモノノ尻ニハツクナ即チ小國ノ主トナルモ大國ノ附

屬國トナルハ恥ナリ後字ハコウト訓ム可シ口ト後トハ韻ヲフメリ史

記ニ蘇秦ガ韓ノ惠王ニ説ヒテ曰ク韓ノ勁ト大王ノ賢トヲ以テ秦ニ事

ヘントスルハ天下ノ笑ト爲ル此レヨリ大ナルモノナシ臣聞ク鄙諺ニ

曰ク寧ロ雞口ト爲ルモ牛後ト爲ルヲ無レトアリ秦ヲ以テ牛ニ比シ秦

ニ反抗セシメントノ言ナリ(當時秦ハ大國ナレバ猶ホ牛ノ大ノ如シサ

テ口ト云ヒシハ上ニ在リテ貴シノ意ナリ尻ハ下ニ在リテ賤シ口ハ食

ヲ容ル、ノ所ナリ尻ハ糞ヲ出スノ所ナリ)

鞭ハ長シト雖モ馬腹ニ及ボサズ 「イクラ長キ鞭デモ馬腹ハ

部 ノ む

む

部

「ウツ可キ所ニアラズ幾等大國ニシテ勢力強大ナリト雖モ理ニ於テ手

ヲ着スベカラサル所ニハ手出ス可カラサルニ喩フ「及ホサズ」ノ解ニ二

説アリ一ハ及ホス能ハスト解シ一ハ及ホサ使メスト解ス余ハ後説ヲ

以テ愈レリトナス馬腹ニ長鞭ノ「トドカヌ」理ナシ「トバク」ト雖モ擊ツ可

キ所ニ非レバ及ホサシメサルノ意ナリ及ホス能ハサルニ非ス左傳ニ

宋ガ楚ニ伐タル、ヲ以テ救ヲ晋ニ乞ヘリ其時ニ晋公ハ之ヲ救ハント

セリ然ルニ晋ノ大夫伯宗曰ク古人言フアリ曰ク鞭ノ長シト雖モ馬腹

ニ及サス天方ニ楚ニ授ク未タ與ニ争フ可ラス晋ハ強シト雖モ能ク天

ニ違ハンヤトアリ晋ハ強シト雖モノ句ハ鞭ノ長シト雖モノ句ニ對シ

能ク天ニ違ハンヤノ句ハ馬腹ニ及ホサスノ句ニ對ス天トハ一ノ理ナ

リ晋ノ勢力強大ニシテ楚ヲ伐ツニ伐テヌコトハ無ケレトモ理ニ於テ

伐タヌガ善ト云ヘリ輕ク見ルベシ重ク見レバ却テ弊アリ

め 部

名節 メイキョウ 名ハ名譽ナリ節ハミサオナリ

名刺 メイシ 「ナフダ」ヲ謂フ古昔紙無キ時代ハ木或ハ竹ヲ削リテ之ヲ札トシ其上ニ姓名ヲ書セリ故ニ名刺ト曰フ刺トハ「ケヅリ」「ソグ」ノ義ナリ刺ト刺ト字本ト異レリ後世ノ人兎角之ヲ同視シテ顧ミサルハ誤リナリ

刺字ハ束トリナリ刺字ハ束トリナリ刺ハ刺殺ノ刺ナリ音「シ」又タ「セキ」トナル刺ハ音「ツ」辰ル義ナリ乖刺クワイライ（ソムキモトル）潑刺ハツラツ（魚ノ躍ル聲）等ノ語アリ後漢書ニ一刺ヲ懷ニス又タ刺字漫滅スナド出テタリ

名實 メイジツ 其物ノ名ト其物ノ實際トヲ謂フ又タ名ハ名譽實ハ實功ヲモ謂フ文字ハ所ニヨリテ少々ノ轉義アリ知ラサル可ラス

名教 メイキョウ 人倫道德ノ教ヲ謂フ名ト云フハ父子ノ親、君臣ノ義、夫婦ノ別、長幼ノ序、朋友ノ信ナドト名目ヲ立テ、教ユル故ニ然カ言フナリ晋書ニ

樂廣曰ク名教ノ内自カラ樂地アリト

名聲 メイセイ 名譽ノ甚シク弘マルヲ謂フ名聲ハ其人ノ名ノ聞ユルナリ籍甚トハ籍トハ狼籍ノ籍ニシテ四方ニヒロガリ「チラカル」ノ義ナレ

目ヲ瞋イカラシ膽キモヲ張ル 怒リテ氣ヲ奮ヒ立テタルヲ謂フ膽ヲ張ルトハ力ヲ入レタル狀ヲ言ヒタルナリ史記張耳傳ニ將軍目ヲ瞋ラシ膽ヲ張リ、萬死、一生ヲ顧ミサルノ計ニ出ツトアリ（萬々死スル決心ニテ事ヲ爲ス）又タ唐書ニ明目張膽ノ語アリ此ハ氣力ヲ奮ヒ起シタル時ノ狀ヲ謂フ前ト粗ボ同シ併シ此ハ怒リタル意ナシ單ニ憤發ノ意ナリ

命中 メイチュウ 弓矢銃丸ノ「マトオ」ニ中ルヲ謂フ命トハ吾ガ命令スル所ニノ意ナリ

命世ノ才 メイセイノサイ 世間ニ名高キ大才ノ人ヲ謂フ命ハ名ノ義ナリ即チ名世ト云フニ同シ其他命世ノ雄、命世ノ者等ノ語史類ニ散見ス

明堂 天子ノ政事ヲ爲ス宮ヲ謂フ明トハ諸侯ノ尊卑ヲ明カニスル義

ナリ古ハ天子諸侯ヲ明堂ニ朝シテ政ヲ聽カレタリ孟子ニ夫レ明堂ハ王者ノ堂ナリトアリ

明珠老蚌ニ出ヅ 優レタル子ヲ生シテ謂フ明珠ハタマニテ子ニ

譬エ老蚌トハ親ニ譬フ蚌ハ蜃ノ類即チ蛤ノ種類ナリ老貝ガ珠ヲ生ム

ト云フナリ三輔決錄ニ後漢ノ孔融カ韋康其弟韋誕ノ兩人ヲ見テ何

レモ其才學ノ絶倫ナルヲ嘆シ其父ニ書ヲ贈リテ曰ク意ハザリキ雙珠

近ク老蚌ニ出ントハト(雙珠トハ二ツノタマ兄弟ニ譬フ言フハ此ノ如

キ立派ナル子ガ汝ノ生ミシモノトハ思ヒガケザリキ)又タ北齊書ニ邢

劭陸印ノ父ニ謂フテ曰ク老蚌遂ニ明珠ヲ出スト

明月珠 玉ノ明カナルコト月光ニ劣ラサルノ意ヨリ出テ、名ツケ

シモノナリ漢ノ鄒陽ノ梁王ニ上ツル書ニ明月ノ珠、夜光ノ璧トアリ(ヤ

部夜光ノ條參看)

部 ノ め

明目張膽 前ノ目ヲ瞑ラスノ條ニ出ツ

明火ヲ觀ルガ若シ 視ル所甚タ明カナルヲ謂フ書經ニ予、火ヲ觀

ルカ若シト

明哲 智ノ明ナルヲ謂フ哲トハ智チリ蓋シ古ヘ齊宋間ノ方言ナリ書

經ニ之ヲ知ルヲ明哲ト曰フトアリ哲ト哲ト字異レリ混スベカラズ

面壁九年 學業ニ精シク通シタルヲ稱スルニ用ユ傳燈錄ニ達磨天

竺ノ二十七祖ニ遇フテ法ヲ得嵩山ノ少林寺ニ止マル面壁シテ坐ス終

日然カリ(山ノ絶壁ニ向ヒテ坐シ精神ヲ鍛鍊スルナリ)越ヘテ九年ニシ

テ大ニ神悟スル所アリ其法ヲ以テ之ヲ惠可ニ傳フトアリ

面折廷爭 天子ノ面前、又タ朝廷ナドニテ政事又タ君事ニツキテ爭

ヒ論スルヲ謂フ史記ニ出ツ

面爭庭論 前條ニ同シ宋ノ歐陽修ノ文ニ出ツ

面諛 其人ノ面前ニテ諛ヒ媚ブルヲ謂フ孟子ニ讒諂面諛ノ人至ルト

部 ノ め

(人ニヘツラフ者ハ又タ人ヲ讒スル者ナリ)

面友

「ウワベ」ノミノ交際ニシテ精神上ノ交リニアラサルモノヲ謂フ

楊子方言ニ朋ニシテ心ナラサルハ面朋ナリ友ニシテ心ナラサルハ面友ナリ(面ヲ以テ交リ心ヲ以テ交ハラス)面友面朋ハ心交ニ反對ニシテ

字面甚タ面白シ

面縛

「シバラレタルヲ謂フ縛トハ手ヲ後ニシバリタルナリ面トハ手ヲ縛ハラレテ徒ニ其面ヲ見ルノ意ナリ左傳ニ許男面縛壁ヲ衝ムトアリ(許國君ガ降參シタル時ノ様ヲ云ヒシモノニテ壁ヲ口ニ加ヘテ行クハ先方ノ土産ニスル爲ナリ蓋シ手ヲ後ニ縛セラレテ居レバ持チ行ク能ハサルニヨル)

冥々 暗キコトナリ又タ事ノ未タ外面ニ見ハレザルヲモ謂フ冥々ヲ以テ事ヲ決スルト云ヘバ物ノ理ニ暗キニモ拘ハラス無茶カラ事ヲ仕遂ルナリ邪ヲ冥々ニ禁スルト云ヘバ邪惡ノ念ノ外ニ見ハレサル内ニ

盟

之ヲ戒メ防クナリ

盟ヲ尋ス 以前ニ會シテ互ニ約セシコトヲ復タ温ムルヲ謂フ尋トハ燭ナリアタムナリ左傳ニ魯哀公吳國ト皐蒙ノ地ニ會ス吳盟ヲ尋センコトヲ請フ魯子貢ヲシテ對ヘシメテ曰ク盟ハ信ヲ固クスル所以ナリ苟クモ盟アラバ改ム可カラサルナリ若シ改ム可ケレハ盟何ソ益アナン今マ吾子盟ヲ尋セント曰フ若シ尋ス可ンバ亦タ寒ス可キナリト(一タヒ盟ヒタルコトハ決シテ背ク可カラズ然ラハ復タ尋スル必用無し若シ強テ之ヲ尋セントスレバ此レ前約ヲ改メントスルモノナリ且ツ盟ニシテ尋スルコトガ勝手ニ爲シ得ラルルナラバ又タ勝手ニ寒スコトモ爲シ得ルナリ安ンソ此ノ如キ理アランヤ尋ト云ヒ寒ト云フ甚

タ面白キ語ナリ寒トハ約ヲ忘ル、意ナリ)

鳴鏑

「カブラヤ」ヲ謂フ矢ノネガ蕪ノ形ニ似テ孔ヲ穿チアリ射レハ空氣ヲ通シテ鳴ルナリ史記匈奴傳ニ鳴鏑ヲ作爲ストアリ、

瞑眩

目ノ潰亂(クワイラシ)目マイスルヲ謂フ書經說命ニ曰ク若シ藥、瞑眩セサレハ厥疾(クワシヤヒイ)瘳(クワシヤヒイ)エズトアリ(大病ノ時ニハ劇シキ藥ヲ以テ之ヲ攻メ目マイスル程ニ藥ガキカ無ケレバ其疾ハ決シテ治セス性質ノ非常ニ僻シタルモノハ非常ナル艱苦ノ事ヲ以テ心ヲ矯メ正サ、レバ其癖ハ治セス)

瞑音

縣々

長クシテ絶ヘサル形容ナリ詩經ニ縣々タル葛藟(カヅラ)トアリ

螟蛉子

養子ヲ謂フ螟蛉トハ桑木ニ居ル少サキ青虫ナリ(クワラ)トテ土蜂ガ其青虫ノ子ヲ脊ニ負ヒ連レ歸リ之ヲ養ヒ育シテ己ノ子ニ化ス詩經ニ螟蛉子アレハ(クワラ)之ヲ負フトアリ

もノ部

毛錐子

筆ノ異名ナリ錐ハキリ筆ノ先ノトガリタル意ヲ表ス子ハ助

語ナリ五代史ニ弘肇(クワシヤヒイ)曰ク朝廷ヲ安ンジ禍亂ヲ定ムルハ直ダ大劍長鎗ヲ須ユ安ンゾ毛錐子ヲ用キン(國ノ亂ヲ定ムルニハ兵器ヲ必用トス決シテ文筆ヲ恃ム可ラス)

毛穎

筆ノ異名ナリ穎ハ銳ノ義ニシテ先ノトガリタル「スルドク」ナリタルヲ謂フ故ニ人ノ才ノ「スルドク」秀テタルヲ穎才ト云ヒ又タ秀穎ト云フ唐ノ韓退子ガ毛穎傳トテ筆ヲ人ニ擬シテ作りタル戯作文アリ

目送

人ノ往クウシロ姿ヲ見送ルヲ言フ左傳漢書ニ出ツ

目眦

眦ハ皆ニ同シ目ノ際ヲ謂フ此字三音アリ「シ」「セイ」「サイ」ナリ何レヲ稱スルモ差支無シ意義同シ史記ニ樊噲ノ目眦盡ク裂クトアリ怒リテ目ヲ張リツメタル所ガ「サモ裂ントスル様デアリシトゾ」

目擊

目デ見ルヲ謂フ擊トハ眼光ノ注ギ射ル義ナリ莊子ニ出ツ

目笑

言ニアラハサズシテ目ト目ト互ニ見合セテ笑フヲ謂フ史記

ニ出ツ

日食

食物ヲ奢ルヲ謂フ又タ何事ニヨラズ外面ノ形式ハミヲ喜ミテ實際ヲ務メサルニ喩フ飲食物ハ本ト口腹ヲ養ヒ口腹ニ適スルヲ必用トス然ルニ奢侈ヲ事トスル人ハ味ノ美ナルノミヲ以テ満足セス其食物ヲ種々ノ色ヲ以テ之ヲ染メ或ハ様々ニ之ヲ飾リテ以テ器上ノ玩ト爲ス是レ口ヲ以テ食フニアラスシテ目ヲ以テ食フモノナリト迂書ニ見ユ(日食耳食何レモ其字面オモシロシ耳食ノ條參看)

沐猴

ニシテ冠ス 人ニシテ人ラシキ舉動ナキヲ謂フ沐猴トハ戰國ノ代楚ノ方言ナリ即チ猿ノコトナリ史記項羽紀ニ韓生曰ク人ハ言フ楚人ハ沐猴ニシテ冠スルト果シテ然リト羽之ヲ聞キテ韓生ヲ烹ル(項羽ハ南方楚ノ生レナリ性質躁暴ニシテ物ニ落着無シ恰モ猿ニシテ冠ヲ着スルカ如シト云ヒチ罵レリ羽因テ之ヲ烹殺ス)此語ハ猶ホ史記酷吏傳ニアル虎ニシテ冠スト云フ語ト語氣同ジ

部

ノ

も

門扇

トビラ即チ扉ナリ

門閥

家柄ヲ謂フ閥トハ伐ナリ伐トハ巧ヲ積ムノ義ナリ其先祖ノ功勞ニヨリテ家柄ガ貴クナリタルナリ(ハ部閥閥ノ條參看)

門地

前條ニ同シ晋書ニ出ツ

門外漢

局外ノ者ヲ謂フ漢トハ男子ノ義ナリ(凡テ其事ニ關係ナキモ

孟浪

(ま部ニ出ツ)

孟賁

(は部賁育ノ條ニ出ツ)

物ヲ開キ務ヲ成ス

人ノ未タ知ラサルコトヲ開發シ人ノ未タ爲サルコトヲ成就スルヲ謂フ易ノ繫辭ニ曰ク夫レ易ハ物ヲ開キ務ヲ成シ天下ノ道ヲ冒フ斯ノ如キノミナリトアリ

莽蒼

廣キ野原ヲ謂フ我國古ノ武藏ガ原ノ如キモノナリ莽ハ草莽トテ草ノ生ヘ繁リタルヲ云フ蒼ハ青キ義ナリ莊子ニ莽蒼ニ適ク者ハ三

部

ノ

も

餐シテ反ル腹猶ホ果然タリトアリ(野外ニ往ク者ハ三度ノ食ヲ爲シテ
反リ來レバ腹猶ホ果然トシテ實テリトナリ此ハ百里千里ヲ旅行スル
者ニ比シテ小旅行ナレバ三度ノ食ノ用意ニテ十分足レト云フ意ナリ)
惘然 志ヲ失フサマヲ謂フ即チ氣拔シテボートシタル狀ナリ
惘々 前條ニ同シ

蒙塵 天子ノ宮ヲ出テ、他方へ逃ル、ヲ謂フ玉体ニチリヲ受ケラル
、意ナリ左傳ニ出ヅ

蒙衝鬪艦 蒙衝トハ敵船ニ衝キ進ム舟ニシテ大船ニアラズ走ル
速カナルヲ要スル爲メナリ此船ハ生牛ノ皮ヲ以テ船ノ腹背ヲ蒙ヒタ
ルモノナリ鬪艦ハ戰ノ船ナリ三國ノ代赤壁ノ戰ニ吳ノ周瑜ノ軍蒙衝
鬪艦十艘ヲ取り以テ魏軍ヲ撃チ破レリ三國志ニ出ヅ

蒙茸 草ノ亂レ生ヘタルヲ謂フ宋ノ蘇東坡ノ後赤壁ノ賦ニ蒙茸ヲ披
キトアリ(草ヲ兩手ニテ推シ開キ進ムナリ)

部 ノ も

蒙 蒙ヲ發シ落ヲ振フ 物事ノ甚ダ容易ナルニ喩フ漢書ニ淮南王安

謀反ス曰ク漢廷ノ大臣獨リ汲黯ハ直諫ヲ好ミ節ヲ守リ義ニ死ス惑ス
ニ非ヲ以テシ難シ(汲黯ハ正直ノ人ナレハ惡道ヲ以テ惑ハス可ラス中
々手ニ合ハヌ人間ナリ)丞相公孫弘ノ如キニ至リテハ蒙ヲ發シ落ヲ振
フガ如キ耳ト(公孫弘ノ如キハ我手ノ中ノ物ニテ如何様トモナル其容
易ナルコトハ物上ニアル蒙塵ヲ發去シ樹上ノ枯葉ヲ振ヒ落スカ如シト
摸稜 二心有リテ決セサルヲ謂フ稜ハ四角ナル木ナリ摸ハ手ニテ摩

擦スルナリ唐ノ蘇味道相(大臣)ト爲ル或ヒト問フテ曰ク公何ノ道ヲ以
テ天下ノ政治ヲ化理スルヤト味道ニ言無ク但ダ手ヲ以テ巳ノ腰掛ノ
木ノ角ヲ摩擦スルノミト云フ話アリ此レ即チ摸稜大臣ニシテ萬事アリ
イマイヲ以テ推シ通ス考ヘナリ今世尤モ此様ノ人物増加ノ傾キアリ
果シテ男子ノ所業ナルカ(委細ハ唐書ニ出ヅ)摸ハ模ト字異レリ摸ハ法
、手本ノ義ナリ模範ノ模ナリ摸ハ手ニテサグル「スル」ノ義ナリ摸捉ノ

部 ノ も

摸ナリ然レモ場合ニヨリテハ相通セシコトモアド模摸何レモ音ボ
網羅^{モツ} 物ヲ寄セ聚ムルヲ謂フ網ニテ鳥魚ヲ捕フル義ニ本ツク羅モ網
ナリ又タカ、ルノ義アリ漢書ニ舊聞ヲ網羅ストアリ

やの部

夜光ノ珠^{タマ} 古ノ寶珠ナリ海ヨリ取レルモノヲ珠ト云ヒ山ヨリ取レ

ルモノヲ玉ト云フ此珠ハ南海ヨリ出テタルモノニシテ暗夜ヲ照スノ
意ヨリ夜光ト名ツク戰國策ニ楚王カ夜光ノ璧ヲ秦王ニ獻ストアリ

夜叉^{ヤク} 惡鬼ヲ謂フ本ト藥叉ノ訛ナリト云フ西域記ニ出ツ

野乘^{シヨク} 民間ノ細事又ハ雜事ヲ記載シタル書籍ヲ謂フ古ハ之ヲ小説ト
云フ(今世ノ小説トハ異レリ)ハ部稗史野乘ノ條參着)

野史^{ヤシ} 民間ニテ作りシ歴史ヲ謂フ此ハ正史ニ對シテ言フナリ其作り
シ人自カラ野史氏ト稱ス

やの部

野衲^{ヤナ} 僧ヲ謂フ衲トハ僧衣ナリ因テ僧ガ自ラ稱シテ衲ト云フ

野心^{ヤシン} 人ニ服從セズ人ヲ害スルノ心アルヲ謂フ左傳ニ楚ノ司馬子良、
子越叔ヲ生ム子文曰ク必ス之ヲ殺セ諺ニ曰ク狼子野心ト是レ乃チ狼

ナリ其レ畜フ可ケンヤトアリ(子越叔ハ狼ノ子ノ山野ニ在リテ人ニ馴
レ服セス遂ニハ人ヲ害スルガ如シ到底ソダテ難シ之ヲ殺スニ若カス
ト然ラハ山野ノ性アルヨリ野心ト云ヘルナリ今世人ノ用キル野心ノ
語ハ此ヨリ轉シタルモノナリ)

野ニ遺賢無シ 民間ニ用キラレズシテ遺^スラレタル賢人無キヲ謂フ

太平ノ時代ハ皆ナ然ラサルハ無シ書經ニ出ツ

野人獻芹^{ヤジンケンキン} ケノ部獻芹ノ條ニ出ツ

椰揄^{ヤウ} 椰揄ハ手ヲ拊チテ弄笑スルヲ謂フ即チカラカウコトナリ後漢
書王霸ノ傳ニ市人皆大ニ笑ヒ手ヲ舉ケテ之ヲ椰揄ストアリ又タ晉ノ
羅友博學ニシテ文ヲ能クス時ニ桓温僚佐(下役人)ヲ集メテ郡ヲ得ル者

やの部

ヲ餞ス(郡ノ役人ト爲リシ者ノ往クヲ送ル)友後レ至ル温ニ向ツテ曰ク
中道ニシテ鬼ノ椰揄ニ逢フ云ヘラク只タ汝ガ人ノ郡ト作ルヲ送ルヲ
見テ人ノ汝ガ郡ト作ルヲ送ルヲ見スト(鬼云フ汝ハ他人ノ出世シテ旅
行スルヲ送ルノミニテ人ガ汝ノ昇進シテ他ニ行クヲ送ルヲハナイト
是レ鬼ノ爲ニ椰揄セラレタル處ナリ)温因テ友ヲ薦メテ襄陽ノ太守ト
爲ス(友ハ己ガ出世ノデキザルヲ恨ミ以テ温ヲ諷ス)右ハ世説ニ出ツ

藥籠中ノ物

用ニ立ツ人物ヲ謂フ藥ノ入りタル器ヲ藥籠ト曰フ譬
ヘハ人家ノ平生藥料ヲ買ヒ求メ之ヲ袋中ニ貯ヘ置キ萬一病ノアル時
ハ之ヲ服用シテ其病ヲ醫スルハ猶ホ當路ノ大臣ナドガ平生ヨリ人材
ヲ我門下ニ集メ置キテ一ハ朝廷ノ爲メ國家ノ爲メ一ハ自身ガ生前死
後ノ爲メニ資セントスルガ如シ然ラハ則チ藥籠中ノ物トナランニハ
材德衆ニ起ヘタル人ナラデハ六ヶ敷コトナリ唐書ニ元行冲、狄仁傑(大
臣)ニ謂ツテ曰ク下ノ上ニ事フルハ之ヲ富家ノ貯積シテ以テ自カラ資

尤物

格別ニスグレ、カハリ、シモノヲ謂フ或ハ美女ヲ指スコトアリ或
ハ珍器玩寶ヲ指スコトアリ左傳ニ夫レ尤物ハ以テ人ヲ移スニ足ル有
リト(此ハ美女ヲ云フ抑モ美女ハ人ノ心ヲ迷シ動スモノナリト)

友于

兄弟ノ親シク睦マシキヲ謂フ書經ニ惟レ孝ニ友于兄弟トアリ
于ハ於ナリ「ニトヨム友于兄弟ノ四字ノ中ヨリ兄弟ノ二字ヲ省キ友于
ノ二字ヲ取リテ名詞トナシタルナリ友于ノ二字ヲ取リテ名詞トナシ
タルハ唐宋以後ノ事ニシテ文學發達セシ時代ニ始マリシモノナリ實
ハ無理ナルコトナレトモ文學ニハ往々此類アリ「アナガチ非難スヘキ
コトニモアラズ

有智無智校アレバ三十里

智アル者ト智無キモノトハ事物ヲ
判斷スル上ニツキテ大變ナル相違アルト云フ譬ヘナリ世説ニ魏曹操
ガ或時曹娥ト云フ孝女ノ石碑ノ下ヲ過キシガ其石碑ノウラニ黃絹幼
婦外孫壘白ノ八字ヲ題セリ曹操讀ムコトヲ得ス其解釋ニ苦ミシガ時

スルニ譬フ肺腊ヒキクイ臙以テ滋膳ニ供シ(肺腊云々ハ肉ノ味ヒアルモノ)參木芝桂以テ病ヲ防ク(參求云々ハ漢藥ノ名今マ門下仁傑ヲ指ス)ニハ滋味多シ願クハ小人ヲ以テ(自カラ言フ辭)一藥石ニ充備セヨ(我ヲ採用シテ吳レ我汝ガ藥トナリテ汝ノ爲メヲ計ラシ仁傑笑ツテ曰ク君ハ正ニ吾カ藥籠中ノ物ニシテ一日モ無カルヘカラス(君ハ是非トモ僕ノ必用欠グ可ラサル人ト認ム)

藥石ヤクセキヲ蒙モウムル 人ノ箴規センキヲ謝スルノ辭ナリ(人ノ戒メ諭シ吳レタルヲ謝スルナリ)唐史ニ高馮上書シテ得失ヲ言フ太宗鍾乳一劑ヲ賜フテ曰ク卿藥石ノ言ヲ進ム當サニ藥石ヲ以テ之ニ報スヘシト(鍾乳トハ藥ノ至テ貴キ者ナリ人ノ戒トナル言ハ尙ホ藥ノ病ヲ攻ムルガ如シ石トハ石ノ針ナリ)

ゆの部

部 ノ ゆ

ニ從ヒ來リシ臣ニ楊修ト云フモノアリ文學人ニスグレタルモノナリ曹操之ニ問フテ曰ク汝チ之ヲ解スルヤ否ヤト修之ヲ知レリト曰フ曹曰ク吾ガ之ヲ解シ得ル迄待レヨ其解ヲ言フ勿レト行クコト三十里ニシテ曹曰ク吾之ヲ解セリト修ヲシテ別ニ其知ル所ヲ紙ニ記セシメ置キ然ル後ニ己ノ考ヲ以テ修ニ較ベテ見シニ少シモ誤リ無シ曹嘆シテ曰ク我才ハ卿オシガニ及ハス殆ント三十里ノ相違アリト云フ故事ニ本ツク「サテ右ノ八字ハ全ク隱語ニシテ黃絹トハ色絲ナリ色絲ノ二字ヲ一字トスレバ絶字トナル少女ノ二字ヲ一字トスレバ妙字トナル外孫トハ我ガ女ヒメノ子ナリ此ハ好字トナル蠶白トハ辛味アル食物ヲ受クル「ウス」ナリ因テ辛受ノ二字ヲ一字トスレバ辭字トナル(辭ハ辭ト同ジ)即チ絶妙好辭トナル曹操ハ三十里行キシ後ニ判斷シタリ楊修ハ直様判斷シタレバ曹嘆稱シテ曰ク我カ才ハ汝ニ及ハス乃チ三十里ノ違ヒアルヲ覺ルトナリ

行クニ徑ニ由ラス 論語ニ澹臺滅明ナル者アリ(澹臺ハ姓滅明ハ

名)行クニ徑ニ由ラストアリ(徑トハ路ノ小ニシテ捷道ヲ云フ小ニシテ

速ナル目前ノ慾ニ迷ハスシテ正キ道ヲ路ミ正則ニ事ヲ成ントスル心

ヲ云フ)史記ノ伯夷傳ニモ此語ヲ引ケリ

油然 落付テ平氣ナルコト又タ盛ナルコト何レモ形容詞ニ用ユ宋ノ

蘇東坡ノ留侯論ニ油然トシテ而シテ怪マストアリ(此ハ心ノ平氣ナル

コト)孟子ニ天油然トシテ雲ヲ作ストアル(此ハ盛ナルコト)

往者諫ム可ラズ來ル者ハ猶ホ追フ可シ 過キ去リシ事ハ

致方モ無ケレド今マ覺悟スレバ將來ノ事ハ考ヘ次第ニテ致方ガアル

ト云フコト往トハ過去ナリ來トハ將來ナリ論語ニ曰ク楚ノ狂接輿ナ

ルモノ歌ツテ孔子ノ門ヲ過キテ曰ク鳳ヤ鳳ヤ何ソ德ノ衰ヘタル往ク

者ハ諫ム可ラス來ル者ハ猶ホ追フ可シ已ンナン已ンナン今ノ政ニ從

フ者ハ殆シト(此時孔子將ニ楚ノ招キニ應シテ行ントセリ接輿ハ氣ガ

部 ノ ゆ

部 ノ ゆ

遠ヒタル振リシテ世ヲ避テ居ル世捨人ナレバ孔子ガ亂世ニ立テ人ヲ

治ムルヲ無駄ナリトシテ譏リシナリ鳳ハ支那人ノ貴ブ靈鳥ナリ治世

ノ時ニ見ハル者ト云ヘリ鳳ヲ以テ孔子ニ比シ其亂世ニ見ハルハ德ノ

衰ヘタルモノトセリ今迄ノ汝ノ考違ハ兎ニ角クモ今マ悔悟シテ早ク

我ノ如ク世捨人トナルベシ然ルトキハ汝ノ德ヲ全フスルヲ得ン

郵寄 書簡ナドヲ郵便ニ付シテ送り來ルヲ謂フ此語ハ後世ニ出來シ

語ナリ郵ハ驛ニ同シ昔ノシユクバノコト

悠悠タル行路ノ心 悠トハ遠キ貌ニシテ即チ縁ノ遠キ意ナリ行

路トハ行路人トテ從來ヨリ見ズ知ラサル人(路ヲ行ク人ハ互ニ相知ラ

ス)ノ心ナリ唐ノ張謂ノ長安主人壁ニ題スト云フ詩ノ後半ニ縱令然諾

暫相許終是悠悠行路心トアリ(タトヒ甲ト乙トガ初ノ程ハ互ニ相ヒ信

シテ兄弟モ及ハヌ程仲善クスレトモ此レ一時ノコトニテ一方ニ金ガ

無クナレバ見ス知ラズ縁薄キ他人ニ接スル如ク薄情ナル心ヲ以テ一

方ニ對スルコト、ナルト云フ意ナリ世ノ中ハ凡テ金バカリダト嘆セ

猶豫

物事ニツキテ疑多ク決スル能ハサルヲ謂フ豫字ハ或ハ與或ハ
預ニ作ル音同シキヲ以テ通スルナリ此ニハ二説アリ一説ハ猶モ豫モ
共ニ獸名トナス一説ハ猶ヲ獸名トシ豫ハハラカジメ物事ヲ疑ヒ慮ル
義トナス余思フニ猶豫ハ狐疑ノ語ト本ト相似タレハ狐疑ノ如ク猶ヲ
名詞トシ豫ヲ動詞トスル方宜カラシサテ猶ノ形ハ鹿ニ似テ善ク木ニ
登ル又タ善ク疑ヒ慮カル山中ニ居リテ若シ聲アルヲ聞クトキハ即チ
人ノ來ルカト恐レ直チニ木ニ登ル暫ラクシテ人無ケレハ然後ニ木ヨ
リ下ル須臾ニシテ又タ上リ須臾ニシテ又タ下ル此ノ如キコト一二ニ
シテ止マス故ニ猶豫ヲ言フテ決スル能ハサル義トナス吳子ニ兵ヲ用
ユル害ハ猶豫最モ大三軍ノ災ハ狐疑ニ生ストアリ

猶子

甥ヲ謂フ禮記檀弓篇ニ兄弟ノ子ハ猶ホ子ノゴトシトア

部

ノ

ゆ

リ

揄揚

人ヲ譽メ上ルヲ謂フ揚ハ擧ナリ揄ハ引ナリ

湯

湯ヲ以テ沸ヲ止ム 勞スレハ勞スルホド愈々益無キノミナラズ

害アルヲ謂フ沸騰セシ熱湯ヲヒヤスニハ水ヲ以テセサル可ラス或ハ
火ヲ消サザル可ラズ然ルニ湯ヲ以テ之ヲ止メントスルハ愈々功無キ
ナリ漢ノ董仲舒曰ク湯ヲ以テ沸ヲ止メ薪ヲ抱キテ火ヲ救フカ如ク愈
々甚クシテ益無キナリト又タ淮南子ニ湯ヲ以テ沸ニ沃グトアリ前ト
同意ナリ

雄飛

勢威善ク活動スルヲ謂フ雄ハオスノ如ク勢ノ盛ナル意ナリ後

漢書ニ趙溫歎シテ曰ク丈夫當ニ雄飛スヘシ安ゾ能ク雌伏セント(雌伏
ハ氣力弱クウツムキ、チバカマルコト雄飛ノ反對ナリ)

雄圖

大ナルハカリゴトヲ謂フ晋書ニアリ

遊目

ナガムルコトヲ謂フ史記ニ燕ノ遼東ニ遊目ス

部

ノ

ゆ

誘掖 敵へ導クコトヲ謂フ誘トハ導クノ意掖トハ扶クル意ナリ

輸贏 負勝ヲ謂フ輸トハ負ノ意ナリ贏トハ勝ノ意ナリ輸音シユナリ
贏ハ音、エイ、贏ハ、ルイ、弱キヲ云フ、贏モ、エイ、互ニ混ス可ラス又タ贏ハ音「ヲ」(裸贏トテ虫ノ名)

融々 心ノ和ラク形、左傳ニ其樂ヤ融々トアリ又タ春ノ「ノドカ」ナルヲモ謂フ

優游不斷 物事ニグヅ〜シテ決斷力ノ少キヲ謂フ漢書ニ文義ニ牽制シテ優遊不斷トアリ單ニ優遊トアルトキハ皆ナ善キ方ノ意味ニシテ「エー」ツクリ「ト」落付テアワテザル意ナリ

優遊 前條ニ出ツ

優孟ノ衣冠 外面バカリガ似テ居テ内實ノ似サルニ譬フ猶ホ俗ニ云フ藁人形ノ美服ヲ着ケタルコトキ意ナリ史記ノ滑稽傳ニ楚ノ大臣、孫叔敖死セリ俳優ノ名ハ孟ト云ヘルモノ人真似ガ上手ナレハ或時孫

部 ノ ゆ

叔敖ノ衣冠ヲツケテ掌ヲ抵チ調子ヲ取りナガラ談話セリ楚王及ヒ左右ノ臣ドモハ之ヲ別ツ能ハストアリ(真ノ孫叔敖ト別ツコト能ハス)

よの部

么麼 身體ノ細小ヲ謂フ么ハ小ノ義麼ハ細小ノ義ナリ一説ニ么ハ幼ナリ豕ノ最後ニ生ル、者ヲ俗呼ヒテ么豚ト爲スト後漢ノ班彪ノ王命

論ニ曰ク么麼尙ホ數子ニ及ハストアリ
天々 「ワカク」シテ美好キヲ謂フ詩經ニ桃ノ天々トアリ又タ「ワカジ」ニスルヲ天死ト云フ

天死 前條ニ出ツ

用間 敵ノ様子ヲ「サグリ」窺フモノヲ謂フ孫子ニ出ツ

用度 國家入用ノ財貨ヲ謂フ宋史ニ戶部軍國ノ用度ヲ掌ドル
羊質虎皮 外面ヲ「カザリ」タル偽モノヲ謂フ即チ羊ニシテ虎ノ皮ヲ

部 ノ よ

蒙フリタルナリ楊子法言ニ曰ク羊質ニシテ虎皮草ヲ見レハ説モロコビ豺ヲ見レハ戰フ其皮ノ虎ナルヲ忘ル、ナリト

羊腸

「ケハシキ坂路ヲ謂フ羊腸ハヒツジノハラハタニシテ屈曲シタル義ニ取リテ名ケシナリ呂氏春秋ニ其山盤紆マカリタルコト羊腸ノ

如シ

沃野

肥テ善ク物ノ生スル地ヲ謂フ漢書ニ沃野千里トアリ

甬道

墻ノ如キ者ヲ兩側ニ作り其中ヲ道トシタル者ナリ或ハ軍陣中ニ作ルコトアリ或ハ宮禁中ニ設クルコトアリ軍陣ノ甬道ハ輜重ヲ運

フ時ニ敵人ニ掠メラル、ヲ恐ル爲メニ作ルナリ宮道ノ場合ハ天子ノ通行セラル、爲メニシテ外人ノ見ルヲ防ク爲メナリ史記ノ始皇紀ニ曰ク甬道ヲ築クト又タ項羽紀ニモ在リ又タ韓退之ノ詩ニ雲詔凝禁甬トアリ

抑損

我が氣ヲ抑ホサヘ損ヘテシテ高ブラヌ様ニスルヲ謂フ史記ニ晏子ノ御

者カ妻ノ諫言ヲ聞キ入レテ自カラ抑損ストアリ

抑揚

音調ノ高低ヲ謂フ後漢ノ蔡邕ノ琴ノ賦ニ曰ク左手抑揚シ右手裴回ス繁絃既ニ抑ヘ雅韻乃チ揚ルト後世ニ至リ抑揚ノ語多クハ文勢ニ用ユ唐ノ柳子厚ノ韋中立ニ答フル書ニ曰ク之ヲ抑ヘテ其與ヲ欲シ之ヲ揚ケテ其明ヲ欲スト抑ヘルハ勢ヲ住メ貯ヘテヲクユカシク見セルナリ揚クルハ其勢ヲ激發シテ明正ナラシムルナリ

杳冥

暗キコトナリ杳モクシ冥モクシ

俑作

不善ナル事ヲ爲シ創ムル譬ニ用ユ俑トハ葬式ノ時ニ用キル木偶人ナリ古ノ葬ハ草ヲ束テ人ヲ作り以テ從衛トナス之ヲ芻靈ト謂フ略ホ人ノ形ニ似タリ中古ニ至テ之ニ易フルニ俑ヲ以テス俑ハ機關ヲ設ケテ能ク踊跳スル故ニ名ケテ俑ト曰フ故ニ孔子其不仁ヲ惡ミテ曰ク始メテ俑ヲ作ル者ハ其レ後無ランカト蓋シ俑トハ芻靈ヨリ進ミタル仕方ナリ面目鼻口等備ハリテ動キ踊リスルコト少シモ人ト

異ナラズ故ニ孔子ハ之ヲ以テ葬ニ供スルハ殉死ノシハジメテ作ス者トテ之ヲ惡ミテ曰ク始メテ工夫シテ備フ作りシ人ハ天罰ヲ受ケテ其子孫ノ種ガ絶エ其家ガ斷絶スルデアロウト痛ク嘆カレシナリ

洋々 人ノ多キヲ洋々ト云ヒ野原ノ廣キヲ洋々ト云ヒ音樂ノ盛ナル、又水ノ盛ナルヲ洋々ト云フ何レニシテモ形容詞又タ副詞ナリ其用處ニツキテ誤ラヌ様ニ解スベシ

要路 高官ノ地位ヲ謂フ要ハ顯要ノ義ナリ當路ニ略ボ同シ

容臭 香囊ナリ少年ノ腰ニツケテカザリト爲ス禮記ニ出ツ臭ハ「ヨキ」方ニモ惡シキ方ニモ用ユ必ズ惡臭ノ時ニ限ラス然ルニ現今ハ臭ヲヨ

キ方即チ香ノ字ニ用キズ凡テ惡臭ノ義ニ用ユルニ似タリ

容與 心ノ「ユツタリ」シタル狀ヲ謂フ即チ從容ト同義ナリ

窈窕 オクユカシク、靜カナルヲ謂フ場所ニモ人ニモ兩方ニ用ユ詩經關雎ノ篇ニ窈窕タル淑女トアリ品善キ女ト云フ義ナリ然ルニ窈字ヲ

部 ノ よ

直チニ美人ト誤解スルモノアリ注意スベシ

善游者 吾ガ長所ヲ以テ反テ失敗スルヲ謂フ淮南子ニ曰ク夫

レ善ク游モノハ溺レ善ク騎ルモノハ墮ツ各々其ノ好ム所ヲ以テ自カ

ラ禍ヲ爲ス

陽關三疊ノ曲 唐ノ王維ノ作クリタル送別ノ詩ヲ陽關ノ曲ト云

フナリ三疊ト云フハ此詩ハ七言絶句ナレハ四句アリ(一句七字、四七二

十八字トナル)其ノ四句中、第一句ハ一唱(一唱トハ一度吟誦スルナリ)ノ

ミ第二三四ヲ何レモ再唱ス故ニ三疊ト云フ即チ三句ヲ二度ヅツ重テ

吟スルヲナリ其詩ニ曰ク渭城朝雨浥輕塵、客舍青青柳色新、勸君更盡一杯酒、西出陽關無故人(此詩ノ題ハ王維ノ友人元二ト云ヘル人カ安西ト

部 ノ よ

部ノよ

市街ノ塵モ立タズ至極結構デアル折柄春ナレバ我ガ居ル客舎ノ四邊
 ニハ柳ガ糸ヲ垂レテ心地善キ程青々トシタリ然ルニ今ヤ戀シキ君ニ
 別レントス残念極リナシ君ヨ是非トモ今一杯ノ酒ヲ我ガ爲メニ飲ミ
 盡シテクダサレ強テ勸メルノデアアル其譯ハ君ガ西ノ方陽關ノ關所ヲ
 出テ、西域ニ行ケバ邊土ノ事大レバ知リ人モ友達モ無ケレバ君ニ一
 杯ノ酒モ勸ムル人ハ無キコト、思ヒ誠ニ「アハレ」ニ悲シク思フトナリ
 陽春白雪 詩文ナドノ調ノ高キヲ謂フ陽春白雪ハ本ト楚ノ都、郢中
 ニテ歌フ歌曲ノ名ナリ餘リ調高ケレバ人ノ之ヲ唱和スルモノ少シ文
 選ニ楚ノ宋玉楚王ニ對テ曰ク客郢中ニ歌フ者アリ下里巴人ヲ爲ス(下
 里巴人トハ歌曲ノ名ニシテ尤モ平凡ナリ)國中和スル者數千人ナリ(和
 シテ歌フ人)次ヲ向陽薤露ト爲ス(此モ歌曲ノ名、下里巴人ヨリハ少シ高
 尙ナリ)國中和スル者數百人ナリ(數千人ガ減シテ數百トナル)次ヲ陽春
 白雪ト爲ス國中和スル者數十人ナリ其曲彌々高ケレバ其和スル者彌

部ノよ

々寡シトアリ
 陽月 十月ノ異名ナリ此月ハ陰氣ノ盛ナル月即チ純陰ノ月ニシテ
 陽無キ嫌ヒアリ故ニ陽月ト曰フ
 雍熙ノ化 太平ノ治ト云フコト雍モ熙モ和意ナリ熙字熙ニ作ルハ
 俗ナリ老子ニ衆人熙々書經ニ黎民於變リ時レ雍グトアリ
 漸ク佳境ニ入ル 物ヲ食スルニ食ヘバ食フ程味ノ「デテクル」ヲ謂
 フ又々文章、詩歌談話、演說ナド之ヲ聞キ之ヲ見ルニ次第「ト面白キ
 所ニ入ル」ヲモ謂フ晋書ニ顧愷之、甘蔗ヲ食フ毎ニ末ヨリ本ニ至ル或ヒ
 ト之ヲ怪シム愷之曰ク漸ク佳境ニ入ルト「サテ」蔗ハ末ノ味ヒ淡泊ニシ
 テ本ニ至ル程其味ヒ厚ナリ因テ又々蔗境ニ入トモ云フ
 様ニ依リテ胡蘆ヲ畫ク 詩文ナドヲ作ルニ前人ノ詩文ヲ取り
 テ其中ノ二三文字ヲ改メテ以テ已ノ作トナシ更ニ發明スル所ナキニ
 譬フ凡テ何事ニ限ラス前例ヲ少シバカリ變更シテ其大體ニ於テ已ノ

創意スル所無キヲ謂フ様トハ形式ナリ葫蘆トハ瓜ノ類(ヒサゴ、フクベ、ヘチマ等ヲ指ス)瓜ハ至テ畫キ易キモノ况ンヤ畫ノ雛形ニヨリテ畫クヲヤ此語ハ宋初ノ俗語ニシテ其ノ爲シ易キヲ言フナリ宋ノ學士陶穀登用セラレント望ミテ成ラズ帝ヲ怨望ス太祖曰ク吾聞ク學士ノ制ヲ草スル様ニ依リテ葫蘆ヲ畫クノミ何ノ勞カ之レ有ント卒ニ之ヲ政府ニ登サズ(學士ノ制詔ヲ草スルハ前人ノ様式ニ依リテ作ルコトナレバ至テ易シ何ノ苦勞カアラント)

餘波 物事ノ餘リ又夕響キヲ謂フ書經禹貢ニ出ツ

餘裕 寛ルヤカニシテ迫マラザル貌ナリ孟子ニ吾ガ進退豈ニ綽々然トシテ餘裕アラサランヤト注ニ綽々トハ寛ナル貌裕トハ寛ナル意ナ

リト

餘桃 愛憎ノ變リ易キ人ヲ戒メタル喩ナリ韓非子ニ曰ク昔シ彌子瑕ナルモノ衛君ニ寵セラル君ト果園ニ遊ブ桃ヲ食フテ甘シ其半ヲ以テ

君ニ啖ハス君ノ曰ク忠ナルカナ其口ヲ忘レテ寡人ニ啖ハシム(已カ口ヲ忘レテナリ)彌子色衰へ愛弛ムニ及ンデ遂ニ罪ヲ君ニ得タリ君曰ク是レ嘗テ我ニ啖ハシムルニ餘桃ヲ以テセリト

餘沫 水ノトバシリヲ謂フ餘沫飛散ノ語アリ水ノ物ニ當リテ激スル

所ニ用ユ

餘燼 遺リノ民ヲ謂フ燼トハ火ノモエノコリト云フ義ナリ左傳ニ餘

燼ヲ收合ストアリ

餘烈 先祖ノ餘業餘威ヲ謂フ又夕希ニハ餘毒ノ意トモナル漢ノ賈誼ノ過秦論ニ六世ノ餘烈ヲ奮ヒトアリ(此ハ餘業餘威ノ意漢書公孫弘ノ傳ニ湯ノ早ノ若キハ則チ桀ノ餘烈ナリト(此ハ餘毒ノ意)

膺懲 膺ハ撃ツナリ懲ハコラスナリ近來多ク膺懲ノ師ト云フ語ヲ用

ユ此ハ義兵ヲ以テ有罪ヲ討スルノ意ナリ詩經ニ戎狄是レ膺チ荆舒是レ懲スト(荆舒ハ共ニ野蠻國ノ名)

輿人 衆人ヲ謂フ左傳僖公二十八年ニ晋ノ文公輿人ノ誦ヲ聽クトア

輿地 土地ヲ謂フ輿トハ車ナリ車ハ物ヲ載ス地ハ萬物ヲ載ス故ニ言

フ淮南子ニ天ヲ以テ蓋ト爲シ(蓋トハ車ノ覆ナリ譬ヲ取ル)地ヲ以テ輿ト爲スト

輿論 衆人ノ論ナリ(前條輿人參看)

輿言 大聲シテ言フナリ書經ニ出ツ

饗殮 朝食ヲ饗ト曰ヒ夕食ヲ殮ト曰フ孟子ニ饗殮シテ而シテ治ムト

部の部

耒耜 來モ耜モ共ニ田器ナリ(スキノ類)古ハ民未タ稼穡(米ヲ植付ケタ

リ獲取リノ)ヲ知ラス炎帝乃チ木ヲ斲リテ耜ト爲シ木ヲ揉メテ耒ト爲シ始メテ民ニ五穀ヲ藝ルヲ教フ(來トハ曲リシ田器ナリ柄ニアラズ)

洛陽紙貴 シ 晋書ニ晋ノ左思三都ノ賦ヲ作ル(魏吳蜀ノ三都)思ヲ構

フ(考ヘル)十年成ルニ及ンテ之ヲ皇甫謐(時ニ名譽甚タ高シ)ニ示ス謐大ニ善ト稱シ遂ニ之カ序ヲ爲クル是ニ於テ豪富ノ家相競フテ傳寫

ス洛陽(地名)之カ爲メニ紙貴シ(紙價高クナル)

落成 普請ノデキアガリタルヲ云フ左傳ニ楚子章華ノ臺ヲ成ス諸侯

ト共ニ之ヲ落ス(落トハ官室始メテ成リテ之ヲ祭ルノ名ナリ)

落款 書畫ノ落成(前條ニ出ツ)ノ證トシテ筆者ノ姓名ヲ記スコト款ト

ハ誠ノ義ナリ又々款識ノ語アリ款ハ陰文、識ハ陽文此レ款ノ字ニ二義アルナリ混ス可ラス(ク部款識ノ條參看)

落落 志氣ノ大ナルヲ謂フ後趙ノ石勒曰ク大丈夫事ヲ行フハ當サニ

落落 落落々、日月ノ皎然タルガ如クナルベシト(事ヲ爲ス公明正大ヲ要ス)

落魄 「オチブレタルヲ謂フ史記ニ酈食其家貧ク落魄トアリ

落莫 不景氣ニシテサビシキ形容、又々物事ヲ冷淡ニ取扱フ形容ナリ、

部の部

落落

落魄

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

落落

唐代ニ始マリタル語ナリ唐ノ韓退之ノ序文ニ落莫タラザルヤ否ヤトアリ

絡繹ラクキ 人馬ナドノ往來絶ヘサルヲ謂フ人馬絡繹ノ語アリ糸ノ長クツ

ソクノ義ヨリ出タルナリ

雷同ライドウ 説ノ善惡事ノ是非ヲ問ハスシテ其人ニ同スルヲ謂フ禮記ノ曲

禮ニ曰ク雷同スルコト勿レト雷ノ聲ヲ發スルヤ萬物同時ニ之ニ和シ

テ響キ應ス故ニ言フ

亂階ランカ 亂ノナカダチ又々亂ノ初ト云フ義ナリ詩經ニ職トシテ亂階ヲ

爲スト(職トハ專ラノ意階ハ「キザハシ」ハシゴダンナリ)

裸裎ヌテ 「ハダカ」ニナルコト孟子ニ我側ニ袒裼裸裎ストアリ(袒裼トハ「ハ

ダヌグ」コト裸字音「ナリ裸音クワン」ナリ混ス可ラズ)

犖确ラツカク 石ノ多キ土地ヲ謂フ(山地ナドハ多ク然リ)境确ト同義ナリ唐ノ

韓退之ノ詩ニ山石犖确行徑微ナリトアリ(石多クシテ小徑ガ塞ガレ)

磊落ライラク 心又ハ氣ノ秀テ大ナルヲ謂フ磊字ハ石衆キ貌因テ秀ノ義ト

ナル磊確ニ通ス落ハ大ノ義ナリ(前條落々參看)北史ニ辭氣磊落觀ル者

疲レヲ忘ルトアリ

磊砢ライカク 胸中ノ鬱積ヲ謂フ石ノ集リ「ワダカマル」様ニ取リテ譬ヘシナリ

此語多ク古人ノ詩句中ニ見エタリ

駱驛ラクエキ 人馬ナドノ往來絶ヘサルヲ謂フ文選ニ魯ノ靈光殿ノ賦ニ縱橫

駱驛各趣ク所アリ絡繹ニ同シ

闌干ランカン 涙ノ絶ヘズ出ル形容ナリ唐ノ白樂天ノ長恨歌ニ玉貌寂寞淚闌

干トアリ又タ「テスリ」ニ用キタル處アリ即チ欄杆ナリ

藍田玉ランテンタマ ナ生ズ 賢父賢子ヲ生ム譬ナリ藍田ハ地名ニシテ美玉ヲ出

ス故ニ言フ三國志ニ蜀ノ諸葛恪少フシテ才名アリ吳ノ孫權見テ之ヲ

奇トシ其父諸葛瑾ニ謂フテ曰ク藍田玉ヲ生スト眞ニ虛シカラサルナ

リトアリ

濫觴 物ノ始メヲ謂フ孔子家語ニ曰ク江始メ岷山ヲ出ツ其源以テ觴

ヲ濫ス可シトアリ(楊子江ノ岷山ヨリ發スル時ノ源ハ至テ細流ニシテ

觴一杯ノ水トモ云フベキ程ナリシガ東ニ流レテ平地ヲ得ルニ及ンテ

ハ實ニ廣大ナル海ノ如シ故ニ此ノ如キ大江モ其始メハ濫觴ナリ濫ト

ハ汎濫トテ水ノ溢フレ、コボル、ヲ謂フ觴一杯ノ水ヲ「コボシ」タル程ト

云フ義ナリ

羅盤 羅針盤ノ一即チ「ジシヤク」ノ類ナリ周公ガ指南車ヲ造リシハ羅

羅織 無罪ノ人ヲ集メ收メテ之ヲ有罪ニ落スヲ謂フ羅ハ網羅ノ義ニ

シテ網ニテ鳥ヲヒツカケ來ル如キ意ナリ織トハ罪ヲ織リ成ス義ナリ

又鍛鍊羅織トモアリ同義ナリ誓ヘハ刀劍ヲ「キタヒ」成ス如シ故ニ言フ

羅浮山 支那ニテ有名ナル山ナリ人之ヲ仙山ト曰フ今ノ廣東省惠

州府博羅縣ノ西北ニアリ山下ニ村アリ梅ヲ以テ名アリ古ヨリ風流韻

士ノ遊ヒシ地ナリ宋ノ蘇東坡嘗テ詩アリ曰ク羅浮山下梅花村玉雪爲

骨氷爲魂ト(梅花ノ白潔ヲ賞シテ斯ク言フナリ)

藍縷 敝衣ヲ謂フ蓋シ南方楚國ノ方言ナリ左傳宣公ノ條ニ「筆路藍縷

以テ山林ヲ啓クトアリ(筆路トハ柴ニテ作りタル粗末ナル車ヲ言フ敝

車敝衣ニテ勤勉スルヲ謂フ又タ藍縷トモアリ同義ナリ)

爛柯 圍棋ヲ觀テ年數ヲ經シコトヲモ忘レタル故事ナリ爛ハ腐敗ナ

リ柯ハ斧ノ柄ナリ述異記ニ晉時樵者(キゴリ)王質ナル者山中ニ於テ一

石室ヲ見ル中ニ二童子ノ棋ヲ圍ムニ逢フ童子王質ニ棗核(ナツメ)ノ如

キモノヲ與フ之ヲ食ヘハ少シモ飢ヲ感セス斧ヲ座ニ置キテ一意棋ヲ

觀タリ童子曰ク汝ノ斧柯既ニ爛セリト王質乃チ郷里ニ歸ル然ルニ同

時ノ人一人モ生存スルモノ無ク非常ニ長キ歲月ヲ山中ニ在リテ送り

シコトヲ知ラサリキト

爛醉 大醉ヲ謂フ爛ハ顔ノ赤クナリテ「タ」レントスル程ノ意ナリ

爛漫

物ノ十分ナル貌花爛漫ハ花ノ美ヲ直チニ言ヒシニアラズ花ノ盛リノ最中ト云フ義ナリ爛ハ熟スル義ナリ漫ハ大水ノ貌ナリ故ニ十分ニ満タルノ意トナル

鸞輿

天子ノ馬車ヲ謂フ鸞ハ鳳ノ種類ナリ金ニテ作りシ鈴ヲ謂フ蓋シ鈴ノ聲ヲ鸞鳥ノ鳴聲ニカタドリタルナリ馬ノクツワノ所ニアルヲ鸞ト曰ヒ車ノ横木ノ前(即チ軾)ニアルヲ和ト曰フ

鸞鳳

治聞記ニ蔡衡曰ク赤色多キ者ヲ鳳ト曰ヒ青色多キ者ヲ鸞ト曰フ(前條參着)

りの部

六韜三略

大公望ノ著ハス者ヲ六韜ト云フ三略ハ黄石公ノ著シシ者ナリ共ニ兵書ノ奥儀ヲ言ヒ盡シタル者ナリ三略トハ上畧中畧下畧ナリ六韜トハ文韜武韜龍韜虎韜豹韜犬韜ナリ(韜ノ義ハ胸ニ謀畧ヲ藏スルナリ龍虎豹犬ノ意ハ陳ヲ列スル勢ヲ指シテ言フ龍ハ能ク變化ス

六合

天地四方ヲ謂フ莊子ニ出ツ

六藝

禮、樂、射、御、(馬術)書、數、(算)ヲ六藝ノ科ト謂フ孔子ノ弟子三千人ニシテ其中、右ノ六科ニ通セシ者七十有二人(有トハ又ノ義ナリ)ト史記ノ仲尼世家ニアリ又タ六經ヲモ云フ(易、詩、書、春秋、禮記、樂記)ノ六ノ書籍ナリ併シ樂記ハ秦始皇ノ時、焚カレシヨリ遂ニ後世ニ傳ハラヌ故ニ今ハ五經ト曰フ(史記ノ滑稽傳ニ六藝ノ治ニ於ケル禮ハ以テ人ヲ節シ、樂ハ以テ和ヲ發シ、書ハ以テ事ヲ道ヒ、詩ハ以テ意ヲ達シ、易ハ以テ神化シ、春秋ハ以テ義ヲ道フトアリ)

六龍

天子ガ馬車ニ乗ラル、ヲ六龍ニ駕スト謂フ(併シ其中ニハ天下ヲ治ムルノ意ヲ含メリ)龍ハ龍馬ノ意ニシテ龍ト云フハ神駿ノ意ニ取リシモノナリ(即チ名馬ノ意)天子ハ馬六頭ヲ車ニ駕スルナリ易ニ時ニ六龍ニ乗シテ以テ天ヲ御ストアリ

六親 管子ニ上服度ナレハ則六親固シトアリ註ニ六親トハ父母兄弟

妻子ヲ謂フトアリ又漢書禮樂志ニ六親和睦ストアリ註ニ父子從父

昆弟從祖昆弟曾祖昆弟族昆弟ヲ謂フトアリ

六朝 東漢ノ末分レテ三國トナリ三國ノ後チ六朝トナル此ハ揚子江

ノ南即チ現今ノ南京建業建康金陵ナリニ都セシモノ吳東晉宋齊梁陳

ノ六代ヲ謂フナリ

立錐ノ地無シ 僅小ノ地モ無キヲ謂フ錐トハ「キリ」ナリ錐ハ先ノ

「トカリ」タル細小ノモノナレバ錐ヲ借リテ譬ト爲シ錐ヲモ立ツル程ノ

地ナシトナリ史記ニ秦六國ノ後ヲ滅シ立錐ノ地無カラシムトアリ

兩虎相ヒ鬪フ 「フタリ」ノ英雄ガ相ヒ争フヲ謂フ史記ニ出ツ又々

同書ニ兩龍相ヒ鬪フノ語アリ兩虎ノ喩ハ人善ク之ヲ用フ兩龍ノ喩ハ

之ヲ用フル者少シ

兩端 二心ヲ持ツヲ謂フ端トハ物ノ「ハシ」ナリ一方ノ「ハシ」ノミヲ執ラ

ズシテ兩方ノ「ハシ」ヲ執ルノ意ニシテ甲ニ從ハンカ又々乙ニ從ハンカ

ト心ヲ兩方ニカケルコトナリ

兩造 原告人被告人ヲ謂フ兩トハ二人ノ義造トハ「イタル」義ニシテ裁

判所ニ至ルナリ書經ノ呂刑篇ニ兩造具備トアリ(具備トハ訴訟事件ノ

證據ガ明カニ具ハルナリ)

兩制 「フタツ」ノ官省ナリ即チ宋代ノ翰林院ト中書省トヲ謂フ翰林ヲ

内制ト云ヒ中書ヲ外省ト云フ内制トハ制詔ノ文章ヲ草スルコトヲ掌

部

ハ

リ

李杜 古ヨリ詩ハ李杜(李太白ト杜甫共ニ唐人)ヲ稱シ書ニ至テハ鐘王

(鐘繇ハ魏人ナリ王羲之晋人ナリ)ヲ仰クノ語アリ李白ノ文ニ吾レ口ヲ

開ヒテ文ヲ成シ毫ヲ揮フテ霧ヲ散スト杜甫詩ヲ作ル善ク時事ヲ陳ス

世ニ詩史ト號ス鐘繇善ク隸書ヲ作ス坐スレハ則チ地ニ畫キ臥スレハ

則チ被ニ畫ク王羲之管テ池ニ臨ミ書ヲ學ブ池水盡ク黒シ(習字ヲ臨池

部

入

リ

ノ學ト云フ

良人

妻ガ夫ヲ謂フテ良人ト曰フ良人トハ善人ト言フ如シ猶ホ婦人ヲ稱シテ佳人ト呼ブ如キノミ孟子ニ曰ク其妻其妾ニ告ケテ曰ク良人トハ仰キ望ミテ而シテ身ヲ終ル所ノ者ナリ

良玉精金

人品ノ純粹ナルヲ稱ス程伊川程明道ノ行狀ヲ撰ス曰ク純粹精金ノ如ク溫潤良玉ノ如シト

良知良能

人間本然性ヲ言ヒシ辭ナリ良知トハ人ヨリ教ヘラレテ知リタルニアラス又タ我が苦ミ慮ハカリテ知リタルニアラス天然自然ニ知ル所ノ者ヲ云フ良能トハ人ヨリ教ヘラレテ能クスルニモアラス又タ我が學ヒテ能スルニモアラス天然自然ニ能シ得ル所ノ者ヲ云フ良トハ固有ノ善ニシテ持ツテ生レシ所ノモノナリ即チ二三歳ノ小兒ガ自然ニ我が親ニ「ナツキ」之ヲ愛スル如キハ是レ良知ナリ是レ良能ナリ孟子ガ性善說ヲ主張スルハ全ク此意ニ本ツク孟子盡心篇ノ上ニ

部

ノ

り

り

ノ

部

人ノ學ハズシテ而シテ能クスル所ノ者ハ其良能ナリ慮ハカラスシテ而シテ知ル所ノ者ハ其良知ナリ孩提ノ童モ(孩トハ笑フコトヲ爲シ得ル意提トハ或抱キ或ハ手ヲヒキ得ル意即チ二三歳ノ小兒ヲ指ス)其親ヲ愛スルコトヲ知ラサルハ無キナリ其長スルニ及ンテヤ其兄ヲ敬スルコトヲ知ラサルハ無キナリトアリ

良心

前條參看

良藥、口ニ苦シ

忠言ハ人ノ氣分ニサカラフコトアルモ「ツマリ其人ノ利益トナルノ譬ナリ藥ハ口ニ苦シト雖モ身體ノ病ヲ治スルナリ說苑ニ孔子曰ク良藥、口ニ苦ケレドモ病ニ利アリトアリ又タ史記留侯世家ニ忠言ハ耳ニ逆フモ行ニ利アリ毒藥ハ口ニ苦ケレドモ病ニ利アリトアリ

良辰美景

良辰トハ良キ時候美景トハ良キ風景春ノ花、秋ノ紅葉ト凡テ春秋ノ好時節ニ用フル語ナリ

良工苦心

文學美術其他ノ技藝ニ優レタル人ヲ良工ト曰フ此等ノ人ハ其技術ニツキテ常ニ計畫スル所アリテ人知ラヌ苦心多キヲ謂フ

良賈深藏

賢德アル人ハ己ノ智能ヲ中ニカクシテ外ニ顯ハサルニ譬フ良キ商賣人ハ貨物ヲ「ヤタラ」ニ店前ニ陳列シテ人ニ「ホコル」コトヲ爲サスシテ奥深ク之ヲ藏シ置キ善キ價ヲマチテ始メテ持チ出ストナ

リ史記ニ老子曰ク吾レ之ヲ聞クニ良賈ハ深ク藏メテ虚ガ如ク君子ハ盛德アリテ容貌愚ノ若シト

利器

刀劍ノ善ク切レルモノヲ謂フ之ヲ人ニ譬フレバ其人ノ材智技倆ヲ謂フ後漢書ノ虞詡ノ傳ニ盤根錯節ニ遇ハサレバ何ヲ以テ利器ヲ

別タンヤト(ハ部盤根錯節ノ條參看)

利用厚生

古ノ聖人ガ人民ノ爲メニ凡百ノ器物ヲ作り貨財ノ融通ヲ爲シテ其用ニ供シ又タ衣食ノ道ヲ計リテ其生活ニ資スルヲ謂フ(即チ經濟ノ道ナリ)書經ノ大禹謨ニ正德利用厚生惟和トアリ

里閭

同フス 甲乙故郷ヲ同シクスルヲ謂フ閉トハ門ナリ楚ノ方言ナリ前漢ノ傳ニ縮(人名)自カラ閉ヲ同フストアリ

俚言

俗言ヲ謂フ前漢書司馬遷傳贊ニ質ニシテ而シテ俚ナラストアリ俚トハ鄙俗ノ義ナリ

流離

諸處ニ「サマヨフ」ヲ謂フ水ノ流ノ散スルガ如ク人民ノ窮困シテ分散離處スルナリ

流連荒亡

何事ニヨラズドウラクニ流レテ國政家政ヲ省ミサルヲ謂フ孟子梁惠王篇ニ流ニ從ヒテ下リテ而シテ反ルヲ忘ル之ヲ流ト謂フ(舟ヲ挽キテ水ニサカノボリテ樂ムナリ)獸ヲ從フテ

厭クコト無キ之ヲ荒ト謂フ(禽獸ヲ獵シテ之ニ耽ケルナリ)酒ヲ樂ミテ厭クコト無キ之ヲ亡ト謂フトアリ(流連荒亡ハ戰國當時ノ常言ナリ荒

モ亡モ同意ニシテ唯タ字面ヲ變ヘテ言ヒシ迄ナリ即チ職業ヲ廢棄ス

ル意ナリ

流言 リウゴン 根モ葉モ無キ言ヲ謂フ水ノ流ルルガ如ク虚説キョセツ(ウソ)ノ傳ハリ行

クナリ荀子ニ流言流説トアリ

流矢 リウシ ドコトモナク飛ビ來ル矢ナリ又タ流丸ノ語モアリ同義ナリ

流丸 リウクワン 前條ニ出ツ

流觴曲水 リウショウキョクスイ (キ部曲水ノ條ニ出ツ)

柳營 リウエイ 將軍ノ居ル處即チ幕府ヲ謂フ此ハ前漢ノ周亞夫(周勃ノコト)ガ

細柳(地名)ニ陣セシ故事ニ本ヅク細ノ字ヲ畧シテ柳營ト云ヒシモノナリ漢書ノ周勃傳ニ漢ノ文帝ガ細柳ニ營セシ將軍周亞夫ノ所ニ幸シ自カラ其軍ヲ勞シ玉ヒケリ(時ニ匈奴大ニ邊ヲ侵ヌ周亞夫兵ヲ將ヒテ之ニ備フ)然ルニ天子ノ先驅ノ騎兵軍門ニ至ルモ入ルヲ得ズ先驅曰ク天子且ニ軍門ニ至ラントスト都尉曰ク(都尉トハ一部隊ノ將校)軍中ニテハ將軍ノ令コソ聞クモ天子ノ詔ヲ聞ク能ハス既ニシテ帝至ル又タ入

部 ノ り

門ヲ得ス是ニ於テ帝乃チ特ニ使ヲ遣ハシ吾入リテ軍士ヲ勞セントスル由ヲ周亞夫ニ告ケシム亞夫乃チ門ヲ開カシム門ヲ衛ルノ兵士天子ノ從騎ニ謂ツテ曰ク將軍ノ命令ヲハ軍中ニテ恣ニ馳驅スルヲ得サルナリト是ニ於テ帝乃チ轡ヲ按シテ(シカト引キ持ツ)徐行シテ營ニ至ル將軍周亞夫兵器ヲ持チナガラ埃揚シテ曰ク軍士ハ拜セス乞フ軍禮ヲ以テ見エント(拜セスシテ揖セリ揖トハ禮ノ輕キモノニテ我國ニテ云ハハ一寸會釋スル義ナリ)文帝大ニ嘆賞シテ曰ク嗟乎此レ真ノ將軍ナリト

柳絮 リウキョ 柳ニ生スル雪ノ如ク綿ノ如キモノヲ謂フ此ハ柳花ノ落チタル

後ニ其實熟シ其ガ綿ノ如ク亂レ飛ブモノヲ指ス唐ノ杜甫ノ詩ニ生憎

柳絮白於綿トアリ

柳暗花明 リウアンカメイ 柳ハ之ヲ眺ムレバケムリタル如クボト暗ク見ユルモノ

ナリ花ノ開キタルハ實ニアザヤカニ明カナルモノナリ故ニ古ノ詩

人ハ柳暗花明ト歌ヒテ以テ春時ノ風景ヲ吟賞セリ誠ニ評シ得テ妙ト云フベシ宋ノ陸放翁ノ詩ニ山重水複疑無路柳暗花明又一村トアリ
凌駕ス 人ヲオサヘテ我レガ上ニ出ツルヲ謂フ凌トハシノグナリ駕トハ上ニ乗ルナリ

陸梁 「アチラ」コチラトアバレ走ルヲ謂フ文選ノ西京賦ニ怪獸陸梁トアリ又タ跳梁強梁ノ語アリ鼠ナドノ屋柱ヲ東西ニオドリ走リテ横着スルヲ謂フ人ノ横着ニモ用ユ

陸沈 隱者トテ世ヲ厭ヒテ世間ト交リヲ絶チテ隱ル、コトヲ謂フ蓋シ人中ニ隱ル、者ハ之ヲ水無クシテ沈ムニ譬ヘシナリ莊子ノ則陽篇ニ方ニ且ツ世ト違ヒ而シテ心之ト俱ニスルヲ屑シトセサルハ是レ陸沈ナリトナリ又タ國家ノ衰頽滅亡スルヲ陸沈トモ謂フ

陸離 參差又タ雜亂ト云フ義ナリ即チマジリテキラ／＼スルコトナリ光彩陸離ノ語ハ諸書ニ見ユ楚ノ屈原ノ離騷ニ斑トシテ陸離其レ上

部 ノ り

下ストアリ

梁上君子 盜ノ稱ナリ漢書ニ陳寔ト云ヘル人アリ夜盜アリテ室ニ入り梁ノ上ニ居ル寔陰カニ見テ起ツテ子孫ヲ呼ンテ之ヲ戒メテ曰ク夫レ人ノ不善ナルハ未タ必スシモ本ト惡ナルニアラズ習慣性ヲ成シテ遂ニ此ニ至ル梁上ノ君子是レナリト盜聞キテ大ニ感シ地ニ投シテ罪ニ歸ス

隆準 鼻ノ高キヲ謂フ史記ニ漢高ハ斗胸ニシテ隆準斗胸トハ其胸廣キナリ

陵轢 「オサヘ」シノグヲ謂フ陵ハ犯スナリ轢ハ踏ムナリ前漢書灌夫傳ニ宗室ヲ轢轢ストアリ陵ハ凌又タ轢ニ通ス

陵雲ノ志 志氣ノ雄大ナルヲ謂フ又タ顯達ノ志ヲ謂フ天ヲシノグノ意ナリ唐ノ張象曰ク丈夫雲ヲ凌キ世ヲ蓋フノ志アリテ而シテ下位ニ拘セララルハ拘ハ身ノ自由ナラヌヲ云フ身ヲ矮屋ノ下小屋ナリニ立

部 ノ り

テ頭ヲ擡ゲ得サルガ若シト又タ高尙ニシテ俗人一異ナルヲモ謂フ(陵
凌相通ス)

陵夷 國勢ノ衰フルヲ謂フ陵ハ丘陵ノ陵即チ「オカ」ナリ夷ハ平ナリ「オ
カ」ノ次第ニ低ク平ナル如クニ次第ニ衰フルナリ前漢書成帝紀ニ日ニ

以テ陵夷ストアリ

陵遲 丘陵ノ次第ニ「ユルク」平ナル意ナリ遲トハ緩慢ナリ(大意前條ニ
全シ)史記ノ樂書ニ治道虧缺シテ鄭音興起シ(國亂レテ淫靡ナル音樂ガ

盛ナリ)陵遲シテ以テ六國ニ至ルトアリ

陵替 下ガ上ヲ犯シ侮リ上ノ權勢ガ衰フルヲ謂フ左傳ニ下陵上替能
ク亂ル、コト無ランヤ

陵谷ノ變 世ノ中ガ様々ニ變遷スルノ喩ヘナリ桑滄ノ變ト云フニ同
シ陵ガ變シテ谷トナリ谷カ變シテ陵トナル意ナリ詩經ニ高岸ハ谷ト

爲リ深谷ハ陵ト爲ルトアリ

部 ノ リ

梨園 今ノ謂フ所ノ俳優ナリ綱鑑大全ニ唐ノ玄宗皇帝開元二年ニ樂
工數百人ヲ選ヒテ自カラ法曲ヲ梨園ニ教フ(雍錄ニ梨園ハ光化門ノ北

ニアリ)之ヲ皇帝梨園子弟ト謂フ(梨園ニテ音樂ヲ教ヘシ故事ニ本ツキ
途ニ梨園社會ノ語アルニ至ル)唐ノ白樂天ノ長恨歌ニ梨園弟子白髮新

ナリトアリ(此ハ玄宗皇帝ガ安祿山ノ亂ニ長安ノ都ヲ落チ延ヒテ蜀ヘ
幸セラレ凡ソ三年間モ留マリ居ラレタレバ梨園弟子ドモガ之ヲ憂ヘ

テ頭髮ガシラガトナリシトノ意ナリ)

留連 久シク留ルヲ謂フ晋ノ陸機ノ文ニ留連旬餘トアリ

稜威 神若クハ天子ノ威勢ヲ謂フ邦語ノ「ミイツ」ニ同シ稜トハ「カド」ノ
アル義ナリ威勢アル人ハ必ス「カド」アルモノナリ又タ威稜トモ言フ南

史梁武帝紀ニ稜威直指勢ヒ風電ニ躡ユトアリ

梁肉 美食ヲ謂フ梁トハ粟ナリ列子ニ曰ク衣ハ則チ錦ヲ衣食ハ則チ

梁肉居ハ則チ權ヲ連子(大家ヲ言フ)出ルニハ則チ駟ヲ結フ(四頭ダテノ

部 ノ リ

馬車ナリ

領袖

領ハ衣ノ「エリ袖」ハ「ソデ」ナリ「エリ」ト「ソデ」トハ人ノ目ニ立ツ所ノ物ナレバ人ノ「テホン」メジルシトモ仰カル、人ヲ謂フ又タ人ノ上ニ立ツ「カシラ」ノ義トモナル(則チ今日ノ謂フ所ノ首領ナリ)晋書ニ時人「之カ語ヲ爲シテ曰ク後進ノ領袖、裴秀アリ(裴秀ガ立派ナル人物ナレバ新進子弟ノ儀表トモナルノ意ナリ)又タ同書ニ文帝曰ク魏舒ハ堂々、人ノ領袖ナリトアリ

綸言

天子ノ「ミコトノリ」オホセヲ謂フ禮記ノ緇衣篇ニ王言「綸」ノ如ク其出ツル綸ノ如シ王言綸ノ如ク其出ツル綸ノ如シ故ニ大人ハ「游言」ヲ倡ストアリ(綸ハ「糸」ヨリ粗ク大ナリ、綸ハ「棺」ヲ引ク綱ニテ又タ綸ヨリ大ナリ)天子ノ言ハ譬ヘハ其初メハ細ナル「糸」ノ如キモ其出デ、外ニ行ハル、ニ及ンテハ其響キ中々小ナラズ漸々大トナリテ綸ノ如シ又ダ王言ノ初メハ譬ヘハ綸ノ如キモ其出テ、外ニ行ハル、ニ及ンテハ其

部 ノ り

部 ノ り

言漸ク大トナリテ綸ノ如シトナリ此ハ糸ヲ以テ譬ヘタルモノニシテ天子ノ言ハ細小ナルモ其影響スル所ハ大ナレバ一言半句タリトモ輕シク言フ可キモノニアラズ餘程大切ナルモノナリ故ニ綸言ト云フ游言トハ無根不定ノ言ナリ此ハ君子タルモノノ苟クモ言フ可キコト、アラズトナリ)又タ綸言「汗」ノ如シト云フ語アリ此ハ漢書劉向傳ニ令出スハ汗ヲ出スガ如シ汗出デ、而シテ反ラサル者ナリ出シテ而シテ之ヲ反スハ是レ反汗ナリトアリ(此意ハ天子ノ言ハ一タビ出レバ之ヲ取消スモノニ非サルヲ言フ汗ハ體內ヨリ外ニ出レハ復タ本ニ収マルモノニ非ス若シ天子ノ言ニシテ取消シ得ヘシトスレハ是レ汗ヲ體內ニ反スナリ決シテ此理無キナリ

寥廓

寥廓ト謂フ司馬相如ノ蜀ノ父老ヲ難スト云フ文ニ「鷦鷯、寥廓ノ字ニ翔ルトアリ(鷦鷯ハ鳳凰ニ似タル神鳥ナリ翔ハ飛ヒ舉カルナリ)又轉シテ人ノ顯位ニ上ルヲ寥廓ノ上ニ致スト謂フ

閭閻

身分ノ賤シキヲ言フ閭ハ里門ナリ閻ハ里中ノ門ナリ因テ村里ト云フ義ナリ(古ハ二十五家ヲ一里トス里ニ門アリ)史記ニ李斯閭閻ヲ以テ諸侯ヲ歴入リテ秦ニ事フトアリ又々同書越世家ニ莊生窮閻ニ居ルト雖モ廉直ヲ以テ國ニ聞ユトアリ(此ノ窮閻ハ片田舎ニアル賤シキ人ト云フ意ナリ)

閭巷

里中ノ町ヲ謂フ此語ハ多ク片田舎ノ意ナリ又々閭巷ノ人トカ閭巷ノ小人トカ言ヘハ民間ニ居ル人又々田舎ノ賤シキ人ト云フ意ナリ史記ニ季次原憲ハ閭巷ノ人ナリトアリ

綠林

盜賊ノ異名ナリ綠林ハ地名ニシテ本ト謀反人ガ此地ニ集リテ亂ヲ爲セシアルニ因ルナリ漢書王莽傳ニ南郡ノ張霸江夏ノ羊牧王匡等雲杜ノ綠林ヨリ起ル號シテ下江ノ兵ト曰フト

輪奐ノ美

家屋ノ構造ノ立派ニシテ大ナルヲ謂フ輪トハ高大ノ意奐トハ美麗ノ意ナリ禮記檀弓篇ニ晉ノ獻文子室ヲ成ヌ張老曰ク美ナル

哉輪焉美ナル哉奐焉ト

履霜ノ戒

禍ノ未タ至ラサル前ニ戒メ防クヲ謂フ易ニ霜ヲ履ミテ堅氷至ルトアリ(寒クナリテ足ニテ霜ヲ履ムニ至レバ)ヤガテ堅氷ヲ見ルハ時ハ至ルナリ霜ヲ見ルハ氷ヲ見ルノ前兆ナリ氷ノ未タ結ハサルニ先チテ注意セヨトノ意ナリ)

凜然

説文ニ凜ハ寒ナリ寒氣ノ感スル形容ナリ俗ニ寒サガゾツトスル意ナリ又々恐レ感スル形容ニモ用ユ又々威嚴ノ有ル形容ニモ用ユ

龍鐘

老テ衰フ貌ナリ談録ニ我カ龍鐘ヲ見ル故ニ相戲ルノミト頼山陽ノ詩ニ龍鐘白首爲誰雄ノ句アリ又々涙ヲ垂ル、貌トモナル唐ノ岑參ノ詩ニ雙袖龍鐘淚不乾トアリ(口部潦倒ニ同シ)

龍顏

龍ト云フ字ハ總テスグレタル意ニ用ユ因テ天子ノ御顔ヲ謂フ(古ヨリ貴キ人相ヲ多ク龍ト云ヘリ)

龍驤虎視

勢威ノ強キヲ謂フ即チ雄飛ノ意ナリ(エ部雄飛參看)驤トハ

舉カル義ナリ龍ノ天ニ上ル如ク虎ノ目ヲ怒ラシテ視ルガ如キナリ三國志ニ諸葛亮孔明ノ素志ハ進ミテ龍驤虎視四海ヲ包括セント欲ス(天下ヲ包ミ括リテ取リ上ルナリ)

龍顔 ナ探ル 領トハ「アゴ」ナリ古ヨリ龍ノ領下ニ珠アリト傳フ之ヲ取シガ爲メ探クルナリ危険ナル事ヲ企テ、奇功ヲ立ツルニ譬フ(虎穴ニ入ラサレバ虎子ヲ得スト云フ語ト同意ナリ)莊子列禦寇ノ篇ニ曰ク夫レ千金ノ珠ハ必ス九重ノ淵驪龍ノ領下ニ在リ能ク珠ヲ得ル者ハ必ス其睡ニ遭ハン(珠ヲ得ルニハ龍ノ眠ヲ利用シテ探リ取ラサル可カラス)驪龍ヲシテ寤メシメバ尙ホ奚ゾ微モ之レ有ランヤ(若シ龍ガ眠ヲ覺サバ夫レコソ大變ナリ身體ハ微塵ニ碎カレ一命危キナリ微モ有ラントハ微細ニ碎カレテ身體ガ我が有トナラズノ意ナリ)

龍駒鳳雛 幼年又ハ青年ノ者ニシテ才ノ秀テタルヲ謂フ龍駒トハ駿馬ノ子ナリ鳳雛トハ鳳凰ノ子ナリ晉書ニ晉ノ陸雲六歳ニシテ能ク文

ヲ屬ス兄ノ陸機ト名ヲ齊シクス時ニ二陸ト號ス吳ノ閔鴻見テ之ヲ奇トシテ曰ク此兒若シ龍駒ニ非サレハ當サニ是レ鳳雛ナルベシト

龍種 龍ノ子ナリ即チ賢子ニ譬フ然レトモ頼山陽ノ筑後河ノ詩ニ擁護龍種同生死トアルハ征西將軍懷良親王ヲ指シテ云ヒシナリ故ニ天子ノ種ヲモ龍種ト云フヲ得ヘシ

龍泉太阿 名劍ナリ越絶書ニ楚王風胡子ヲシテ吳越ニ之キテ歐冶子干將(人名)ニ見エテ之ヲシテ鐵劍三枚ヲ爲ラシム一ヲ龍泉ト曰トニヲ太阿ト曰ヒ三ヲ上市ト曰フト

龍頭蛇尾 始メ盛ニシテ終リノ衰フルニ譬フ(處女脱兎ノ譬ニ畧ホ同シ)此レ佛語ニ本ヅク傳燈錄ニ惜ム可シ龍頭翻シテ蛇尾ヲ成ストアリ龍ヲ盛ノ義ニ譬ヘ蛇ヲ衰ノ義ニ譬ヘ頭ヲ始メニ譬ヘ尾ヲ終リニ譬フ

龍鳳ノ姿 人相ノ秀テタルヲ謂フ唐書ニ太宗生レテ四歳ノトキ書生アリテ之ヲ見テ曰ク龍鳳ノ姿天日ノ表必ス能ク世ヲ濟ヒ民ヲ安ント

天日ノ表トハ天子トナルシムル徴アルヲ言フ蓋シ太宗ノ名ヲ世民ト曰フニ
ヨリテ後世ノ史家ガ脩飾シタル造リ事ナリ

遼東ノ豕

妄リニ自カラ奇ト稱スル者ヲ遼東ノ豕ト謂フ(己ノ愚ナルヲ知ラズシテ自カラ賢ト稱スル者)後漢書ノ朱浮傳ニ漢ノ漁陽ノ太守彭寵武帝ノ爲メニ糧ヲ運ヒテ力ヲ盡セリ天下太平ナルニ及ンテ己レ功アレト賞セラレサルヲ以テ頗フル不滿ノ意アリ朱浮ナルモノ之ニ書ヲ與ヘテ曰ク昔シ遼東ニ豕アリ古來ヨリ皆黒シ子ヲ生ムニ及ンデ白頭ナリ異トシテ之ヲ天子ニ獻セントス行キテ河東ニ至ル群豕ヲ見ル皆白シ慚チテ而シテ退クト若シ子ノ功ヲ以テ朝廷ニ論ゼバ則チ遼東ノ豕ナラント

臨池

習字ヲ謂フ後漢ノ張芝字ハ伯英草書ヲ善クス凡ソ家ノ衣帛必ス書シテ之ヲ練ニス(此時ハ未タ紙アラス故ニ衣帛ニ書ス)黒クナレバ又タ洗ヒテ之ヲ白ニシ而シテ復タ書ス(池ニ臨ミテ書ヲ學ブ)池水盡ク

黒シト

離群索居

友達ノ群ヲ離レテ獨リ居ルヲ謂フ索ハ散スル意ナリ禮記

檀弓篇ニ出ツ

離間ス

甲ト乙トノ間ニ入りテ双方ノ交情ヲ惡クスルヲ謂フ間トハ

「ヘダツ」ノ義ナリ

瀏覽

通觀スルヲ謂フ淮南子ノ原道篇ニ出ツ又タ瀏覽ニ作ル

瀏亮

清明ナルヲ謂フ笛聲瀏亮ハ聲ノサエテ明カナルナリ此語晋ノ

陸機ノ文賦ニ出ツ

るノ部

累遷

シキリニ官ガ昇ルヲナリ並々ノ人ノ如ク規則的ニチリク進ムムハアラズ又タ超遷ト云フ語アリ此ハ飛ビ超ヘテ進ムナリ累遷トハ異レリ又タ累進ト云フ語アリ累遷ニ同シ其他累贈ナド云フ語モ之ニ準シテ知ルベシ

累代累葉 何レモ同シ意ニシテ幾代ヲカサチタルナリ

累卵 ヨリモ危シ 至テ危キヲ謂フ今マ卵ヲ積ミ累チントスレバ忽チ

落テ破レルナリ其危険ナルヲ此上モナシ史記ノ范雎傳ニ曰ク秦王ノ

國ハ累卵ヨリモ危シ巨ヲ得レバ則チ安ケント(臣トハ范雎ノ自カラ言

フ辭ナリ)文選ニ累卵ノ危ヲ去テ永安ノ計ニ就クハ豈ニ美ナラズヤ又

タ漢書ノ鄒陽傳ニ曰ク臣恐クハ長君累卵ヨリモ危カラント其他累棋

ノ語アリ其意ハ累卵ニ同シ棋トハゴイシナリ累チタルゴイシハ實ニ

險呑ナリ

累々 長ク連ナル狀ヲ謂フ疊字ニ通ス又タ孔子家語ニ孔子魯ヲ去ル

トキ累々トシテ喪家ノ狗ノ若シトアリ(此所ノ累々ハ身體ノ衰ヘツカ

レタル狀ヲ謂フ喪家ノ狗トハ主人ノ家ヲ失ヒテ飲食セサル狗ヲ謂フ

喪ハ失フノ義ニシテ喪アル家ト云フ義ニハアラズ)

縲紲 累ハ黒キ繩ナリ縲ハシバルナリ論語ニ曰ク子公冶長ヲ謂フ妻

ハスベシ縲紲ノ中ニ在リト雖モ其罪ニアラズト其子ヲ以テ之ニ妻ハ

スト(縲ハ黒キ索ナリ縲ハシバルナリ古ハ獄中黒索ヲ以テ罪人ヲ拘束

ス今マ公冶長ハ罪人トナルト雖モ固ト冤罪ニシテ立派ナル君子ナレ

バ我女ヲ以テ彼ノ妻ニ遣ハスベシトノ意ナリ)

れノ部

令子 人ノ子ヲ稱ス唐ノ鄭餘慶ノ子涵敢言シテ諱ム所ナシ(直言シテ

遠慮セス)憲宗皇帝餘慶ニ謂フテ曰ク涵ハ卿ノ令子ニシテ朕ガ直臣ナ

リ更ニ相ヒ賀スヘシト

伶人伶官 樂人ヲ言フ黃帝ノ世伶倫ナルモノ音樂ヲ造ル故ニ伶人伶

官ト稱ス左傳ニ晉侯楚囚鍾儀ガ族ヲ問フ(鍾儀晉軍ニ囚ハル晉侯因テ

其氏ヲ門フ)對ヘテ曰ク伶人ナリト之ニ琴ヲ與ヘシム南音ヲ操ツル(鍾

儀ハ楚人ナリ故ニ南方楚ノ音聲ヲ作ス)

冷語 冷笑スル語ヲ言フ(ヒヤカシアザケル)外史ニ孟潘曰ク其冷ヲ以

テ氷人ニ語タルヲ欲セサルノミト

囹圄

獄屋ヲ謂フ獄中ニ在ルヲ囹圄ノ中ニ在リト謂フ囹圄ハ領ナリ

ハ禦ナリト風俗通ニ曰ク夏ニハ夏臺ト曰ヒ殷ニハ羗里ト曰ヒ周ニハ

囹圄ト曰フト

玲瓏

玉ノ如クスキトホリテ美シキヲ謂フ又タ玉ノ聲トモナル唐ノ

白居易ノ詩ニ樓閣玲瓏五雲起(宮殿ノ立派ナルヲ云フ)柳宗元ノ詩ニ橘

袖玲瓏透夕陽(三カノ色ノ美クシク夕日ニスキトホルヲ云フ又タ梅

堯臣ノ詩ニ黃金絡馬聲玲瓏タリ(聲ヲ形容ス)

連篇累牘

文詩ノ多キヲ謂フ北史ニ隨ノ李譔書ヲ上ツルニ連篇累牘

皆月露ノ形ヲ出テス索ニ積ミ箱ニ盈ツルモノ盡ク是レ風雲ノ狀ナリ

(風流文字ニシテ形容語多キヲ言フ)

連衡

力部合從ノ條ニ出ツ

連橫

前條ニ同シ

部 ノ れ

連坐

一人罪ヲ犯セバ他ノ者ニマテ其罪ガ連ナリ及ブヲ謂フ坐トハ

「マキゾエナリ(カ、リアヒ、ヒキアイ、ヲ云フ)史記ノ商鞅ノ傳ニ民ヲシテ

什伍ヲ爲シ相ヒ収司連坐セシムト(十家一組、五家一組トシテ組中ノモ

ノハ互ニ法ヲ犯サヌ様平生監督視察セシムルヲ収司ト謂フ司トハ伺

察スルコトナリ若シ一家罪アラバ他ノ十家五家ノモノ皆ナ相連リテ

罪ニ及フナリ)

連城ノ壁

古ノ寶玉ナリ韓非子ノ卡和篇ニ楚人卡和ナルモノ嘗テ玉

璞ヲ楚山ノ中ニ得タリ(璞トハアラタマニシテ未タ剖セズ磨セサルモ

ノ之ヲ楚ノ厲王及ヒ武王ニ獻ス玉人(玉細工人)ニ之ヲ鑒定セシム玉

人之ヲ石ト爲ス王怒リテ和氏ガ己ヲ欺クモノトナシ始メ其左足ヲ刖

リ次ニ又タ其右足ヲ刖レリ和氏乃チ玉ヲ抱キテ三日三夜楚山ノ中ニ

於テ聲ヲ擧ケ悲メリ遂ニ涙盡キテ曰ヨリ血ヲ出スニ至ル既ニシテ文

王立チ之ヲ聞キテ其玉ヲ取り玉人ヲシテ其璞ヲ理セシム果シテ立派

部 ノ れ

ナル玉ナリケリ因テ之ヲ和氏ノ玉ト名クトアリ此壁後チニ趙王ノ有
トナレリ秦ノ昭王十五城ノ地ヲ以テ其壁ト交易シタシト申シ越シタ
リ趙王謂ヘラク壁ヲ與フモ彼ハ城ヲ渡サルベシ若シ玉ヲ與ヘサレ
バ秦ニ伐タレン如何セント心配セシガ此ニ智勇兼備ノ藺相如ナルモ
ノアリテ王命ヲ奉シ壁ヲ持テ秦ニ使ヒシ秦王ノ意向ヲ探リ見シニ秦
王ハ十五城ヲ渡ス心無ケレバ相如ハ遂ニ其壁ヲ全フシテ趙ニ還リ來
レリ唐ノ楊炯ガ夜送趙縱ノ詩ニ趙氏連城壁由來天下傳ト歌ヒシハ則
チ此レナリ(一城ニアラズシテ十五城ナレバ連城トハ云フナリ)

部 ノ れ

廉問 廉察訪問スルヲ謂フ

零落 草木ノ枯レ落ツルヲ謂フ零ハ落ナリ又タ人ノオチブレタル意
ニモ用ユ

零丁 不遇ヲ謂フ獨行志ヲ失フ狀ナリ零丁或ハ伶仃ニ作ル又タ伶仃
跲丁ニ作ル皆ナ同義ナリ晋書李密傳ニ零丁孤苦成立ニ至ルトアリ

零碎 「サ、イナル」チイサキ物ヲ謂フ又タ「クダクダ」シキ事ニモ用ユ零ハ
説文ニ餘雨ナリトアリ因テ零ハ餘ノ義ナリ碎ハ「クダケル」ノ義ナリ

黎民 人民ヲ謂フ黎ハ黒ナリ黒髮ノ民ノ意ナリ一説ニ黎ハ庶ナリト

黎明 「夜明方」ヲ謂フ黎トハ黒ナリ黒ト明トノ間ノ意ナリ

輦轂ノ下 京城ヲ謂フ輦轂ハ天子ノ馬車ナリ因テ皇居ノ下ノ義トナ
ル司馬遷ガ任安ニ報スル文ニ出ツ

歴階 イソギテ階段ヲ上ルヲ歴階シテ上ルト謂フ一階毎ニ兩足ヲ「カ
ケ」ズシテ一足ヅ「カケ」テ上ルナリ此レ急「グ」狀ナリ左傳史記ニ出ツ

歴々 物ノ眼前ニ列ナル狀ヲ謂フ古樂府ニ歴々種「白楡」トアリ

歴仕 二人以上ノ君ニ仕ヘシヲ謂フ禮記月令ノ註ニ歴ハ猶ホ次ノ「ゴ
ト」シトアリ(即チ次ギ「ク」ニ仕ヘル義)

歴覽 普ネク觀ルヲ謂フ歴ハ盡ナリ徧「ク」之ニ及ブ義ナリ又タ歴觀ノ
語アリ之ニ同シ

部 ノ れ

歴亂

「マシリ、ミダレ」タルヲ謂フ歴ハ亂ナリ鮑照詩ニ黃絲歴亂不可治トアリ又タ花ノ咲キ亂レタルニモ用ユ

藜藿

粗末ナル食物ヲ謂フ藜ハアカザ藿ハ豆ノ葉ナリ淮南子ニ糲糲ノ飯藜藿ノ羹トアリ(糲糲トハ米ノ精サルモノ)粗末ナル飯ナリ羹トハ「アツモノ」即チ吸物ナリ)

禮酒設

人ヲ待遇スル禮ノ衰ヘシヲ云フ楚ノ元王穆生ト交リ善シ生酒ヲ嗜マズ王毎ニ醴ヲ設ケテ之ヲ待ツ王戊位ニ即クニ及ンデ宴ヲ設クルニ當リテ醴ヲ設クルヲ忘ル生曰ク以テ去ルベシ醴酒ノ説ケザルハ王ノ意怠ルナリト(醴ハ甘キ酒ナリ下戸ナレバ然カ爲スナリ)

激澗

波ノ連ナルヲ謂フ小波ト解スルハ誤ナリ文選ノ木玄虛ガ海賦ニ激澗激澗天ヲ浮ヘテ岸無シトアリ(海ノ廣大ヲ説ケリ李善ノ註ニ激澗ハ流行ノ貌激澗ハ相ヒ連ナル貌トアリ)

蠶

以テ海ヲ測ル 見識ノ小ナルヲ謂フ又々自カラ謙ヲ用ユ

靈臺

心ヲ謂フ莊子ニ曰ク萬惡靈臺ニ内ルヘカラス

ろ 部

老蚌珠

メ部明珠老蚌ニ出ツノ條ニ出ツ

老牛舐犢

我ガ子ヲ愛スルト云フ謙遜語ナリ老タル牛ガ犢ヲ愛スルノ餘リ其體ヲ舐ルナリ後漢書ノ楊彪傳ニ楊彪漢祚ノ將サニ終ラントスル見テ脚攀ト稱シテ復タ行カス(漢ノ天下ガ滅ヒントスルヲ

見テ脚ノ屈曲シ疾アルト稱シテナリ其後子楊修曹操ニ殺サル、操彪ヲ見テ問フテ曰ク公何ゾ瘦スルノ甚シキヤ答テ曰ク日磾ノ先見ノ明無キヲ悔ユ猶ホ老牛舐犢ノ愛ヲ懷クト曹爲メニ容ヲ收ム(日磾トハ金日磾ナリ此ハキンビツテイトヨムベシ前漢ノ孝武帝ノ時ノ人霍光ト共ニ昭帝ヲ助ケテ大功アリ)

老成 物事ニタケテチリアゲタ人ヲ謂フ又タ老ヲ宿老ノ意ト解シテ

舊臣ノ功アルモノヲモ謂フ詩經ニ老成人無シト雖モ尙ホ典刑有リト(此ハ後ノ老成ノ意ナリ)

老婆心 念ヲ入レテ心ヲ盡クスヲ謂フ此レ佛語ナリ傳燈錄ニ老婆心

ノ切ナルガ爲メトアルニ本ツク

老耄 年取リテオイボレタルヲ謂フ年七十以上ヲ耄ト言フナリ

老驥伏櫪 英雄ノ老イタルヲ謂フ魏ノ武帝(曹操ノ子)ノ樂歌ニ老驥伏櫪志千里ニ在リ烈士暮年壯心未タ已マズトアルニ本ツク(櫪トハ馬ヲ

養フ器ナリ老イタル名馬ガ今ヤ厩ノ中ニツナガレテ食物ノ養ヲ受ケ最早昔ノ如ク馳驅スルコトハ出來ザルモ尙ホ千里ヲ走ントスルノ壯ナル志ハアルナリ暮年トハ晩年ニ同シ又タ漢書梅福傳ニ伏櫪千駟ノ語アリ)

狼狽 物事ニアワテタルヲ謂フ狼ハ前足絶ダ短ク常ニ狼ノ体ニヨリカ

ハリテ行クナリ故ニ狼ガ狼ヲ失ヘバ動クコト能ハス因テ人事ニ譬ヘシナリ右ハ酉陽雜俎ニ出ツ

狼子野心 狼ハ山野ノ根性アリテ人ニ馴レサルヲ謂フ(ヤ部野心ノ條ニ出ツ)

狼籍 物ノサンザンニ取り亂レタルヲ謂フ(多キ意味ヲ含ム)狼ノ性ハ能ク戻ル且ツ物ヲ害スル不仁ノ獸ナリ不仁ナレバ物ヲ遺棄シテ甚タ愛恤セサルノ意アリ此意ヲ引伸シテ物ノ地上ニ取り亂レテ多キコトヲ狼藉ト云フ藉ハ縱横ノ貌ナリ戰國策燕策ニ曰ク趙王狼戾ニシテ親

無シト又タ孟子藤文侯上篇ニ曰ク樂歲ニハ粒米狼戾趙注ニ狼戾ハ猶
ホ狼藉ノゴトシ又タ淮南子覽冥訓ニ曰ク流涕狼戾止ム可ラス高誘注
ニ狼戾ハ猶ホ交横ノゴトシ又タ漢書燕刺王旦ノ傳ニ曰ク首籍々兮亡
居注ニ籍々ハ縱横ノ貌トアリ以上ノ諸說ヲ合セテ考フレハ狼藉ハ物
ノ縱横散亂義ナリ通鑑演義藉ヲシクト解シ狼ガ臥ス時ハ草ヲ藉キテ
其上ニ臥シ去ル時ハ其草ヲ散々ニ亂シテ立ツト云フハ俗說ニシテ取
ルニ足ラス且ツ廣雅釋詁ニ云フ狼ハ斲ナリ斲ハ即チ戾ナリ狼戾ハ一
聲ノ轉ト(狼戾狼藉同義ナレハ互ニ融通シテ解スルヲ得ベシ)

狼戾

人道ニ「サカラヒ」モトルヲ謂フ(委シク前條ニ出ツ)

狼顧

物事ニ恐ル、ヲ謂フ蓋シ狼ハ兎角後ヲ顧ミルノ癖アリ(狼ノ頭
ハ後ニ向フモノナリ)其性卑怯ナレバナリ戰國策ニ秦深ク入ヲ欲スト

雖モ則チ狼顧シテ韓魏ノ其後ヲ議センコトヲ恐ルト

鹵簿

儀仗兵ヲ謂フ(前後ニアリテ導キ從フ行列ノ兵)鹵ハ櫓ナリ櫓ハ

盾ナリ蓋シ古ハ車駕ノ行列ニハ甲及ヒ盾ヲ着シタル者ガ外ニ居リテ
之ガ前導ヲ爲ス而シテ一々皆ナ之ヲ帳簿ニ著ハス(記錄ス)故ニ言フ漢
官儀ニ出ツ

鹵掠

カスメ奪フヲ謂フ鹵ハ虜ノ義ナリ

鹵莽滅裂

粗畧ニ物事ヲ爲スヲ云フ莊子ニ曰ク君政ヲ爲ス鹵莽ニス
ルコト勿レ民ヲ治スル滅裂ニスルコト勿レトアリ(政事ヲスルニモ人

鹿鳴燕

昔シ郡邑ヨリ推選セラレテ都ニ上リ試験ニ應スル人ヲ送ル
爲メニ宴ヲ開ク之ヲ鹿鳴ノ燕ト云フ燕ハ宴ニ同シ鹿鳴ハ詩經ニアル

詩ナリ嘉賓ヲ宴スル意ヲ歌ヘリ

稂莠

苗ヲ害スル草ナリ害惡ノ人ニ譬フ稂モ莠モ似タル草ニシテ和

名ハグサト云フ水田中ニ生シテ稻ノ生長ヲ害ス詩經ニ稂ナラス莠ナ
ラストアリ

路馬^{ロバ} 君ノ車馬ヲ謂フ路トハ大ノ義ナリ禮記ニ公門ニ下リ路馬ニ式^{シキ}

ス(君門ノ前及ヒ君ノ車馬ニ對シテ臣下タルモノハ敬禮ヲ表スルナリ)式トトハ軾ニシテ車上ノ横木ニ手ヲ置テ禮スルナリ)

僂指^{ロウシ}

指オリ數フルヲ謂フ僂ハ屈ナリ即チ屈指ト同シ

碌碌^{ロクロク}

庸常ナリ平凡ナリヤクニ立タヌナミノ人ナリ史記平原君

傳ニ秦ガ趙ヲ攻ム趙ノ平原君門下ノ文武備具スル者二十人ヲ選ヒテ楚ニ往キテ救ヲ求メントス十九人ヲ得タリ毛遂ナル者其數ニ備ハラシタヲ求ム十九人之ヲ目笑ス(目ニテ知ラセテ笑フ)既ニ至リ從約ヲ定ム毛遂十九人ノモノニ謂ツテ曰ク公等碌々人ニ因テ事ヲナスト又タ漢書蕭曹ノ贊ニ肅何曹參ハ秦ノ刀筆吏(筆紙ヲ執リテ働ク小役人)ヨリ起リ録々トシテ未タ奇節アラズト又タ後漢書馬援傳ニ曰ク今マ更ニ共ニ陸々トアリ以上ノ録々碌々陸々皆同義ニシテ相隨從スル狀ヲ云フ

ろ 部

潦倒^{ロウドウ}

龍鐘ト同義ナリ(リ部ニ出ツ)

魯陽戈^{ロウヤクゴ}

淮南子ニ魯陽公韓ト難ヲ構フ戰ヒ酣ニシテ日暮ル戈ヲ援リテ之ヲ揮ク日返ルト三舍(按スルニ三舍ハ三竿ノ意ナリ)

魯魚帝虎^{ロウイコテイコ}

字ノ書キ誤リヲ謂フ抱朴子ニ云フ書ノ誤寫ニ魚ヲ以テ魯ト爲シ帝ヲ以テ虎ト爲ス者アリト蓋シ魚ノ字ト魯ノ字又タ帝

ノ字ト虎ノ字ト相似タリ誤リ易シ故ニ言フ

盧生ノ夢^{ロウセイノユメ}

盧生ガ呂翁ナル仙人ニ邯鄲市中ニ出逢タル故事(カ部邯鄲

ノ夢ノ條ニ出ツ)

螻蟻^{ロウギ}

(ト部吞舟ノ魚ノ條ニ出ツ)

臚列^{ロレツ}

臚列トハ陳序ナリ(ナラベツラヌ)八家文ノ評語ニ一々臚列スル

ノ語アリ又タ賓客ヲ順序能ク並ヘテ禮ヲ以テ應接スルニモ用ユ爾雅疏ニ曰ク臚列トハ禮ヲ以テ賓客ヲ陳叙スルナリト昔シ外國ヨリ來リシ使者ヲ應接引見スルニ鴻臚館ト云フモノアリ矢張此義ニ本ヅキテ

ろ 部

名ケシモノナリ

壘斷 利ヲ占メ貪ボルヲ謂フ孟子ニ曰ク賤丈夫ナル者アリ必ス壘斷ヲ求メテ之レニ登リ以テ左右ニ望ミテ市ノ利ヲ罔ス人皆以テ賤トナス云々岡ナドノ斷ヘテ小高キ處ヲ壘斷ト云フ其處ニ上リテ下ヲ見テ利益ノアルコトハ逃サズ己一人占メ取ル意ナリ

隴ヲ得テ蜀ヲ望ム 物ニアキ足ルヲ知ラズシテ慾ノ深キヲ謂フ後漢光武紀ニ上既隴右ヲ平ケテ曰ク人自ラ足ラサルヲ苦ム既ニ隴ヲ得テ復タ蜀ヲ望ムト隴ハ隗囂ノ居ル地蜀ハ公孫述ノ據ル所ナリ帝既ニ隴ヲ滅シテ又タ蜀ヲ取ラント欲ス晋志ニ曰ク司馬懿曹操ニ言フテ曰ク今マ漢中ニ克ツ益州震動ス(震ヒ恐レル)兵ヲ進メテ之ニ臨マバ勢ヒ必ス瓦解セン(大ニ崩レル)瓦ノ碎ケテ全カラサル如シ操曰ク人足ラサルニ苦ム既ニ隴ヲ得テ復タ蜀ヲ望ムト隴ハ今ノ陝西省ノ地蜀ハ今ノ四川省地ナリ

ろ 部

臘月 十二月ヲ謂フ蓋シ臘トハ本ト十二月ノ祭ノ名ナリ因テ轉シテ十二月ノ義トス説文ニ百神ヲ臘祭ストアリ(臘ハ萬物ヲ合聚シテ之ヲ饗祭スル義ナリ)夏ニハ清祀ト曰ヒ殷ニハ嘉平ト曰ヒ周ニハ蜡ト曰フ秦ノ惠文王ノ時ヨリ初メテ臘ス始皇三十一年ニ又タ臘ヲ更メテ嘉平ト爲ス

露布 古ヘ戦功ヲ奏スル文書ヲ謂フ露トハ封セスシテ外ニ見ラハス義ナリ布トハ布帛ノ義ナリ隋志ニ後魏功戦アル毎ニ天下ノ聞知センヲ欲シ乃チ帛ニ書シテ之ヲ竿上ニ建ツ名ケテ露布ト爲ス

わ の 部

吾儕 吾等ト云フニ同シ左傳ニ申叔時曰ク吾儕小人謂ユル諸ヲ懷ニ取リテ之ヲ與フモノナリトアリ

和光同塵 「リコウ振ラズ」人ト争ハズシテ愚ナル風シテ「クラマシ」居ルヲ謂フ俗ニ云フ「郷ニ入りテハ郷ニ從フ如キ有様ヲ指ス老子ニ曰ク其光ヲ和シ其塵ニ同シクストアリ此ニ本ツク

ろ 部

和韻

詩林ニ曰ク凡ソ韻ヲ和スト云ヒ次グト云フ同事ナレモ和トハカリ云フ時ハ本詩ノ心ヲ受ケテ挨拶ヲスルカ返答ヲスルカ何サマ心得アル時ニ云フ次トバカリ云フ時ハ只タ本詩ノ韻字ヲ次キ用ユルバカリニテ詩ノ心ハ何ニテモ宜シ別ニ挨拶モ入ラサルナリト

和氏ノ璧

(レ部連城ノ璧ノ條出ツ)

淮南

豆腐ノ異名ナリ山堂肆考ニ曰ク淮南王(漢ノ淮南王劉安ナリ)始メテ豆ヲ磨シ乳脂トナシ(乳ノ如ク白シ故ニ謂フ)名ケテ豆腐ト曰フト又タ豆腐ヲ黎祁トモ稱ス

矮屋

「テゼマキ」家屋ヲ言フ又タ自宅ヲ謙遜シテ言フ「モアリ唐ノ張豨華陰ノ簿トナル(縣令ノ下ニ使ハル官吏縣令ノ爲メニ抑ヘラル歎シテ曰ク丈夫凌雲ノ志(高ク天ヲ衝クノ志)アリテ下位ニ拘セラルハ身ヲ矮屋ノ下ニ立ツルガ若シ人ヲシテ頭ヲ擡ゲ得ザラシムト乃チ罷メ去ル(上官ガ我ヲ抑ヘテ出世セシメザルハ丁度天井ノヒクキ家ニテセ

部 ノ わ

部 ノ わ

ノビヲセントスレモ「頭ガツカヘテ」デギザルニ同シ馬鹿(シヤ)

禍ヲ嫁ス

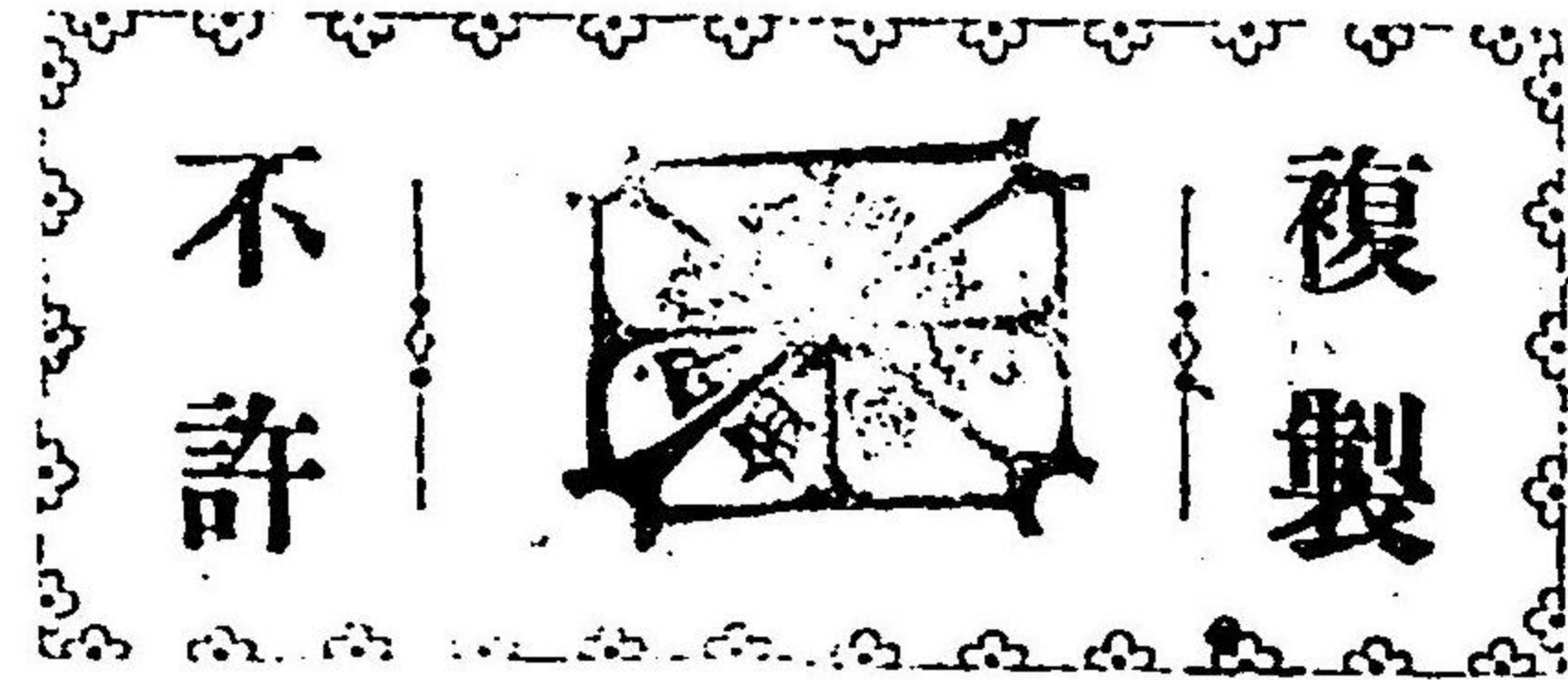
己レ禍ヲ逃レテ人ニ蒙ラシムルヲ謂フ史記ニ秦韓ヲ伐ツ韓ノ上黨(郡名)ノ守馮亭ナルモノ民ト謀リテ上黨ヲ以テ趙ニ歸ス使ヲヤリ趙ノ平陽君ニ告ケシメテ曰ク是レ禍ヲ嫁セント欲スルナリト

話欄

談話ノ「タ子」ト云フ義ナリ話柄ト同ジ欄モ柄モ皆同義ニシテ刀ノ「ツカ」ナリ「ツカ」ハ手ニテ執ル所ナレバ轉シテ執リテ話ノ「タ子」トスルノ義ト爲ル又タ刀欄ノ語アリ

故事 熟語 漢文摘語要解 終

不許漢譯



明治四十年六月十三日印刷

明治四十年六月十七日發行

(漢文摘語要解與附)

[正價參拾錢]

著者 杉山 孚 富次
 發行者 金刺 源
東京市神田區今川小路一丁目五番地

發行者 武田 元 吉
東京市牛込區肴町三十二番地

印刷者 羽田 恭 輔
東京市本郷區湯島一丁目二番地

印刷所 株式會社 葆光 社
東京市本郷區湯島一丁目二番地

發行所 金刺兄弟出版部

東京市神田區今川
小路一丁目五番地

金刺 芳流 堂

東京市牛込區
肴町卅二番地

武田 芳進 堂

販賣所

東京市神田區裏神保町	武藏屋	東京市日本橋區數寄屋町	林平次郎
同市 同區 裏神保町	東京堂	同市 同區 大傳馬町	文林堂
同市 同區 今川小路	岡崎屋	同市 同區 才銀町	大洋堂
同市 同區 錦町	勉強堂	同市 京橋區 南傳馬町	目黒書店

地方大賣捌所

大 阪 市 備 後 町 四 丁 目
 同 市 同 町 四 丁 目
 同 市 南 本 町 四 丁 目
 名 古 屋 市 本 町 三 丁 目
 京 都 市 寺 町 通 二 條 下
 廣 島 市 鹽 屋 町
 熊 本 市 新 二 丁 目
 久 留 米 市 米 屋 町
 高 知 市 種 崎 町
 鹿 兒 島 市 松 山 通 仲 町
 同 市 中 町
 仙 臺 市 大 町 五 丁 目
 金 澤 市 片 町
 新 潟 市 古 町 通 六 番 町
 同 市 古 町 通 六 番 町
 長 野 市 大 門 町
 長 野 縣 松 本 町
 福 島 縣 郡 山 町
 盛 岡 市 肴 町
 札 幌 區 南 一 條 西 二 丁 目

小 谷 三 郎 助
 吉 岡 宅 代 書 平
 三 川 瀨 林 善
 積 長 崎 善
 長 崎 縣 次 書 郎
 菊 本 竹 崎
 澤 永 本 竹 崎
 久 田 永 本 竹 崎
 吉 田 幸 兵 衛 堂 吉 郎
 沽 田 幸 兵 衛 堂 吉 郎
 宇 都 宮 堂 幸 兵 衛 堂 吉 郎
 北 松 光 宮 堂 幸 兵 衛 堂 吉 郎
 万 松 光 宮 堂 幸 兵 衛 堂 吉 郎
 西 松 光 宮 堂 幸 兵 衛 堂 吉 郎
 松 榮 堂 喜 太 書 郎
 磐 岳 堂 喜 太 書 郎
 佐 々 木 堂 喜 太 書 郎
 富 貴 堂 喜 太 書 郎

